

1998 AIDS 文化フォーラム in横浜

実施報告書



日時： 1998年8月7日（金）から9日（日）
会場： かながわ県民センター
主催： 1998 AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会
共催： 神奈川県
後援： 横浜市/川崎市/横須賀市

総 合 目 次

1998 AIDS文化フォーラムin横浜

| | | |
|-----------------------------------|-------|-------|
| ●ごあいさつ | ----- | 1 |
| ●開催概要 | | |
| ・開催経過 | ----- | 2 |
| ・実施概要 | ----- | 3 |
| ・プログラム | ----- | 4~5 |
| ・会場風景 | ----- | 6~7 |
| ・会場図 | ----- | 8 |
| ●プログラム報告 | ----- | 9 |
| ・発表プログラム | ----- | 10~35 |
| ・展示プログラム | ----- | 36~41 |
| ・ライブトーク TVドラマ「神様もう少しだけ」 | ----- | 42~49 |
| ・大塚敦子写真展 | ----- | 50~51 |
| ・関連プログラム | ----- | 52 |
| ●集計・評価・記録 | ----- | 53 |
| ・入場者の内訳と集計 | ----- | 54 |
| ・入場者の推移 | ----- | 55 |
| ・アンケート調査集計 | ----- | 56~57 |
| ・ボランティアマニュアル | ----- | 58~60 |
| ・見聞録 | ----- | 61~63 |
| ・広報実績一覧 | ----- | 64 |
| ・新聞等への掲載記事 | ----- | 65~74 |
| ・ボランティアの時代にさきがけて～AIDS文化フォーラムから学ぶ～ | ----- | 75 |
| ・支えた個人及び団体 | ----- | 76 |

ごあいさつ

1994年から5年継続して「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催できたことを皆様とともに感謝し、喜びを分かち合いたいと思います。

今年もこのフォーラムはボランティアの力による市民のための手づくりフォーラムとして手弁当型で運営することができました。

今年は「エンパワーメント～自立と共働にむけて～」というテーマとし、76の幅広い内容のプログラムを展開できました。1998年度の参加者数は5694名を数え、昨年の4607人から約1000人増えました。参加者の地域は北は北海道から南は沖縄まで、さらに海外からはドイツとアメリカからの参加がありました。全国唯一、最大の市民によるAIDSフォーラムであることが確認できました。

今年も会場の運営は14歳から72歳までの年齢の市民ボランティア、141名が支えました。特にこれからの世代を担う10代、20代のボランティアが増えたことはうれしい限りでした。

このフォーラムの社会的な背景としては、

1. HIV/AIDSの治療薬が増え、「HIV感染は慢性病になった」と言われる一方で、地域で生活する人々のサポート等の新たな課題が見えてきました。
2. しかし、国際エイズ会議が開催された年にもかかわらず、社会的関心が低下し、マスコミ報道も減少しています。

今年度のフォーラムの内容については、どのプログラムも充実した内容でしたが、今回は「ポジティブネットワーク」の方々の2つのプログラムを含めて8つのプログラムでHIVに感染している当事者の方がプレゼンターとなっていたことは非常に意義あることであったと思います。医療、福祉、教育、セクシュアリティ、等の分野以外にボランティア等の社会問題についての関心も高まっています。

3日間のフォーラムが手弁当型で行われたことは大変なことでしたが、それだけに成功裏に終了した喜びをすべての方々と分かち合いたいと思います。心より感謝申し上げます。私たちのAIDS文化フォーラムは常にその時々ニーズに敏感に応え、新しい試みをする場であり続けようと願って止みません。皆様の今後の活動に期待しながら「1998AIDS文化フォーラムin横浜」の報告とさせていただきます。

「AIDS文化フォーラムin横浜」組織委員会 委員長 広瀬 誠
同 実行委員会 委員長 長沢 勲

開催概要

開催経過

今回で5回を数えたAIDS文化フォーラムのこれまでの開催経過を振り返ります。

1994年8月に開催された「第10回国際エイズ会議」に連動し始まり、医療関係者中心の国際エイズ会議に対し、市民のための国際エイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で、国内外のNGOが集い、様々な視点からHIV/AIDSの問題に取り組みました。県国際交流協会を主会場に9日間、62プログラム4,305名の参加者と偏見と差別でのみ語られたAIDSという病気に対する市民レベルの新しいアプローチに高い評価を得ました。

第2回文化フォーラムは、『ここでの成果を一過性のものに終わらせることなく、継続して欲しい』という全国のAIDSに係わるNGOの強い要望を受け、95年8月に開催しました。「ともに生きる」というテーマで3日間、31プログラムに2,200名の参加を得ました。また、この年から横浜YMCAで「AIDSボランティア育成講座(県委託事業)」もスタートし、その受講生のフィールドワークの場として文化フォーラムの運営に参加し、幅広い世代のボランティアは延べ179名にもなりました。

第3回文化フォーラムは、96年8月に「ともに生きるから連帯へ」というテーマで3日間、34プログラムに1,600名の参加がありました。ボランティア育成講座の卒業生が「かながわレッドリボンクラブ」を組織してプログラム参加をし、川崎市でもボランティア講座がスタートするなど、フォーラムを支える人たちが多彩になってきました。しかし残念なことに、参加者の減少、プログラムのマンネリ化、AIDSに対する社会的関心が低くなるという課題も出てきました。

第4回文化フォーラムは、前回は評価、検証し実行委員会主催シンポジウムを開催し、フォーラムの方向性を示し、より多くの一般の参加を得るため、映画等の文化的なアプローチとともに、積極的にNGO団体等に、教育や企業、PWAとう視点から参加を呼びかけました。「未来への集い」というテーマで97年8月に、3日間76プログラムに4,600名の参加を得て開催しました。さらに、3回までの会場からかながわ県民センターに移し、様々な挑戦をした年でした。

今回は、98年8月の3日間で76プログラムに5,694名の参加者を迎え開催することができました。「エンパワーメント～自立と共働にむけて～」というテーマで国際AIDS会議が開催された年にもかかわらずマスコミ報道も減少し、社会的関心も低下している背景の中では全国37都道府県から、そしてドイツやアメリカからの参加があり、全国最大の市民によるAIDS文化フォーラムであることが確認できた上、今回行われた8つのプログラムにHIVに感染している当事者の方がプレゼンターとして参加するなど、大変意義のある年になりました。

| | |
|---|--|
| <p>1994年(第1回) 会期: 8月6日～14日 会場: 県国際交流協会他 主催: AIDS文化フォーラム組織委員会 共催: 神奈川県 後援: 横浜・川崎・横須賀市 実施: AIDS文化フォーラム実行委員会 プログラム: 会場内58 会場外4 テーマ: 市民と海外NGOによるAIDS会議 参加者数: 4,305名</p> | <p>1995年(第2回) 会期: 8月11日～13日 会場: 県国際交流協会 主催: AIDS文化フォーラム組織委員会 共催: 神奈川県 後援: 横浜・川崎・横須賀市 実施: AIDS文化フォーラム実行委員会 プログラム: 会場内31 テーマ: とともに生きる 参加者数: 2,200名</p> |
| <p>1996年(第3回) 会期: 8月9日～11日 会場: 県国際交流協会 主催: AIDS文化フォーラム組織委員会 共催: 横浜・川崎・横須賀市 実施: AIDS文化フォーラム実行委員会 プログラム: 会場内34 テーマ: とともに生きるから連帯へ 参加者数: 1,600名</p> | <p>1997年(第4回) 会期: 8月8日～10日 会場: かながわ県民センター 主催: AIDS文化フォーラム組織委員会 共催: 横浜・川崎・横須賀市 実施: AIDS文化フォーラム実行委員会 プログラム: 会場内76 テーマ: 未来への集い 参加者数: 4,607名</p> |

「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」実施概要

期 日 1998年8月7日(金)～8月9日(日)

場 所 かながわ県民センター

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

テーマ エンパワーメント～自立と共働に向けて～

入 場 自由

参加費 無料

主 催 「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会

唐崎 旬代(横浜YWCA)

川本 譲次(横浜商工会議所エイズ問題対策懇談会)

川久保 一利(かながわともしび財団)

榊原 高尋(横浜いのちの電話)

田代 正樹(横浜青年会議所)

濱尾 文郎(カトリック横浜司教区)

広瀬 誠(横浜YMCA)

共 催 神奈川県

講 演 横浜市、川崎市、横須賀市

目 的 1 広く市民に開かれたフォーラムとする。

2 中学生から青年までの若い世代の参加を期待して、工夫する。

3 すべてがボランティアで、市民の手による、市民のための手持ち弁当型のフォーラムとする。

4 AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。

5 AIDSに日頃から関係する団体やグループがフォーラムの展開をリードする。

6 AIDS関係団体、グループのネットワークの機会とする。

7 AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。

8 AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化的側面から積極的に捉える。

9 AIDSへのさまざまな取り組みの中で、共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける(エンパワーメント)集いとする。

「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」プログラムスケジュール *このプログ

*プログラム

| 日 | 時間帯 | B会場 (2階 ホール) | C会場 (3階 301室) | D会場 (3階 3) |
|------------------------|--|--|---|--|
| 8月7日 (金) | 10:00~12:00 | 映画上映 「マイ・フレンド・フォーエバー」 (実行委員会) | 「1998 AIDS文化フ | |
| | 13:00~15:00 | TVドラマ上映 「神様、もう少しだけ」 (実行委員会) | エイズの模擬授業 (性を語る会/北沢杏子) | 神様、どうしたらいい AIDS患者とのかた (東京新教会牧師/) |
| | 15:30~17:30 | HIV/AIDSの最新情報 (実行委員会) | 養護教諭の組み立てる学校内での AIDS教育(事例発表) (小中高養護教諭) | 桜屋伝衛門の「初め エイズの基礎講座 (桜屋伝衛門) |
| | 18:00~20:00 | 映画上映 「マイ・フレンド・フォーエバー」 (実行委員会) | ますますPositive (パトリック&紳也) | 看護婦が語るAID 取り組み (ライフ・ファウン |
| 8月8日 (土) | 10:00~12:00 | TVドラマ上映 「神様、もう少しだけ」 (実行委員会) | 避妊・性感染症を話せる関係 (高校模擬授業) (*人間と性教育研究協議会かながわサークル) | フリー・ティーンズ (かもめの会) |
| | 13:00~15:00 | PWAのネットワークを考える (ポジティブネットワーク) | 中学生のAIDS教育 (実行委員会) | 使いこなせますか? 福祉制度 (AIDSネットワー |
| | 15:30~17:30 | 17:30~18:30 音楽構成詩「未来への選択」 —薬害エイズを闘って— (「未来への選択」小平合唱団) | 心を聴く—講義と実習— (横浜いのちの電話) | 子ども買春・子ども 根絶に向けて (ストップ子ども買 |
| | 18:00~20:00 | | | 居酒屋ホン：のぼほん 君とAIDSが当たり (サークルホン) |
| 8月9日 (日) | 10:00~12:00 | TVドラマ上映 ◆ 「神様、もう少しだけ」 (実行委員会) | エイズ模擬授業 (小学校) “人間と性”教育研究協議会 | Language Teaching HIV/AIDS Educati (JAPANetwork) |
| | 13:00~15:00 | HIVを抱えて生きる人たちの 声をきく (H. I. Voice ACT) | 第12回国際エイズ会議より (実行委員会) | つ・く・る性教育 —話せばはずむ性の (横浜エイズ勉強会) |
| | 15:30~17:30 | HIV感染者の視点で考える 身体障害者手帳とは何か (ポジティブネットワーク) | | 在日「外国人」諸事 AIDS諸問題 (アジア友好の家: |
| | 18:00~20:00 | 「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」閉会式 | | |
| A会場 (1階 展示場) | ①AIDSの教材—小学校—一般まで (性を語る会) | | ⑦拠点病院におけるH | |
| NGO 活動紹介パネル展 | ②Beehive 市川 活動紹介 (Beehive いちかわ) | | ⑧同性愛者の人権とA | |
| 写真展「いのちの贈り物」 (大塚敦子) | ③AIDSと電話相談 (有終支援いのちの山彦電話東京支部) | | ⑨つ・く・る性教育 (| |
| | ④ボランティア学習書紹介と活動紹介 (フレンズフォーライフ) | | ⑩活動紹介 (メモリア | |
| | ⑤H.I.Voice Digest II (H.I.Voice 編集局) | | ⑪性教育/AIDS教材 | |
| | ⑥続・鹿児島大学医学部病院裁判 (鹿児島大学 HIV 訴訟を考える会) | | ⑫レッドリボンをあな | |
| 特設会場(6階) 8/8~8/9 | ソーシャルワーカーによるAIDS相談会 (HIVソーシャルワーカーネットワーク) *特設 | | | |
| 9階・10階展示場 | 9階:写真展「エイズを生きる」(土橋正之) | | 10階:「1997 AIDS文化フォーラム | |

◆8月9日(日) 10:00~12:00 B会場(2階ホール) ◆TVドラマ「神様、もう少しだけ」で主人公を演じる深田恭子さ

ラムは1998年8月4日現在のものです。プログラム内容や時間帯が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

によっては、プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。

| | | | |
|------|---------------|---------------|---------------|
| 02室) | E会場 (3階 303室) | F会場 (3階 304室) | G会場 (3階 305室) |
|------|---------------|---------------|---------------|

オーラム in 横浜」開会式 12:30~13:00 1階展示場

| | | | |
|-------------------------|--|--|---|
| いの一米国 リングから 国枝欣一) | | キルトを縫いながらAIDSを 考える (ABCキルト) | これで最後! 「性風俗とHIV/AIDS・STD」 (Campus AIDS Interface) |
| とても安心] | | 輝く命 —ポスター&キルトの旅 (HIVと人権・情報センター東京支部) | 続・鹿児島大学医学部病院裁判 (鹿児島大学 HIV 訴訟を考える会) |
| Sへの デーション) | | 輝く命 —HIVを通して命・人権を学ぶ (HIVと人権・情報センター東京支部) | |
| | セックス・トーク ※女性限定 (鹿股久美子/グループ・めると) | エイズって何?何ができるだろう? もう一度初めから考えてみよう (西浦うらら/長澤勲) | 朗読ワークショップ —AIDSを読む— (H. I. Voice ACT) |
| あなたの ク横浜) | 生命の輝き —石田吉明フォトエッセイより (滋賀エイズを考える会) | 薬害エイズの現在 (いま) (HIV訴訟を支える会) | 栄養学では語れない 食生活と最新食品情報 (AIDSケアプロジェクトグループ) |
| ポルノの 春の会) | バトル・オブ・セックス 〜もっとフリーに、気持ちよく〜 (グループ・めると) | AIDSとアドボカシー 〜対感染症対策をめぐる事例から (動くゲイとレズビアン会:アカ) | あなたの中のバリアを考える バリアフリー '98 —医療・福祉・教育・企業— (ソクラテスプロジェクト) |
| 感染者ホン 前の時間を! | AAAの正しい使い方 (AAA運営事務局) | 同性愛者の人権とAIDSを考える (エイズアクション) | |
| and on | ねえママ、エイズってなあに? (岡村聡子/CSR) | 女性とAIDS ※女性限定 (吉永陽子) | PHAの役割を考える 〜PHAの講演活動から〜 (せかんどかみんぐあうと) |
| こと一 | ボランティアについて考える (フレンズフォーライフ:浜松) | 同性愛者のための電話相談・ 統計報告 (動くゲイとレズビアン会:アカ) | 福祉制度を感染者に活かすために (HIVソーシャルネットワーク) |
| 情と、 FAH) | キルトディスプレイ& ワークショップ (メモリアル・キルト・ジャパン) | HIV感染者の社会参加 〜仕事と治療の両立〜 (ライブ・エイズ・プロジェクト:LAP) | 拠点病院におけるHIV診療の現状 —中間報告— (AIDS&Society 研究会議) |

・交流会 18:00~20:00 3階 301室

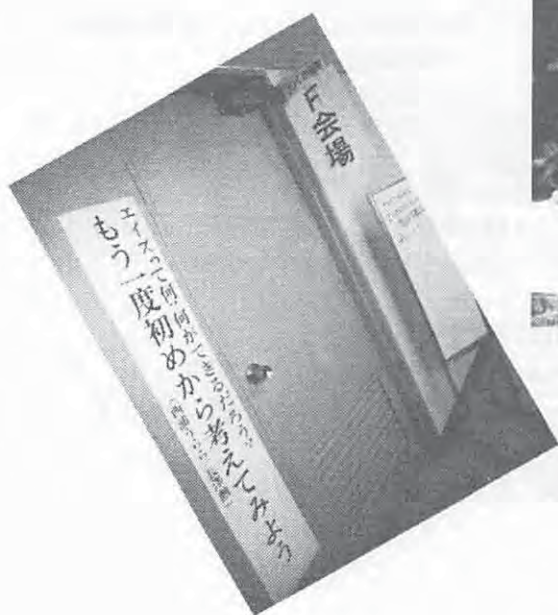
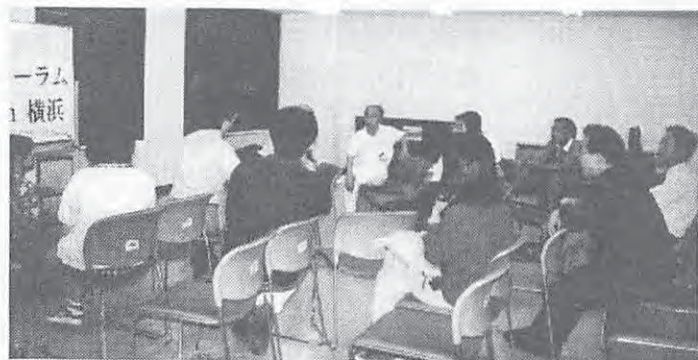
| | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| IV診療の現状—中間報告— (AIDS&Society 研究会議) | ⑬AAAの活動紹介 (AAA 運営事務局) |
| IDSを考える (エイズアクション) | ⑭活動紹介 (HIVと人権・情報センター東京支部) |
| 横浜エイズ勉強会) | ⑮薬害エイズの現在 (いま) (HIV訴訟を支える会) |
| ル・キルト・ジャパン) | ⑯ブースだホン (サークルホン) |
| ・教具紹介 (『人間と性』教育研究協議会かながわサークル) | ⑰活動紹介 (横浜 AIDS 市民活動センター) |
| たに (かながわレッドリボンクラブ) | ⑱活動紹介 (JAPANetwork: 9日のみ) |

会場 (6階) と電話 (専用回線: 045-316-5909) による相談 ※8日は12:00~16:30・9日は10:00~16:00になります。

in 横浜」報告展

ん、番組プロデューサーの小岩井宏悦さん、ドラマの医療監修者の岩室紳也医師によるライブトークを行います。

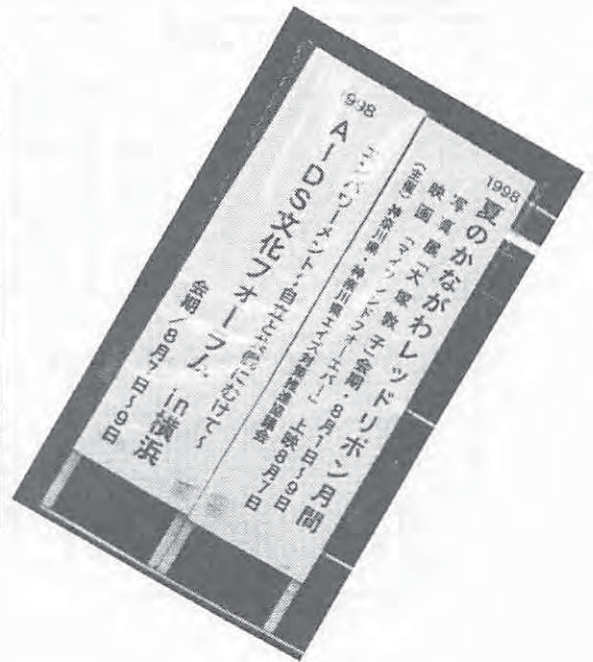
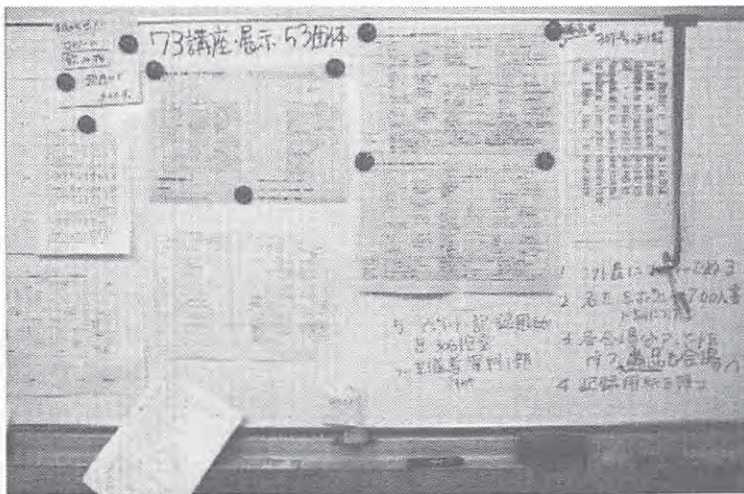
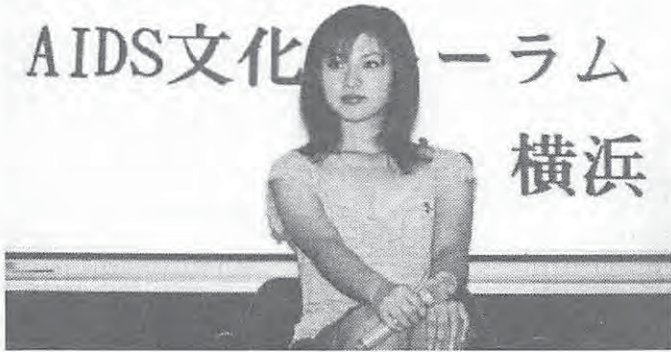
会場風景



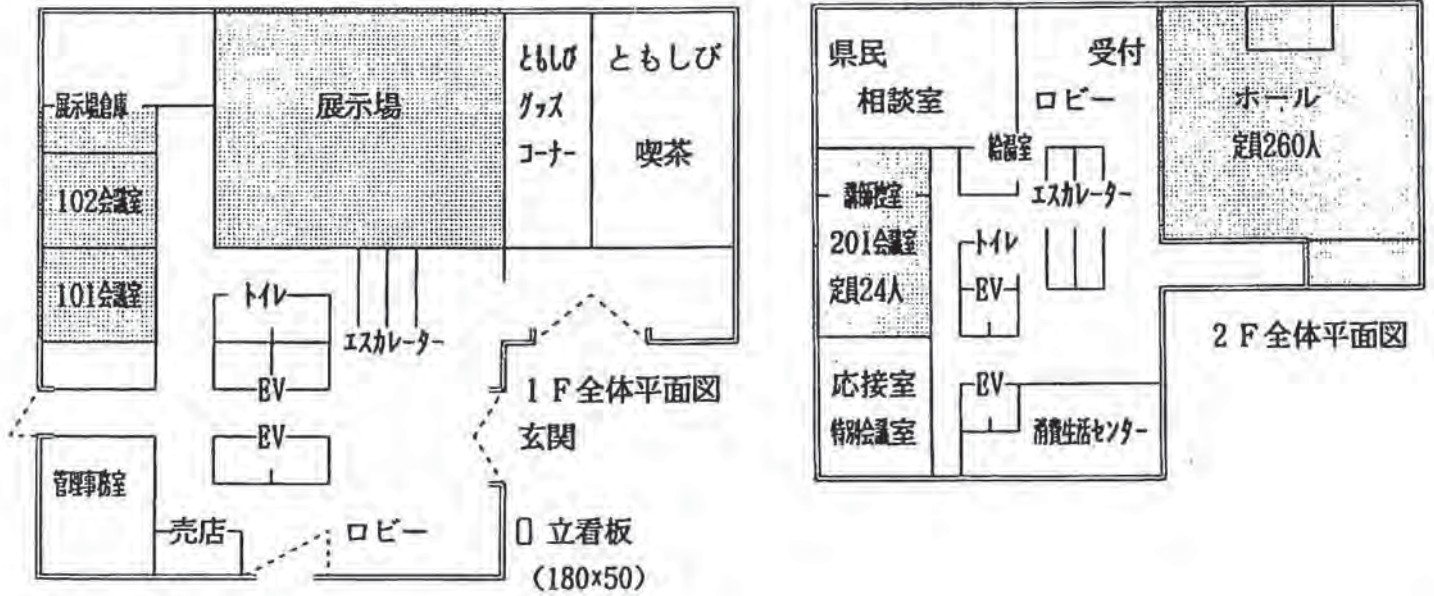


1998

AIDS文化フォーラム
横浜

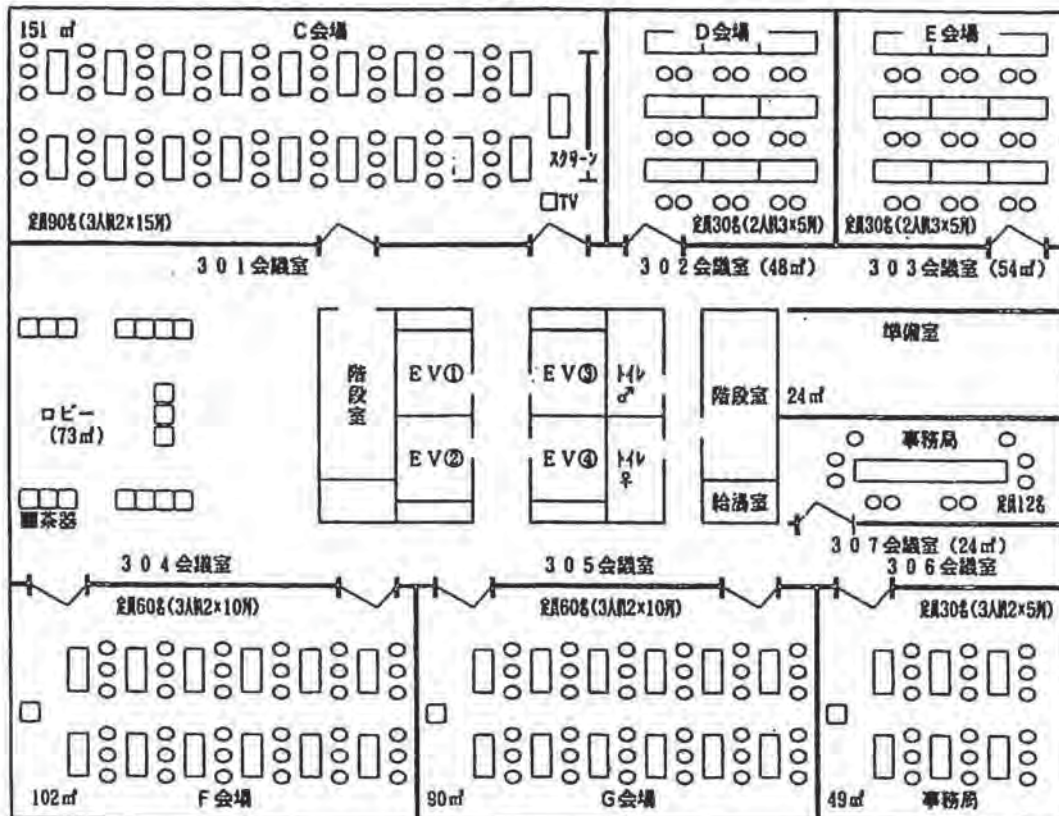


1階・2階会場図

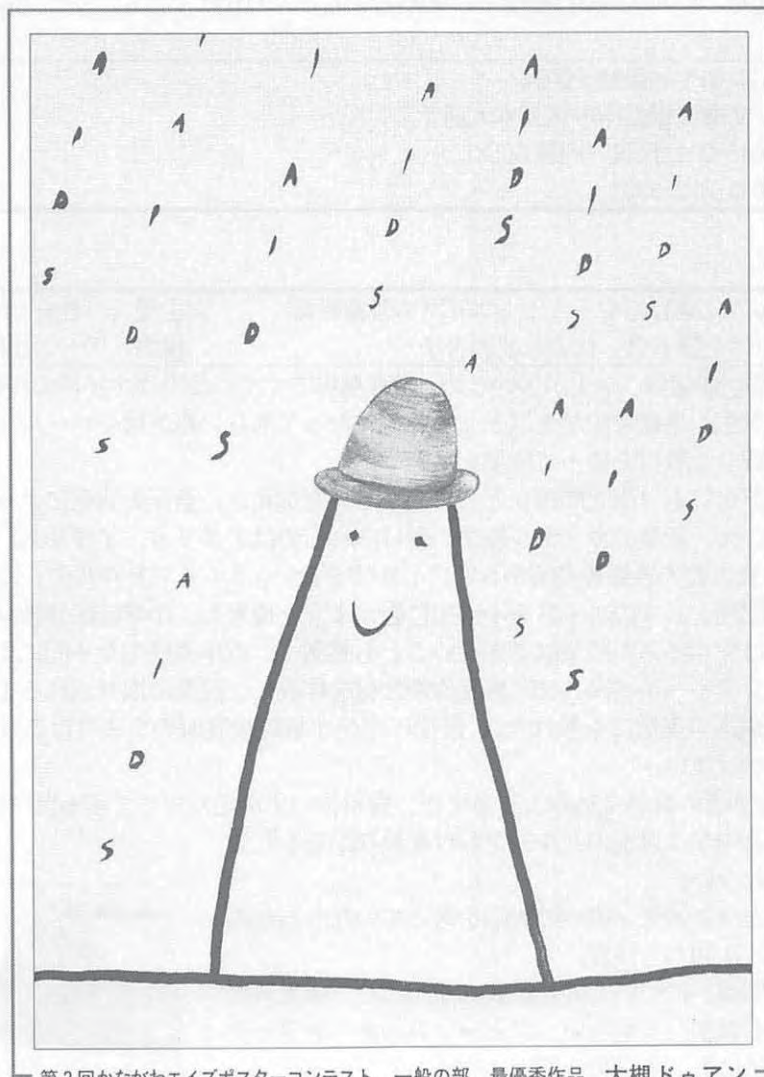


3階会場図

AIDS文化フォーラム会場配置図 (かながわ県民センター3階会議室平面図) 基本形



プログラム報告

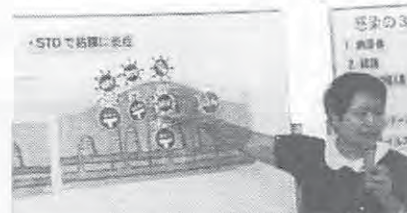


第2回かながわエイズポスターコンテスト 一般の部 最優秀作品 大槻ドゥアン

発表プログラム

| | |
|-------|---|
| No. 1 | タイトル 映画「マイ・フレンド・フォーエバー」 主 催 実行委員会／神奈川県衛生部保健予防課 |
| 監 督 | ピーター・ホルトン |
| 出 演 | ブラッド・レンプロ ジョゼフ・マゼロ 他 (1995年製作・アメリカ映画／上映時間：1時間40分) |
| あらすじ | 少年エリックの隣家に、HIVに感染した少年、デクスターが引っ越してきた。いじめられている彼を助けたことがきっかけで、エリックとデクスターは仲良くなる。ある夏の日、2人は冒険の旅にでる。目的地は、AIDSの特効薬が開発されると伝えられるニューオリンズ…。 |
| 感 想 | HIVに感染していても他の人と同じように接しているエリックはすごいと思った。でも、これが当たり前なんだと思った。(10代・学生) 人が生きることを改めて考えさせられた。(20代・学生) エイズに対する偏見は、大人の方が大きいと改めて実感した。(20代・公務員) この映画を見たのは2回目なのにとっても感動した。もっとみんなにエイズを知ってほしいと思った。知識も知らずに差別する社会は許せないと思う。(10代・学生) 友達のためにこんなに一生懸命になることは私は一度もありません。エリックの行動全てに感動しました。(10代・学生) 子どもに見せたい。(40代・会社員) |
| 連絡先 | 神奈川県衛生部保健予防課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL：045-201-1111 (内線5058) FAX：045-212-8324 |

| | |
|----------|--|
| No. 2 | タイトル 楽しくやろう！ エイズの模擬授業 講師 「性を語る会」代表 北沢杏子 主 催 「性を語る会」 協力 アーニ出版 |
| ねらい | 毎年、教員、保健婦、学生が多いため、教育現場ですぐに役立つエイズの模擬授業を行っている。参加者半数に小学生、半数に中学生以上一般成人になってもらい紙芝居やロールプレイ、フォーラムのために新しく作成した教材を使って授業を展開した。 |
| ながれ | 今年は紙芝居にも「南北問題」としてのエイズを加えた。新薬の開発によって発病はかなり抑えられているとはいえ、新薬のカクテル療法が受けられるのはアメリカ、イギリス、日本ほかの高度工業国だけ。世界の全患者／感染者の僅か5%にしかすぎない。「エイズとの共生」のキャッチフレーズはもう古い。南北問題としてエイズを小学生に教えようと提案し、小学校保健教科書の「性交」ぬきの感染経路ではもはやエイズの授業はできないことも強調！ 近年高校生女子間に広がっているSTD(性感染症) クラミジア・ヘルペスとHIV感染の新教材を作成し、授業に取り入れるよう提案。男子生徒のクラミジア性尿道炎の実数にも触れた。最後に生徒が放課後制服のまま行ける「思春期外来」の各地での開設を呼びかけたい。 |
| 感想 (主催者) | 参加者の数が見込みより多すぎ、資料やいが足りなくて困った (参加者153名)。 ・小学生グループと中学生以上のグループわけを最初からした方が効果的かもしれない。 ・NHKテレビなどマスメディアへの対応を考えていなかったので混乱があった。次回から注意。 ・「STDとHIVの関連」についての話が興味深かった。婦人科医や泌尿器科医にも参加してもらい、フォーラムのネットワークを強力にするためにも、各分科会同士の交流がもっとオープンになるように望みます。 |
| 連絡先 | 「性を語る会」事務局 〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-6 アーニ出版内 TEL 03-3708-7326 FAX 03-3708-7324 |



| | | |
|-------|------|--------------------------------|
| No. 3 | タイトル | 神様どうしたらいいのー米国エイズ患者とのカウンセリングからー |
| | 主催 | 東京新教会 ホライズン・センター 國枝 欣一 |

ねらい

米国のエイズ患者の紹介と、患者を支えるサポートの重要性、支援者の有り様を考える。

ながれ

エイズの患者達は、家族から、友人から、コミュニティから疎外されていて、魂の飢え、絶対的孤独、生きる意味、目的、価値の喪失、死後の命の不安、自分や他人、神との和解の必要性など、スピリチュアル(精神的、靈的)な問題に直面している。

チャプレンの仕事：患者のQOL(生活の質)を上げるために医療者と共に働く。

患者はひとりの人間。ひとりの人間の肉体的な面に関わるのは医師、生活面に関わりを持つのは看護婦、そしてスピリチュアルな側面に関わりを持つのがチャプレン。それぞれの専門家が有機的に連携しつつ患者に関わる事が大切。同時に専門性を持ったボランティアの活動も必須。

米国では約70%の病院にチャプレンが専門スタッフとして働いている。私が実習していた病院は州立の精神病院。スピリチュアル・ケアをするスタッフは専門教育を受けた聖職者。聖職者としての勉強と更にチャプレンとしての専門的勉強と臨床経験が必要とされる。この病院ではチャプレンも患者のアセスメントをし、患者の入院後、医師、看護婦、医療ケースワーカーのそれと共に持ち寄り、その患者にとっての最適な医療を提供するシステムがあった。

患者援助のためには、病気に関する知識、援助する技術を学ぶことも大切であるが、それ以上に援助する「私」が一体何者かということを知ることが大切。他人の話を聴くという事は、やさしいと思いがちであるが、その人が言っているように聴くという事は意外と難しい。

連絡先 東京新教会 國枝 欣一 〒156-0044 東京都世田谷区赤堤1-15-13
TEL 03-3321-7620 FAX 03-3321-8651

| | | |
|-------|------|------------------|
| No. 4 | タイトル | キルトを縫いながらエイズを考える |
| | 主催 | ABCキルトの会横浜支部 |

ねらい

AIDS/HIV感染の子供たちやエイズで親を亡くした孤児たちに贈るベビーキルト作りを通してエイズ問題を考えるきっかけとなるようボランティア参加してもらう。

ながれ

- 1 参加者にABCキルトの活動について説明。キルトを贈っているタイの様子や学校で行われているキルト作りの様子を展示した写真を見てもらいながら話した。
- 2 実際にキルトを縫ってもらった。
- 3 ABCキルトの展示やキルト作りをしたいという学校や保健所の相談を受けた。
- 4 最後に参加者全員に感想をひとことずつ言ってもらった。

感想(参加者)

キルトを実際に製作してキルトを作っている人たちの心も知ることができた。
赤ちゃん全員にキルトが贈られたらどんなに素晴らしいことかと思った。

連絡先 ABCキルトの会横浜支部
上村春子 〒233-0015 横浜市港南区日限山3-1-11
TEL 045-844-8124

| | | |
|-------|------|--|
| No. 5 | タイトル | これで最後！「性風俗とHIV/AIDS・STD」 |
| | 主催 | Campus AIDS Interface 講師 山口みずか（コマーシャルセックスワーカー・フリーライター） |
| | 進行 | 渡部享宏 協力 岩室紳也（神奈川県平塚保健所医師） |

ねらいとながれ

以外と身近？な性風俗、以外と未知？な性風俗。HIV/AIDS の電話相談をやると私達が考えている以上に性風俗は多くの人にとって生活の一部である。しかし、そこでどんな事が行われて、どんな人が遊びに行き、どんな人が働いていることは余り知らない人が多い。また、メディアを通して知る機会があっても現場からの直接的な問題や意見は伝わりにくいものがあり、知らない人にとっては正面から人に聞きにくい情報でもある。



東京の吉原でコマーシャルセックスワーカーとして働いている山口さん、HIV/AIDS 啓発を行っている岩室医師とともに現場の問題点や意見、性風俗と STD（性感染症）に関する最新の科学的情報を提供することを目的とした。

自己紹介→性風俗種類、サービス内容分類→STD と性風俗の関係→フリートーク

感想

このテーマは今年で3年目になり、当初は学生の浅知恵だったのにも関わらず、講演に参加して下さった皆様から貴重な御意見・御感想を頂き、考えていたより反響がありました。

そして最後に私達に発表の場を提供して頂いた、フォーラム事務局の皆様、スタッフの皆様、学生ボランティアの皆様に感謝の意を表したいと思います。有難うございました。

連絡先 Campus AIDS Interface 代表：渡部享宏 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町4-49-6-105
TEL/FAX 03-5958-0530 携帯 TEL 090-3962-0221 E-mail:bym02334@nifty.ne.jp



| | |
|-------|--|
| No. 6 | タイトル シンポジウム HIV/AIDSの最新情報 主催 AIDS文化フォーラム実行委員会 司会 吉永 陽子 シンポジスト ・今村 顕史 (東京都立駒込病院感染症科医師) ・藤村 真理子 (横浜市立大学付属病院医療相談係) |
|-------|--|

ねらい

HIV医療をとりまく現状は、プロテアーゼ阻害剤の使用をはじめとして医療開始時期も含め大きく変化している。また本年度より障害者認定制度が開始された。このシンポジウムでは、感染者とその身近にいる人びと(家族、ボランティア等)、のみならず、エイズ教育に携わる人々(保健医療関係者、学校教育関係者等)、高度な専門知識をもたない一般の方までは幅広い対象者に基礎から最新情報までをわかりやすく解説して頂き、それをもとに会場全体でこれからについて考える機会とすることを目的とした。

●シンポジスト発言要旨(但し、情報はシンポジウム開催時点でのものです。)

HIV治療について

- ・ウィルスの特徴と感染後の体内での動態、セットポイントが予後を左右する。
- ・感染発病までの病気の進み方について
- ・HIV治療
 - | | |
|-------------|-------|
| HIVそのものに対して | 薬剤の開発 |
| 日見感染に対して | 検査の進歩 |
| 逆転写酵素阻害剤 | |
 - ・承認2種9剤
 - | | |
|-----------|--------------------|
| プロテアーゼ阻害剤 | カクテル療法(副作用等継続の難しさ) |
|-----------|--------------------|
- ・治療開始の時期(早期発見早期治療の前提はあるが、正確な時期については賛否両論)
- ・病院受診者の統計の結果から将来の感染拡大についての予測

障害者認定制度について

- ・M. S. W. (メンタル・ワーカー) という職種そのものについて
- ・障害者認定の実際と経緯、申請状況、問題点、今後の展望

●フロアーから

- ・医学専門用語、知識等についての質問はシンポジストの発言中その都度解説を加えた。
- ・障害者手帳の申請の際、職員に知人がいる場合など申請を希望しても実行できない現状があり、この点からも“共生”という事を考えた学校教育の必要性を感じた。自分の立場での努力をしたい。(学校関係者)
- ・治療の大変さがわかり、まだ自分が知らなすぎる事も分かった。その上でボランティアに何ができるのかを考えていかなければならないと思う。(ボランティア)
- ・はじめて聞く事も多く、こういう情報は関心を高くよせていないと手に入れられない。一般の人びとになかなか伝わらない現状こそが問題。(フォーラム初参加の一般の方)
- ・本日の内容を相談の現場で役にたてたい。(保健行政職)

感想

- ・薬の話は有り難く思ったが、日進月歩を感じ心強く感じた。
- ・職場でもエイズに対するいろいろな取り組みがなされているが、今日のようなことを知らないままに映画をみたりしたので認識があらたになった。
- ・深刻な問題であることがわかった。あらためて予防の大切さを感じた。
- ・障害者手帳申請については、プライバシーの保護についても問題をもっと解決すべきだ。
- ・スピードがはやく、専門的すぎた。

連絡先 AIDS文化フォーラム実行委員会

| | |
|-------|---|
| No. 7 | タイトル 養護教諭が組み立てる学校内でのAIDS教育 主催 AIDS文化フォーラム実行委員会 発表者 渡辺 真弓(横浜市立野七里小学校) 古石 木未(川崎市立南生田中学校) 高橋かん奈(千葉県立国分高等学校) 岡島 龍彦(H. I. Voice Act) |
|-------|---|

ねらい

小・中・高校の養護教諭の具体的なAIDS教育への取り組みをヒントに学校内でのAIDS教育の可能性を探る。小・中・高校の役割分担と連携の可能性は？ 学校と地域、そして市民グループとの連携をどのように図るのか？ 会場の参加者も交え、結論でなく情報を共有する時間を持つことを目的とした。

ながれ

- 1 趣旨説明 10分 (Actが活動する中からAIDS教育に果たす養護教諭の可能性が見えた)
- 2 事例発表 (各20分)
 - (1) 小学校の事例 (6年のクラス担任と一緒に取り組む・AIDS市民活動センターで学ぶ)
指導の流れ グループ作り→資料作り→発表会→M君の手紙→キルト作り
 - (2) 中学校の事例 (AIDSを取り上げる意味を整理→自らYMCAの講座を受講→PWAをゲストに職員研修→学校保健委員会でActの朗読ワークショップ)
 - (3) 高等学校の事例 (平成6年からの取り組み・エイズメモリアルキルト展に参加→エイズサポート千葉との交流→PWAをゲストに校内エイズ講演会→Act)
- 3 休憩時間 10分 (参加者同士の肩もみマッサージでリラックス)
- 4 質疑応答 30分 (参加者も養護教諭が多かったために指導内容に関する質問が多く、地域や市民団体の学校外の資源をどう活用するかという所まで話しが及ばなかった)

連絡先 H. I. Voice Act 岡島龍彦 〒236-0005 横浜市金沢区並木3-6-8-302
TEL/FAX 045-784-9659

| | |
|-------|---|
| No. 8 | タイトル 桜屋伝衛門の「初めてでも安心」 エイズ基礎講座 主催 桜屋伝衛門、藤江直樹 |
|-------|---|

ねらい

今だ差別や偏見をめぐる現状が伝えられる「AIDS」。感染者がプライバシーを保障され、声を上げられる機会は少なく、また、患者が自らの気持ちを語ることに、間接的意味付けが強く課せられ、スピーカー参加者の負担になってしまう。もっと気楽な空気の中で、声を聞いてもらえないだろうか？そしてエイズとは何であるか？を再考してもらうことを目的とした。

ながれ 40分間のエイズの基礎知識のレクチャーの後、休憩をはさんで桜屋伝衛門の感染告知、薬害裁判、現在に至るまでの体験を質疑応答のインタビュー形式で行った。

感想

- ・ざっくばらんな声を聞くことができ、エイズのことについて考える時の参考になった。
- ・薬害エイズの受け止め方について社会と被害者のずれを感じた。
- ・明るい雰囲気の中で素直な意見が聞けてとてもよかった。
- ・切実な面だけが感染者の姿ではなく、楽しく、普通に暮らすということ。私のまわりに感染者がいたら、楽しく普通に過ごしたい。
- ・本音が聞けて良かった。知識だけの啓発ではなく、人としての感情や背景も大切にしていきたい。
- ・講師がとても明るく積極的だったので、AIDSという病気をとても悪いものという偏見をもっていたが考え方が変わった。

連絡先 神奈川県横浜市神奈川区斎藤分町1 TEL/FAX 045-482-0694 藤江直樹

| | |
|-------|-----------------------|
| No. 9 | タイトル 輝く生命「ポスター&キルトの旅」 |
| | 主催 HIVと人権・情報センター東京支部 |

ねらい 優れたポスターやキルトは美しく、明るく、具体的で人間味があります。来場者に、それらのポスターやキルトのもつ、言葉を超えて言葉以上に見る者に訴えかけ、心に働きかける潜在力に触れていた

内容 ボランティアと来場者を連れて五島真理為が、ひとつひとつのポスター、キルトの説明をし、一周したあとは、各ボランティアたちが五島の話を参考にしながら、来場者のキルト・ポスターツアーに同伴し説明してまわりました。ポスターの大半は、HIVと人権・情報センターがジュネーブのAIDS国際会議で収集してきたばかりの最近のものでした。キルトは、メモリアル、メッセージ、ベビーという3種類をそろえました。ポスターの一例を挙げると、○手のひらに薬を並べた絵のポスター（最近はこんなにたくさんの治療薬があるんだよとも、患者はこんなに飲まないといけないんだよ、と言っているようにもとれます）○食卓に栄養のある果物と薬、食事と服薬の日課表が並べてあるポスター ○「彼は患者であり、消費者であり、息子であり、働く人であり・・・」一人の患者を生活のいろんな場面で切り取ったポスター・・・



感想 「キルトを縫った人や、その人たちのことを伝えようと活動なさっている方々に対して、今自分が何ができるのか、ちゃんとわかっていないと申し訳なく感じた」「数々のポスターにはかなりメッセージ性の強いものもあり、考えさせられた」

連絡先 HIVと人権・情報センター 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-2 吉田ビル2F
TEL 03-5259-0622

| | |
|--------|---------------------|
| No. 10 | タイトル 続・鹿児島大学医学部病院裁判 |
| | 主催 鹿児島大学HIV訴訟を考える会 |

(*主催者から報告書の提出がないため会場ボランティアの報告書等より概要を掲載)

ねらい 原告の歯学部在学中に起きた、HIV感染をめぐって起きた諸問題とそれに対する訴訟の意義を考えることにより、HIVの問題点を考えることにより、HIVの問題点を解決していきたい。今回は裁判の経過と準備書面の内容についての報告を行う。

感想
 ・裁判の内容より、これまでの経過説明でほとんどの時間を費やしてしまった。
 ・生々しく語られていたので非常に心に入りやすかったと思う。質疑に時間をもう少しとれば良かった。

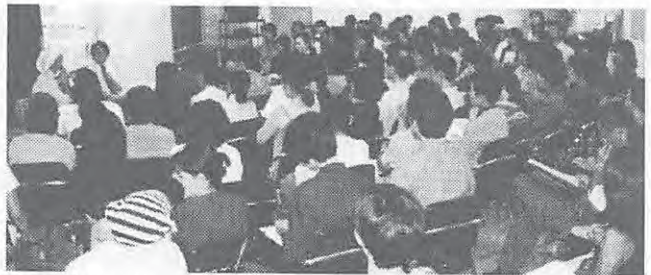
連絡先 鹿児島大学HIV訴訟を考える会
 *この裁判に関する詳細とご支援等に関するお問い合わせについては下記にお願いいたします。
 ホームページ <http://www.2.marinet.or.jp/c-net/saiban/>
 e-mail c-net@marinet.or.jp
 TEL 03-3355-1836

| | | |
|--------|------|--------------|
| No. 11 | タイトル | ますますPositive |
| | 主催 | パトリック & 紳也 |

ねらいとながれ HIV Positive のパトリックと主治医であり友人の岩室医師のトークを通して一人の人間「パトリック」が HIV と共に生きていることを感じてもらうことを目的に、第一回から出演している。HIV を持っている人を画一的な視点でとらえがちであるが一人一人の悩みや生き方は違う。トークは「HIV に感染してそろそろ 10 年になるのにこんなに元気に 1998 年を迎えているとは思ってもいなかったね」「そう。今まではまもなく死ぬと思っていたから”positive”に生きてきたけど、こんなに元気になるとかえって落ち込んでしまうんだ」というやり取りで始まった。実際、パトはここ数ヶ月いろんなことがあって精神的にうつ状態になっていた。でも、会場とのやり取りの中から元気をもらい、パトは元気に帰って行った。HIV に感染している人がみんな同じであるかの錯覚が少しでも拭えれば成功だと思っている。

感想

- ・パトリックさんはとても”positive”でしたが、常にそうであることの精神的・肉体的大変さも感じました。
- ・聞いて欲しくないこと、それが一番聞いてほしいことといわれそのことについては、やはり自分の中に偏見があるのかなかなか素直に聞くこと……難しい、でもやっぱりそうなのかな……。
- ・自分は差別していないと考えていたつもりだったけど、そのことが本当の差別だったと思った。



| | | |
|------------|-----------------------------|-----------------------------------|
| 連絡先 | パトリック | 岩室紳也 〒243-0004 厚木市水引 2-3-1 厚木保健所 |
| | TEL&FAX 03-3422-5246 | TEL 0462-24-1111 FAX 0462-25-4146 |
| | E-mail:pppco@crisscross.com | E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp |

| | | |
|--------|------|-----------------|
| No. 12 | タイトル | 看護婦が語るHIVへの取り組み |
| | 主催 | ライフ・ファウンデーション |

(※主催者から報告書の提出がないため会場ボランティアの報告書等より概要を掲載)

ねらい

エクササイズを通して、`価値観の違い`を知り、共有化を計ったうえで、看護の仕事の中での感染リスクを考え、感染リスクから自分を守ること、患者を守ること、一人の人間として、女性として感染リスクを認知していくことを伝える。

感想

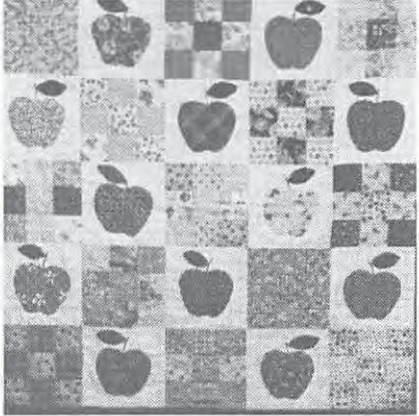
- ・導入部はクイズ形式で、楽しく話が進んだ。価値観の違いを出席した人は考えられたと思う。
- ・後半部はグループに分かれてディスカッションを行い、そこでも活発な意見交換がなされたと思う。

| | |
|------------|---|
| 連絡先 | 233 Keawe Street, Suite 226, HI 96813, U.S.A. |
| | ライフ・ファウンデーション 国際教育サービス |
| | Tel : (808) 523-3543 Fax : (808) 521-1552 |

| | | |
|--------|------|---------------------------|
| No. 13 | タイトル | 輝く生命「HIVを通して命と人権を学ぶ」 |
| | 主催 | HIVと人権・情報センター東京支部 |
| | 講師 | HIVと人権・情報センター全国事務局長・五島真理為 |

ねらい 五島真理為が関わってきたPWA、その家族たちの生き方から学んだ生命の尊厳、人権の大切さを伝えたい。

講演内容 AIDSは「助け合う力」を意味する美しい名前。しかし、最初は「ゲイ病」と名付けられた。すさまじい差別が続いた。▲スイスの国際会議のテーマは、バンクーバーでは「ひとつの世界とひとつの希望」であったが、今回は「ギャップ」。南北問題。南の子どもたちはAIDSどころではない。▲無駄な命はひとつもない。自分を大切に思ってくれる人がいないと子どもたちは思っている。命を大事にしない。「AIDS学習マニュアル」をつくった。



感想 「アフリカや東南アジアでHIV感染がとても多いことは知っていましたが、南の国ではHIV感染者をどうするかということより、それ以前の問題が多々あり、彼らにとっては北の国ほどHIVの問題が重視されていないという事実にはショックを受けました」「私は今までキルトには多少疑問を抱いていた。けれど、命をかけて世に訴えかけてきた方の生きざまを聞き、言葉以上のメッセージを発しているように感じ、胸がつまった」「痛みをもった者が働きかけなければ社会は変わらないと言われた。体の痛みは取り除けないかも知れませんが、心の痛みは分かち合えます。視野が広がりました」

連絡先 HIVと人権・情報センター 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-2 吉田ビル2F
TEL 03-5259-0622

| | | |
|--------|------|-----------------------|
| No. 14 | タイトル | 避妊・性感染症を話せる関係 |
| | 主催 | “人間と性”教育研究協議会かながわサークル |
| | 講師 | 山村まゆみ |

ねらい パソコンやポケベルでのコミュニケーションはとれても、相手を目の前にして自分の思いを自分の言葉で言い表わすことが不得手な若者が増えてきたように思います。そこで、トレーニングの一手段になるのではないかとこの授業を計画しました。

ながれ

1. アイコンタクトをとろう！
2. 二人の距離は？
3. 自分の思いを言葉に託そう（各自でシナリオづくり→小グループで発表→全体で発表）



感想

- ・知識学習だけでなく、ロールプレイ等正しい知識をもとに実際に行動にうつせるよう指導されており、その大切さを実感しました。電話相談等で実際の高校生が正しい知識がない、相手にうまく伝えられない、自己決定ができない現状にあることを強く感じていました。
- ・保健所保健婦として高校生を対象に思春期エイズ教育をやっている。教室の運営の参考になった。学校での性教育、保護者の性教育、学校の現状、違う分野からの意見はとても刺激になった。
- ・いち参加者として面白かったです。コミュニケーションをとることを体験学習することが必要なのだと我が身を省みて改めて感じました。

連絡先 “人間と性”教育研究協議会かながわサークル
代表 鎌田美代子
〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原1-18-2 TEL 0467-44-5185

| | |
|--------|-----------------------------|
| No. 15 | タイトル フリー・ティーンズ 主 催 かもめの会 |
|--------|-----------------------------|

(*主催者から報告書の提出がないため会場ボランティアの報告書等より概要を掲載)

ねらい

中学生以上を対象にアメリカで開発された、エイズや性感染症に関する自己抑制型予防教育プログラム“Safer SEXからSave SEX”という考え方を紹介したい。

パートI「エイズの時代に生きる」

パートII「自分の将来を決める」

感想

さまざまなスライドを用いて話を進めていき、中・高生の方々にも伝わり、理解しやすいものと感じた。セックスをすること、避けることどちらも勇気のいるもの、また、ティーンエイジャーが考えるきっかけになる意義あるものと感じられた。

連絡先 かもめの会 〒241-0002 横浜市旭区上白根3-36-8-407 根宜 妙子
TEL 045-951-0574

| | |
|--------|---|
| No. 16 | タイトル セックス・トーク 主 催 鹿股久美子/グループめると *女性限定 |
|--------|---|

(*主催者から報告書の提出がないため会場ボランティアの報告書等より概要を掲載)

ねらい

『セックスについて思うこと、感じることは何?』-参加者間で、セックスとエイズ、STD(性感染症) 妊娠などの女性の抱える問題について語り合い、自分のセックス観、生き方を振り返る場としたい。

感想

- ・セックスについてオープンに話すことができたこと、幅広い年代の方、経験や考え方も様々なことに気づくことができたと思う。
- ・アイスブレイクは良かった。
- ・女性だけだったので、気がねなく話すことができた。

連絡先 グループめると
〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCAかながわレッドリボンプラザ内
TEL 045-662-3721 FAX 045-651-0169

| | | |
|--------|------|-----------------------------------|
| No. 17 | タイトル | エイズって何? なにができるだろう? もう一度初めから考えてみよう |
| | 主催 | かながわレッドリボンクラブ |
| | 講師 | 西浦うらら、長澤 勲 |

ねらい

HIV感染者/AIDS患者へのボランティアをしたいが、何をしたらよいのかと、漠然とした思いをもっている方がいる。日本における現状では北米や他の国の場合とAIDSに関する状況が違う。そこでまずは何をどうしたら良いのかを考えてもらう。単に知識を与えるのではなく、会場の参加者が置かれている状況、何をしたいのか具体的に述べてもらい、それへのアドバイスを行なう。

ながれ

参加者の構成としては行政関係者、教育・医療関係者が多く、一般ボランティアがこれに続いた。自己紹介から、何をしたいか、何が問題か一緒に考え、分かち合うことを願って進めた。エイズに関する特別なボランティア論を期待した人には物足りなかった。なぜならすべてを今おこなっている状況からエイズ、ボランティアを考えてもらうのがねらいであったから。結果や知識を与えられるのではなく、自分を知り、自分にできることを、自分の力で自己選択してゆくことを大切にしたい。年齢が広範囲であったこと、参加者の構成が偶然ではあるが多種多様であったことなどは、結果として多様な意見を分かち合える機会となった。

感想

現状ではエイズボランティアのイメージは、患者、感染者へ直接働きかけができる活動とされている。しかし、エイズボランティアのこれからの働きは、予防に関する教育の領域、偏見への正しい情報の提供などが当面の働きとして考えられる。どう考えたらいいののかのきっかけになったであろう。

連絡先 かながわレッドリボンプラザ
〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMC A内
TEL 045-662-3721 FAX 045-651-0169

| | | |
|--------|-------|---------------------|
| No. 18 | タイトル | 朗読ワークショップ「AIDSを読む」 |
| | 主催 | H. I. Voice Act |
| | 構成・進行 | 宮下克士、柴田智、小林慶子 (Act) |
| | 協力 | H. I. Voice 編集局 |

ねらい

感染者と未感染者が互いに理解を深めることを目的として発行されている月刊通信誌「H.I.Voice」には、AIDSに係わる様々な人の声があり、顔があります。悩みや希望の中で生活する家族(親子や夫婦)・仲間の等身大の姿が見えてきます。

「朗読ワークショップ」とは、この「H.I.Voice」誌を「朗読」の素材として使わせてもらい声に出して読むことで、そこにある思いを、共感を通して、自分の心と身体に取り入れる作業を行うことです。

ながれ

- 1 趣旨説明 5分
- 2 リラゲゼーション(二人組で脈拍を図る/止血法を学ぶ *人と触れ合うリラックス) 20分
- 3 輪読(全員で大きな輪になって朗読*前半→進行役が各人に直前で1枚毎の朗読原稿を渡す後半→配られた台本を目で追いながら聞き、自分の所を読む) 80分
- 4 意見交換 15分

感想(参加者アンケートから)

- ・声に出すといいい。学校で今日のような文章に接する子が増えるといいいな。(高校生・女・神奈川)
- ・黙読でなく声に出して思いを伝えると自分にも何かできる感触を得る。(40代教員・女・徳島)

連絡先 H. I. Voice Act 岡島龍彦
〒236-0005 横浜市金沢区並木3-6-8-302
TEL/FAX 045-784-9659

| | | |
|--------|------|----------------|
| No. 19 | タイトル | PWAのネットワークを考える |
| | 主催 | ポジティブネットワーク |

ねらい

感染者が自助組織を作ることの意義を伝える。

ながれ

メンバー同士が会場にて発言。薬害・性感染それぞれの立場から背景・環境などを語る。

感想

主催者：幅広い客層に伝えていけた。

来場者：感染者の方がとても率直に話していたのが印象的だった。又このような機会があれば参加したい。不謹慎ないい方だけど、みんな本当に普通の方なんだと実感した。ごめんなさい、でも正直な気持ちです。感染者・非感染者の間の垣根を自然な形で低くしていけたらいいと思う。特別なことじゃない、困ったときには助け合う、そんなことから始めることにしたい。HIVと共存しながら前向きに生きている姿勢に頭が下がります。と共に、まだそのような場を知らないPWAの方もいらっしゃるわけですから、もっとPRを、とも思います。話しにくい内容でしたが会場側の配慮や参加者の人柄、同じ関心のある人ということで自分の疑問や今後の考え方などにとっても参考になった。ライブで声が聞けて良かった。やっぱりそれぞれ思うことが違うとあらためて思った。それぞれの生き方が素敵だと思った。

連絡先

| | | |
|--------|------|--------------------------------|
| No. 20 | タイトル | 中学生のエイズ教育 |
| | 主催 | AIDS文化フォーラム in 横浜実行委員会 |
| | 協力 | 室田悦子（横浜市立舞岡中学）、松下富恵（横浜市立新田中学校） |

ねらい

HIV/AIDSの教育について学校現場で多くの取り組みが行なわれている。しかし、教育現場ではその方法論について未だに自信がないという声がかかる。今回具体的な取り組みについての報告をいただき、中学校の先生方の参考となるよう、使用した資料やVTR等を紹介した。

ながれ

それぞれの取り組みを紹介。VTR「エイズとともに生きる《少年ジョナサンの日々》」、「HIV告白 その時友は《日本テレビきょうの出来事》」、H.I.Voice Actによる講演、薬害エイズの被害者の手記等を通して、生徒に自分が感染した時のこと、カミングアウトのこと、薬害エイズ等について考える機会を与える。また、他の教師が教える際には、エイズとはどのような病気を教えるとともに、プライバシーについてふれる、クラスに感染者がいると考えて指導する。

エイズ教育の中でポイントとなるキーワードは、体験、知識と実際、同じ年齢による共感、考える機会、思いやること、人権、繰り返して教える、等であった。

感想

- ・患者がごく自然にカミングアウトできる社会になるまでは教育は必要。
- ・教師が押し付けるのではなく、生徒に考える機会を与えることが大切。

エイズのことに対して、本気で考えた事はなくて今までなかった。でも、今日の講演会を、エイズの人に対する思いが、すごく変わった気がする。「エイズだからといって、不幸なとはかぎらない。何でも「良い方」に考えたら、本気で言えば〇〇さんには、すごく感謝した。自分自身で、自分を大切にすることが大切なんだなって思った。



H. I. Voice Actによる講演を聞いた生徒の感想文

連絡先

岩室神也

〒243-0004 厚木市水引2-3-1 厚木保健所

TEL0462-24-1111 FAX0462-25-4146 E-mail:shin.iwamuro@nifty.ne.jp

| | |
|--------|---|
| No. 21 | タイトル 使いこなせますか？あなたの福祉制度 ゲスト 横浜市福祉局障害福祉課…小林進 PHAの男性 エイズカウンセラー…松本智子 主催 AIDS ネットワーク横浜 |
|--------|---|

ねらい

ANYの電話相談・パディグループ等の活動を通して、障害者手帳認定制度について資料提供・報告・意見交換を行い、ANYの活動についての理解を深めたい。

ながれ

1. ANYの電話相談に入った、HIV感染症の人からの相談を再構成したテープを会場に流す。「手帳を持っているが、医療費がかなりかかる。」
2. パディグループが調べた、障害者手帳の申請について、OHPと配布資料を使い報告。
3. 会場とゲストのQ&A
4. ゲスト・ANYの代表によるまとめ。

感想

- a. 具体的な内容、実際に困っている人の質問等から、多くの事を学びました。
- b. 疾患の一部としてのAIDSですが、AIDSを社会的資源から光りをあてて見るという事に対し、面白さを感じました。Q&Aが具体的でよかった。
- c. 新しい制度を有効に活用しようとする努力を、ANYの方達を始め、多くの人達がしているのが良くわかりました。「生きた制度」にしていきたいですね。
- d. エイズならではの問題（プライバシーの保護など）があることを知りました。これらがクリア出来れば他の障害をもっている人も楽になるのではないかと思います。
- e. 福祉国家は経済的なことだけでなく、全国民の理解の上に成立つものと考えています。

連絡先 AIDSネットワーク横浜
TEL 045-262-8811 FAX 262-8812

| | |
|--------|--|
| No. 22 | タイトル ”いのちの輝き” 石田吉明フォトエッセイ 主催 滋賀エイズを考える会 講師 岡崎基子 協力 小嶋文夫 |
|--------|--|

ねらい

1996年厚生省の謝罪に対し、慰謝料を払うことにより薬害エイズ問題は終わったかに見えるが、日本における薬害エイズ問題は日本史上忘れてはならない汚点である。偏見や差別の中で病者が、病者であることを主張し続けた故石田吉明氏の思い、薬害に対して生涯にかけての闘いを挑み、死を見据えながらも、生きる喜びを綴った”いのちの輝き”は新たな勇気を後世の若者に伝えてくれるであろう。

ながれ

ワークショップ「今ここに参加していることの意味」をそれぞれに発言する。

●1年に一度は自分というものを確認したい。 ●同窓会のつもりで集まっている。今日は特に特別講師です。 ●しっとりとしてころのこる写真集です。 ●ある若者のエイズ活動をサポートしている。 ●同じ製剤エイズ患者としてカムアウトすることがとても勇気がいったが、川田龍平さん等のデモを見て自分もカムアウトしなければならないと思った。やってみると誰も偏見や差別があるわけではなく、会社側も勉強会をしながら、理解を示してくれた。やる勇気が必要なことと、自分が病者であることの、自分自身の甘えは許されないと思う。

感想

・今年は全体的に市民フォーラムとしての活力がなかった。それでも薬害エイズの患者の一家のカムアウトを聞いて感動した。

連絡先 TEL & FAX 077-594-4436

| | | |
|--------|------|---------------|
| No. 23 | タイトル | 薬害エイズの現在 (いま) |
| | 主催 | HIV訴訟を支える会 |
| | 講師 | 原告遺族 |

ねらい

ビデオ上映と原告遺族の方に講演して頂くことで、薬害エイズの闘いの軌跡を振り返る。そして、薬害エイズが現在、抱えている問題点について探る。

ながれ

薬害エイズ10年にわたる闘いを記録したビデオ「人間の尊厳をかけて」の上映。
休憩後、原告遺族の方に自らの体験談を語っていただく。
講演の最後には、会場より質疑応答を受け付け、現在の問題点について話し合う。

感想

「原告の方の生の話が聞けてとても良かった」
「ビデオの中での被害者の方々の話が、どれも重くのしかかってきました」
「改めて厚生省や医療関係の貧しさを感じました。患者、感染者のみに限らず関係者の多くに心の痛みが続くことを感じました」
「ビデオや話を聞き、患者はもちろんだが、それを取り巻く周りの人々の苦労を改めて知った。また国とは和解したが薬害エイズ問題はまだ終わっていない。これからの真相究明に期待したい。そして忘れてはならない」

連絡先

HIV訴訟を支える会
TEL 03-5978-4335
FAX 03-5978-4330

| | | |
|--------|------|----------------------|
| No. 24 | タイトル | 栄養学では語れない、食生活と最新食品情報 |
| | 主催 | AIDSケア・プロジェクトグループ |

(*主催者から報告書の提出がないため会場ボランティアの報告書等より概要を掲載)

ねらい

HIV感染者を6年以上サポートし続けている立場から、生活に密着した食生活やリラクゼーションの大切さを本人ならびに多くの人に知ってもらいたい。今回は「レクチャー&クッキング」プログラムとサロンでの食事会からのノウハウを報告する。

感想

- ・講師の先生の話が明るくとてもわかりやすかった。参加者の方々も聞いて、うなずき、笑い、興味を持って聞くことができたと思う。
- ・栄養とは人が食物をとって健康に生きることで、精神的、肉体的、社会的にサポートすることで健康を保つことができる。
- ・いろいろ工夫することで上手に楽しく栄養を取っていく重要性がわかった。

連絡先

AIDSケア・プロジェクト
〒169-0073 新宿区百人町1-3-3 サンライズ新宿315号
TEL 03-3203-9887
FAX 03-3203-9885

| | | |
|--------|------|--------------------------|
| No. 25 | タイトル | 音楽構成詩「未来への選択」—薬害エイズと闘って— |
| | 主 催 | 「未来への選択」小平合唱団 |

ねらい

薬害エイズの被害者たちは血友病の治療をする病院でエイズに感染させられました。そのうえ告知が意識的にされなかったためエイズの発病を抑える治療の機会を奪われたり、愛する人への二次感染もおきました。被害者でありながら差別と偏見の中で身を隠すように生き、ひっそりと亡くなっている現状です。危険と知りつつなぜ使われ続けたのか真相は今だ明らかになりません。命と人権が優先され、二度と薬害の起きない、弱者や少数者への差別偏見がない社会にするため、私たち一人一人が考え行動していきたい。

ながれ

薬害エイズの被害者である川田龍平さんが実名公表すると、多くの若者たちも自分にできることをと行動に立ち上がり、厚生省の前で人間の鎖を作りました。それは国をも動かし厚生大臣が謝罪しました。いじめで自殺を考えた人、不登校の人、差別を受けている人たちからは、励まされた、頑張りたいという便りが届きました。そして、彼もまたそれに励まされました。この音楽構成詩は、彼の誕生から、告知、死を意識する日々、そして実名公表してたたかう姿が綴られています。かけがえのない生命が大切にされる社会を目指し、一人の人間としてこの星（国）を変えていきたいという彼のメッセージを、地元小平を中心とした120名余の合唱団員が3年間歌い続けています。

感想

龍平君の誕生から、HIV 感染の告知をうけ、それを受け止め、たたかい始め、現在に至るまでの、一生懸命さや、怒りなどが心にすっと入ってきて、心が熱くなりました。差別や薬害エイズの本当のことを教えてくれたとおもいます。老若男女という感じの構成ですごい迫力でした。

連絡先 龍平君を支える会 〒189 - 0012 東京都東村山市萩山町1-2-3
TEL 042-342-1677 FAX 042-342-1887

| | | |
|--------|------|-----------------|
| No. 26 | タイトル | 心を聴く —講義と実習— |
| | 主 催 | 社会福祉法人 横浜いのちの電話 |
| | 講 師 | 有田 モト子 |

ねらい： 人の話を「きく」ことのスキルアップ

ながれ：[講義] きく 聞く (hear) : 自然に耳に入ってくる うなづく
聴く (listen) : 心からきく 耳に神経を集中する
訊く (ask) : 人にかかわってきく 確認しながら
対面時 観る (observe) : 表情 態度 しぐさなど非言語的なものできく
[実習] 3つのグループに分かれて話し合い

感 想：

- ・「きく」ことの難しさを改めて感じた。
- ・電話相談の基本を再確認できた。
- ・知識で答えるのと心で答えることの違い。
- ・人と接することの大切さ、難しさを痛感した。
- ・話をきいてあげることのしんどさをどう乗り越えたらよいか課題が残った。



連絡先 社会福祉法人 横浜いのちの電話 〒240 - 8691 横浜市保土ヶ谷郵便局私書箱32号
TEL 045-333-6163 (事務局) 045-335-4343 (24時間)
045-335-7830 (エイズ専用 金曜：18時～22時)

| | |
|--------|---|
| No. 27 | タイトル 子ども買春・子どもポルノの根絶に向けて 主 催 ストップ子ども買春の会 |
|--------|---|

ねらい 日本の現状とアジアの現状、そして子どもの性的搾取の根絶に向けての課題と、これからの取り組みを理解し、行動を共に支える人たちを発掘し、広げる。

ながれ 1. 参加者と発表者の自己紹介

2. 1990年以降のECPAT運動の流れ、特に1996年のストックホルムでの「子どもの商業的性搾取根絶を目指す世界会議」以降の流れ。日本の子ども買春・ポルノ野放し状況への国際的批判でますますひどくなる現状。1997年以降の法案成立に向けての会の活動と現状
3. 児童買春・児童ポルノ処罰法案の内容と議論のポイント、および会の立場
 - ①子どもの「性的人権」擁護②買春の処罰 ③国内外の人身売買を処罰 ④公訴要件から親告を外す ⑤国外犯の確実な処罰 ⑥子どもポルノを一切(所持も含め)禁止 ⑦ポルノの描写範囲を実態に即して規定 ⑧規制範囲にコミック・アニメを含める ⑨捜査・公判段階での子どもの人権尊重
4. 質疑応答とディスカッション、全体の枠組みの理解

感想

20名以上が、初めに用意した席を超えて埋め尽くした。昨年の実績からの予想を上回る参加者を得、また中には、遠くは岩手や秋田からの参加者もあり、主催者として、この問題への関心の高さと広がりを実感した。女性の参加者が多いのは何時ものことであったが、質疑では男性の発言が目立った。男性の側からの問題認識が進んできたことの徴候であれば幸いである。感想からは、母親として、あるいは教師としての立場からの言葉が、当事者としての切実な響きがあった。次には視覚情報をもっと提供していきたい。



連絡先 〒169-0003 東京都新宿区本塩町7日本YMCA同盟内

TEL 03-3352-7903 FAX 03-5367-6641 e-mail: stop@jca.apc.org

| | |
|--------|--|
| No. 28 | タイトル バトル・オブ・セックス～もっとフリーに、気持ちよく～ 主 催 グループめると |
|--------|--|

(*主催者から報告書の提出がないため会場ボランティアの報告書等より概要を掲載)

ねらい

現代の男女を取り巻く状況は多様化しており、情報のスピードにも振り回されている。男女のルールも新たな局面をむかえている今、口には出しづらい「性」について自由に話せる場にしたい。

感想

男女を取り巻く状況というのは、非常に微妙で難しいものであることが確認できたと思う。もうすこしなごやかに話し合える雰囲気づくりをすると、よかった。

連絡先 グループめると

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCAかながわレッドリボンプラザ内

TEL 045-662-3721 FAX 045-651-0169

| | |
|--------|---|
| No. 29 | タイトル AIDSとアドボカシー —対感染症政策をめぐる事例から— 主催 動くゲイとレズビアン 出演者 講師：中川重徳（東京弁護士会）、梶原完（動くゲイとレズビアン） 進行：柳橋晃俊（動くゲイとレズビアン） |
|--------|---|

ねらい

1998年3月、「感染症予防法案」（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）が、およそ100年前に成立した「伝染病予防法」およびそれに付随するいくつかの法律を統合し、新時代に適合した感染症予防政策をつくるという触れ込みで国会に上程されました。しかし、厚生省の原案は当事者の政策参加や患者の人権保障などの観点で大きな問題を含んでいました。本企画は、この法案をめぐる、当会の国会などへの働きかけの事例を通して、エイズに関する民間の活動におけるアドボカシーの重要性について提起するものです。

発表内容と流れ

講師の中川重徳氏は、これまで国のエイズ政策を規定してきた「エイズ予防法」への批判、患者・感染者の直面する法的問題の解決に向けた取り組みなど、多面的にエイズ問題に関わってきました。中川氏はスライドを使いながら、今回の「感染症予防法案」が結局、患者・感染者の統制管理という観点から作られていることを説明、法案の抜本的改善を提言しました。

梶原完氏は、今回の法案に関して自ら政党や国会議員にロビーイングを行った経験から、各党や国会議員の反応について報告しました。また、80年代後半の「エイズ予防法」反対運動に比べ、今回の法案に対する運動がかならずしも活発とはいえないことについて懸念の意を表明し、多くの人がこの法案について関心を持つべきだと提言しました。

企画に参加していただいた方は、この法案に関心を持つ行政機関の現場の方が多かったようですが、質疑応答の時間には、こうした現場で行政を担っている方から、現場で直面する問題点などについて、率直な意見がかわされました。

結局、本法案は9月の臨時国会で賛成多数で可決されましたが、これまでの感染症政策を反省する前文がついたこと、患者・感染者の政策立案への参加を認めるべきなどとする付帯決議が同時に採択されたことなどから、内容的にはまだまだ不十分ながらも、当会も含め、いろいろな民間の団体の運動が最低限反映されたものになったのではないかと考えています。

連絡先 動くゲイとレズビアン
 〒164-0012 東京都中野区本町6-12-11 石川ビル2F OCCUR内
 電話：03-3383-5556 ファクス：03-3229-7880 e-mail：occur@kt.rim.or.jp

| | |
|--------|---|
| No. 30 | タイトル あなたのの中のバリアを考える —バリアフリー '98— 主催 ソクラテスプロジェクト 出演者 庄子忠雄・副島義博・長谷川俊雄（ソーシャルワーカー）、竹内良・大本正樹（企業啓発担当）、 富田恵子（小学校教諭）、岩室伸也（医師）、司 会 逢澤祥子（ソーシャルワーカー） |
|--------|---|

ねらい

私たちは日頃何らかの暮らしづらさ（バリア）を感じている。多方面からの発表とその後のディスカッションを通して、参加者各人が持つ固有のバリアについての気づきとバリアフリーな生き方へのきっかけが生まれることを願った。

ながれ

ふっつわく介護の問題を、自分の人生の中の出来事として考えて欲しい（庄子）。人との信頼関係は、専門職ということで逆に阻害されることもある（副島）。他人事というバリアを現地・現物・現実の3現主義で、企業内で啓発中（竹内）。「～できる」という発想で始まる、人と物へのバリアフリーな係わり（大本）。最近元気がない男の子が多い。「～らしく」から開放される性教育を展開（富田）。他人事で病気に向かうと必要な情報・専門性が生かされずバリアが生まれる（岩室）。親の中にある児童感、期待・役割は強制力に変換することに気付くこと（長谷川）。

専門・責任・自己決定についてディスカッション

感想

色々なバリアを透し自由な選択肢の中から自分が選択できれば素晴らしい。私がエイズに引っかかっているのはバリアを考える扉であったからだと思う。何故AIDSだけ、逆差別と考えていたが本質を考えられた。

連絡先 ソクラテスプロジェクト
 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民活動ポータルセンター レターケース109

| | | |
|--------|------|--------------------------------|
| No. 31 | タイトル | 居酒屋ホンのほほん感染者ホン君とAIDSが当たり前の時間を一 |
| | 主催 | サークルホン |
| | 講師 | サークルホン代表 洪 久夫 (ほん ひさお) |
| | 協力 | サークルホン関係者 |

ねらい

今までのエイズの暗いイメージをなくし、明るい感染者のイメージ作りやいろんな人との交流を通して、エイズへの理解をしていこうとしました。

ながれ

「居酒屋」形式でのトークと交流の場として設定。会場を居酒屋のようにセッティングして、参加者には「お客さん」となってもらい発泡酒やカクテル、ソフトドリンクを一缶100円程度で提供。その場で講師役の洪がHIV感染者、ゲイであることをオープンにして自分自身がゲイと自覚する以前からのこと、HIV感染を知る以前からのことをも含め、感染告知を受けた時のこと、現在の治療の状況、生活や交流の実態などの体験を話しました。

最後の15分間くらいは、会場参加者の同意のもとテレビ局の取材を受け、洪ともう一名がインタビューに答えました。

感想

今年、初めて参加して自分の体験を話しました。周りが、まさかアルコールなんて出すなんて、思わなかったと思います。いろんな人がいましたけれども、またやってほしいという人が随分ありました。エイズに対する理解と交流ができたと思います

連絡先 サークルホン 代表 洪 久夫
〒164-0003 東京都中野区東中野3-16-8山水ハウス103号室
TEL 03-5386-0338

| | | |
|--------|------|------------|
| No. 32 | タイトル | AAAの正しい使い方 |
| | 主催 | AAA運営事務局 |

ねらい

AAAの活動を紹介する中で、参加者の方々から意見や問題点を頂戴し、AAAならではの活動を展開していく。

ながれ

特にAAAが力を入れている全国高等学校文化祭エイズ啓発コーナー開設促進や、ルーマニアエイズ孤児救済の現状等を詳細に説明。これからAAAが目標としている活動を紹介。質疑応答。

感想

- ・何も知らない人に対して知ってもらおうという、導入を大切にしていける団体も必要だと思います。
- ・全国の高校5400校中200校位しか、AIDSに対して行動をおこしてないということに驚いた。

連絡先 AAA運営事務局
連絡先 〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-9-20 TM広尾3F
TEL 03-3447-0419 FAX 03-3447-0358

| | | |
|--------|------|------------------|
| No. 33 | タイトル | 同性愛者の人権とAIDSを考える |
| | 主催 | エイズアクション |
| | 講師 | 南定四郎・浜中大輔・佐々木護 |

ねらい

政府機関で「同性愛者の自己決定権」なる発言があったが、そのような認識こそ同性愛者の人権を無視したものである。

ながれ

- (1) 人権擁護推進審議会にて辻村みよ子委員が「プライバシーの権利や自己決定をどうとらえるかー安楽死や人工授精・妊娠中絶、同性愛の権利等々も保障するか」と発言した。
- (2) PWA/Hには同性間性行為によって感染した方々がいる。「同性愛の権利等々も保障するか」という否定によってAIDS対策は人権侵害を犯すことになってしまう。
- (3) HIV支援のためのネットワークは人権思想を基礎にして構築されるべきである。



来場者感想

- (1) 人権が大切なのはよく分かった。
- (2) 同性愛者が差別をうけていることに驚いた。
- (3) 政策には当事者の意見を取り入れるべきだ。

連絡先 エイズアクション
〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺70 プラザー若林301
TEL/FAX 03-3235-5071 e-mail:minami23@ro.bekkoame.or.jp

| | | |
|--------|------|---------------|
| No. 34 | タイトル | エイズ模擬授業 (小学校) |
| | 主催 | “人間と性”教育研究協議会 |
| | 講師 | 谷森正之 |

ねらい

文部省指定の研究発表校等のエイズ授業は、マニュアル化されたものがあり、ただそれに従ってやっているにすぎない。子どもたちは、現在行われているエイズの授業に満足していない。「エイズ」というのは、どうも血液だけの問題ではなく、もっと重要なことがあるようだ。でも先生は隠しているし、逃げているということを知っている。結果として教師は、生徒からの信頼を無くし、馬鹿にされ「どうせ大人なんて…」と見限られるような授業をくり返している。性教育は本来、生徒と教師の間の信頼を高める役割を果たすもの。今もう一度、性教育自体をきちんととらえ直し、その上にエイズ学習を進めて行かねばならない。

内容

- ・ 《性交》人と人が触れ合うことの大切さ。……同性愛への理解
「よいエイズ、悪いエイズ」観の克服
- ・ 感染者への同情ではなく、生き方に学ぶことが大切。……共生
- ・ 感染者は普通の人であることを知る。
- ・ エイズと闘い、倒れし人々の思いを伝える。

感想

子どもたちにどのようなことを伝えたらよいのか、少し見えてきた。まず教師が、性に対し、エイズに対ししっかり向き合い、逃げずに伝えることが大切と、勇気を得た。

連絡先 “人間と性”教育研究協議会 電話048-478-6724

| | | |
|--------|------|--|
| No. 35 | タイトル | Language Teaching and HIV/AIDS Education |
| | 主催 | JAPANetwork |
| | 講師 | Louise Hayes、神田政典、他1名の合計3名 |

ねらい

日本における外国語教育を通じてHIV/AIDS教育を行うことを啓蒙し、またその方法に関して考えること。

ながれ

講師3名の自己紹介

講師のそれぞれの現場（大学、高等学校、家庭）からの発言

- ・大学の英語の授業でのAIDS/HIVについて調査し発表する活動についての報告
- ・高校の英語の検定教科書、副読本等の教材におけるAIDS/HIVの取り扱いを考察
- ・保護者の立場から、学校教育やマスコミでのHIV/AIDSの取り扱いへの批判

フロアとの質疑応答

感想

外国語（英語）での授業の方が生徒がHIV/AIDSに関して恥ずかしがらずに議論できるという講師の発言には、「英語を用いながら教育の工夫をしていることがわかった」という賛成意見と、「疑問を抱いた」、「しっかりと伝わらない」という反対意見の両方があった。

| | |
|-----|---|
| 連絡先 | 神田 政典 |
| | 〒251-0028 藤沢市本鵠沼1-2-14 ジョリメゾン鵠沼202 |
| | TEL/FAX 0466-22-1223 |
| | E-mail: mk90125@city.fujisawa.kanagawa.jp |

| | | |
|--------|------|----------------|
| No. 36 | タイトル | ねえママ、エイズってなあに？ |
| | 主催 | 岡村聡子（CSR） |

ねらい

昨年と同様、子どもの一番身近にいる親が性についての子どもからの問いをまっすぐに受け止めることが最も効果的な性教育でありエイズ予防活動なのではないかという問題意識のもとにプログラムを考えた。

ながれ

- 1 ゲーム 他己紹介ゲーム 2人組になり自己紹介。次に4人組になり、今自己紹介しあった方のことを他の方に他己紹介します。
- 2 レジメを読んでHIV/AIDSの基礎知識のおさらい
- 3 グループワーク ①「ねえママ、エイズってなあに？」と問われたら、あなたはどうか答えますか？ ②あなたの子どもは今14歳です。ある日子ども部屋のゴミ箱からコンドームのパッケージが見つかりました。さて、あなたはどのように対応しますか？息子バージョン、娘バージョンで意見をまとめてください。①について 子どもの年齢によって答え方はいろいろあるでしょう。ただ、性をネガティブにとらえずスルッとさりげなく答えるのがベストだと思います。②について 14歳は難しい年頃です。頭ごなしに問いつめないで。ただ、子どもからのSOSのサインの可能性もあり得ますから「これみつけたけど、何か困ったことある？」と問う必要があるかもしれません。
- 4 ペニス模型によるコンドーム装着実習

感想

- ・ストレートな講座で、とても楽しく学びました。役立つ物がいっぱいでした。
- ・ほかのお母さん方にも是非知ってもらいたいと思いました。
- ・未婚の女性を交えながらコンドームの使用法を実習できたことは輪を広げる意味において大変よかったと思います。

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 連絡先 | CSR 岡村聡子 〒232-0042 横浜市南区堀ノ内町 1-72 |
| | TEL/FAX 045-711-2545 |

| | | |
|--------|------|--------|
| No. 37 | タイトル | 女性とエイズ |
| | 主催 | 吉永 陽子 |

ねらい

女性とエイズについて医学的な視点のみならず、社会的な状況も含め参加者自身が考える機会を得ること。そのためには「性」について話し合う場が必要であり、主催者側からの講義のみならず、グループワーク、ロールプレイ、メディテーション（瞑想）等を探り入れた、ワークショップ形式で第1回文化フォーラムから毎年実施している。（主催者の意図により参加は女性のみ）

ながれ

・オリエンテーション：ワークショップ形式で実施する意義、参加者を女性に限定した理由について
 →・リラクゼーションとグループわけ：ゲームを行いながら参加者の緊張をほぐす。→・グランドルール：秘密を守る、無理をしない（パスOK）、批判的にならない等→・グループワーク：テーマは何故女性感染者が増加しているのか。感染のリスクをどのように減らすのか。→・ロールプレイ：パートナーが望まない性行為を強要した際どのような対応をするのか。→・フェミドームの紹介→・メディテーション（瞑想）：BGMを用いて、女性感染者の手記の朗読。主催者のファシリテートによって瞑想。

感想

・自分の事としてエイズを考えた、考えるいい機会となった。・「性」について話しあうのは、初めて経験だったが、ポジティブになれた。・明るい雰囲気話しやすく、聞きやすい場だった。・自分には遠い問題だと思っていたのが身近に感じられた。

参加者を女性のみに限定した理由：性を語る「安全な場」を確保し、よりピアな立場でのワークショップの実現を可能にするため。

| | | | |
|-----|-----------|--------------|------------------|
| 連絡先 | 吉永 陽子 | 医師 医学博士 | 長谷川病院 精神科 |
| | 〒181-0015 | 東京都三鷹市大沢 | 2-20-36 |
| | TEL | 0422-31-8600 | FAX 0422-31-8878 |

| | | |
|--------|------|------------------------|
| No. 38 | タイトル | PHAの役割を考える～PHAの講演活動から～ |
| | 主催 | せかんどかみんぐあうと |
| | 講師 | 大石敏寛、他 |

ねらい

患者・感染者のエイズに対する取り組みは必要であると言われ続けていますが、なかなかその具体的な活動については語られることはこれまでありませんでした。この企画では、患者・感染者の具体的な活動の一つである講演活動のアンケートからその効果を分析し、患者・感染者の活動の効果とその意味を提起したいと考え企画しました。

ながれ

・せかんどかみんぐあうとの活動についての説明
 →PHA中心の団体で、PHA当事者としてエイズ問題に対して取り組んでいる団体
 ・アンケート結果の発表
 →講演前、直後、一月後の三回エイズや感染者への意識に関するアンケートをおこないその変化をはかった。結果、講演後に感染者に近づきたくないと思う人が激減するなど大きな効果が見られた。一月後には若干その数が増える傾向も見られ、継続的な取り組みが必要であることもわかった。

・質疑応答

感想

・アンケートの変化はとても興味深かった。
 ・感染者の活動を具体的に聞けてとても参考になった。

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 連絡先 | せかんどかみんぐあうと |
| | 〒164 東京都中野区本町6-12-11 石川ビル2階 |
| | TEL 03-5385-0542 FAX 03-3229-7880 |

| | | |
|--------|----------|-------------------------------------|
| No. 39 | タイトル | H. I. Voice 劇場「HIV を抱えて生きる人たちの声をきく」 |
| | 主催 | H. I. Voice Act |
| | 構成・台本・進行 | 中山直美 |
| | 協力 | H. I. Voice 編集局 |

ねらい

「H. I. Voice」誌は、読む人に「PWAも自分たちと同じように、それぞれちがった個性をもち、家族や仲間を支え、支えられ、日常に折り合いをつけながら生きている」という当たり前の事実を伝えてきました。H. I. Voice 劇場は、この「H. I. Voice」誌の HIV/AIDS に係わる様々な立場の人たちの声を聞いてもらうことで、仲間の存在を知り、出会い、勇気づけられ、共に歩む社会へのメッセージが増幅できればと願うささやかな作業です。

ながれ

1. 趣旨説明 (5分)
2. 朗読劇場 (45分)
3. 朗読者の自己紹介 (10分)
4. 会場の参加者との意見交換 (30分)



感想

- ・朗読者と観客の交流の時間が良かった。
- ・「H. I. Voice」誌を読んできたくなった。
- ・HIVの問題にもう一度戻ってみようと思った。
- ・朗読を聞き自分の生き方を考えさせられた。

連絡先 H. I. Voice Act 岡島龍彦 〒236-0005 横浜市金沢区並木3-6-8-302
TEL/FAX 045-784-9659

| | | |
|--------|------|--|
| No. 40 | タイトル | 第12回国際エイズ会議 (スイス) より |
| | 主催 | 実行委員会 |
| | 協力 | 林素子 (エイズコーディネーター)、根岸昌功・宮田一雄 (AIDS & Society) |

ねらい

「Bridging the Gap」のテーマで行なわれた会議についての報告を聞き、世界的に話題・問題となっている事項を確認する。

内容

- ・UNAIDS 報告：1997年松現在 世界の感染者数3000万人 (先進国8%、発展途上国92%)、医療費 (先進国95%、発展途上国5%)。
- ・最新治療：HAART (Highly active antiretrovirus treatment) により血中のウイルス量が減少し、測定限界以下になることが確認された。しかし、途上国ではHAARTはおろか、薬剤自体が入手困難な状況にあり「Gap」は大きくなっている。
- ・妊婦、新生児にAZTを投与することで母子感染率を1%にまで抑えることが可能となってきた。
- ・アメリカでは抗HIV薬は17種類入手でき、Abacavir や Efavirenz 等の新しい逆転写酵素阻害剤の報告がなされた。日本では9剤しか認可されていないためより早期に入手可能となる施策への要望があった。
- ・ライフスタイル：服薬をより効果的にするためにはライフスタイルを変えるなどの工夫が必要である。
- ・教育：学校、職場、地域での教育の必要性和成果が報告された。CSW (commercial sex worker) への教育でコンドーム使用率が増加した (中国)。

連絡先 林素子 Tel. 044-861-1775
根岸昌功 AIDS & Society 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町60 まんしょん早稲田 401
Tel/Fax 03-3200-0399 E-mail:society@t3.rim.or.jp

| | |
|--------|----------------------------|
| No. 41 | タイトル つ・く・る性教育 一話せばはずむ性のことー |
| | 主催 横浜エイズ勉強会 |

ねらい

子供にとって、好ましくない性情報が、氾濫している一方、エイズを正しく理解し、行動の変容を促すような学びの場は、一般の人々にとって、見つけにくいのが現状ではないでしょうか。私たち、横浜エイズ勉強会では、正しいエイズ理解の基礎となる性教育を実現するための場作りを提案しています。知識だけでは行動は変えられない。性ってなんだろう？生きるって何だろう？そんなことを大人も子供も一緒になって、ゲームをしたり、性教育グッズを作りながら、話したり、表現することで考えていきます。今回は「布の絵本」を使って、「赤ちゃんはどうやって生まれてくるのかっていうお話」と「生理の話」の基本シナリオを、参加者のみなさんにアレンジしていただき、性を考え、自分の言葉で伝える経験をしてもらいました。

ながれ

会の紹介→アイスブレイク→性教育グッズ「布の絵本」紹介→休憩→性を語る体験ワーク→参加者による「布の絵本」お話し作りと発表



感想

- ・後半に参加者全員で、布の絵本を使って発表し合ったのは印象的。教える年代によっていろいろ違いをつけることなど、実際自分でやるとよくわかった。
- ・仲間うちで議論を続け完全なものをめざすより、外に出ていって失敗を重ねる中から一つのやり方を見つけ出す時期に来ていると思う。

連絡先 横浜エイズ勉強会 横浜中央YMCA かながわレッドリボンプラザ内
〒231 横浜市中区常盤町1-7 活動日：毎月第1・第3土曜日 18：00より
TEL 045-662-3721 FAX 045-651-0169 E-mail: motomura@yk.rim.or.jp

| | |
|--------|--------------------|
| No. 42 | タイトル ボランティアについて考える |
| | 主催 フレンズ・フォー・ライフ |
| | 講師 吉田 なつ恵 |

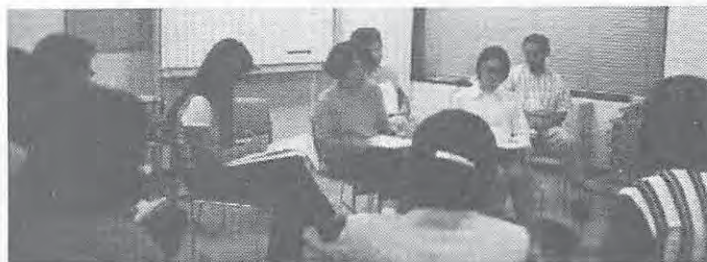
ねらい 3つのテーマ 1) ボランティアを行う時のルールやマニュアル 2) QOL向上が目標だが、事例報告があれば 3) その他 についてディスカッションする。

ながれ

- 1) 現状のフレンズ・フォー・ライフにおける、ボランティア活動の目標、信念、実態報告。
- 2) 参加者の、参加目的を含めた自己紹介
- 3) 3つのテーマについて、参加者全員でディスカッションをした。

感想（参加者）

- ・ボランティアは、目的意識を持つべきである。又、自分がどこまで出来るか見きわめ責任持ってニーズに答える。
- ・ディスカッション方式は、皆の立場や主張も見る事が出来、和らいだ雰囲気であった。
- (主催者)・色々な立場の人の意見を聞いて参考になった。
- ・行政、教育、NGO、それぞれがマンネリせず協力し、特別でない病気のために、特別な場を持ち声を大にしていこう。



連絡先 フレンズ・フォー・ライフ (代表) 吉田 なつ恵
TEL 053-442-3025 FAX 053-442-3759

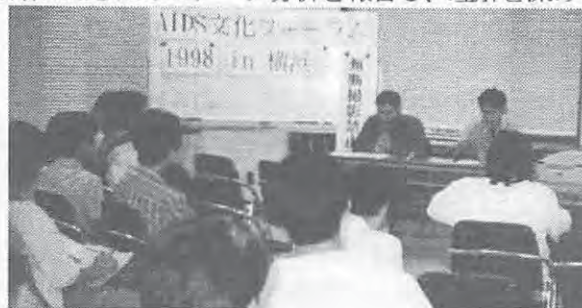
| | | |
|--------|------|----------------------------------|
| No. 43 | タイトル | 同性愛者のための電話相談・統計報告 |
| | 主催 | 動くゲイとレズビアンのか (アカー) |
| | 講師 | 風間孝、野崎真治、他2名 (アカーヘルプラインサービススタッフ) |

ねらい

エイズ相談やHIV診療の現場で、同性愛者の対応に戸惑いや知識の限界による問題に突き当たっている方のために、同性愛者が置かれている社会背景、環境を踏まえるためのデータ分析を報告し、理解を深めてもらう。

ながれ

- 同性愛についての基礎知識レクチャー
- アカーの電話相談の統計報告(平成9年度994件)
- ロールプレイ実演
- 質疑応答



感想 (来場者)

- ・初めて同性愛者であることを公言している方々の話を聞いた。
- ・同性愛についての具体的理解が深まった。
- ・もう少し細かい相談内容の資料が欲しかった。
- ・内容的には質が高いが、詰め込みすぎだった。
- ・同性愛と異性愛は同じもの、平等なものであるという言葉が印象的でした。
- ・同性愛者の悩みの受け皿になるような機関の存在を知ること出来た。

連絡先

動くゲイとレズビアンのか (アカー)
 〒164-0012 東京都中野区本町6-12-11 石川ビル2階OCCUR内
 TEL 03-3383-5556 FAX 03-3229-7880 E-mail: occur@kt.rim.or.jp (担当:菅原)

| | | |
|--------|------|---------------------|
| No. 44 | タイトル | 「福祉制度を感染者に活かすために」 |
| | 主催 | HIV ソーシャルワーカーネットワーク |

ねらい 当会はHIV感染者の相談に応じるソーシャルワーカーの資質の向上とソーシャルワーカーの立場からHIV感染者の理解と協力を社会に求めるための啓発活動を目的とし、感染者に対するサービスとして医療費助成制度さえあればよいとは考えていない。現存する社会の偏見、生活していく上での課題、仕事、社会参加等を考え、今回の身体障害者福祉法の改正をきっかけに、「障害」とは何か、すべての「障害」を持つ人をサポートするシステムはどうあるべきかまで視野を広げ問題を整理したい。各市町村窓口の対応や、身体障害者手帳のあり方の問題点を発表し、どのようにあるべきかを踏まえてよい方向に向くよう働きかけを行う。ソーシャルワーカーの働きかけで区市町村の窓口対応が改善された。また、郡部の申請のしづらさく社会的不利>が存在していることが明らかになった。

ながれ

- 発表：1. 身体障害者福祉法がHIV感染者に適用されるにいたった経過
 2. 身体障害者手帳の申請にまつわる問題点：
 3. 関東各県からの問題提起 (東京都、茨城県、千葉県、神奈川県、埼玉県)
 4. 病院のソーシャルワーカーの役割：
 相談会：ソーシャルワーカーによる相談会 (個室・電話)

感想 プライバシーの問題はHIV/AIDSに限らず大きな問題で難しい。福祉に対する自治体間の格差が大きいことに驚かされた。プライバシーへの配慮のなさに大きなショックを受けた。MSWの知名度がまだ低い。MSWの重要性を知った。問題提起はされたが、具体的な解決をどうしたらよいかわからなかった。

連絡先

HIV ソーシャルワーカーネットワーク 代表 磐井 静江
 事務局 〒289-2511 千葉県旭市イ-1326 総合病院国保旭中央病院 医療相談室内 本橋 宏一
 TEL 0479-63-8111 FAX 0479-63-8580

| | | |
|--------|------|-----------------------------|
| No. 45 | タイトル | H I V感染者の視点で考える 身体障害者手帳とは何か |
| | 主催 | ポジティブネットワーク |

ねらい

身障者手帳の交付開始についての討論

ながれ

メンバー有志の意見交換及び会場との交流

感染者自身が手帳交付を受けるにあたってのエピソードなどが披露された。

感想

(主催者)

- ・手帳のメリットを伝えることにより、感染者が普段どんなことにリスクを感じているか伝えることができたように思う。

(来場者)

- ・障害者手帳を申請するメリットとデメリット、申請した人、しない人両方の話を聞き、本人達の考えていることや思い、障害者手帳の実態や現状が良く伝わってきた。
- ・会場にA I D S以外の身体障害者の方がいて、その観点から「手帳」とは何であるかを聞き、あー、また一つの面でしか見ていなかったなと反省した。一面からだけの視点が偏見に結びつくんですね。そのような意味でも有益だった。
- ・これから障害者認定をする人が安心して申請できるためにはどうしたらよいか、よく考えてみなければいけないと感じた。

連絡先

| | | |
|--------|------|------------------------|
| No. 46 | タイトル | 在日「外国人」諸事情と、A I D S諸問題 |
| | 主催 | アジア友好の家 (F A H) |
| | 講師 | (主宰) 木村吉男 |
| | 協力 | 木村妙子 |

ねらい

在日タイ人・ミャンマー人などに、「エイズ」などの諸病が多発。社会的に、感染問題は野放しの状態で、すでに発症・死亡に至るケースまである。外国人の場合、直接の医療関係以外に、地域や入管など各行政、大使館との関係を慮外できない。これらについて一緒に考えたい。

ながれ

- 来日・在日外国人とは：①来日の目的別、②「外登」以外の人々、③入管法の関係。
- F A H諸活動の経緯：①35年来、「留学生」の世話、②1975年以降、「難民」などインドシナ系人救済、③1985年以降はさまざまな来日・滞留者の問題。
- 主にミャンマー人などの「エイズ」問題事例……①生活困難な事情、②病気・医療事情の深刻化、③行政（入管・厚生省・地方行政）、医療の現場、保健所などとの連携の仕方、④大使館（領事部）との関わり方、⑤関係諸団体との連携。



感想

実例を含めての話はとても勉強になった。もっと真剣に考えてゆきたい。外国人の受け入れがきちんとできていないところに、エイズ問題が起きているように思う。

連絡先

アジア友好の家 (F A H) [主宰 木村吉男]
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-10-7 大森ビル 4F
TEL(03)3368-5561 FAX(03)3360-3953 <http://www.root.or.jp/FAH/> FAH@root.or.jp

| | | |
|--------|------|-------------------------|
| No. 47 | タイトル | キルトディスプレイ&ワークショップ |
| | 主催 | メモリアル・キルト・ジャパン 講師 橋田 智子 |

ねらい

メモリアルキルトを紹介し、なぜAIDSで亡くなった人の存在がキルトという形で生まれ、残されてきたのかを伝える。対象が「人」であるために一生懸命しすぎるとバーンアウトしやすい、その成果や改善が簡単には見えにくい「AIDSに関する活動」をすでにしている、しようとしている今の自分について見つめてもらう。

ながれ

メモリアルキルトについてその活動の始まりから説明し、それぞれのメモリアルキルトを見ながら、そのエピソードを聴いた。ワークシートに今の自分について（元気度%、活動経歴やその内容、問題状況や課題、今後の展望等）書き、参加者全員「聞き上手」になり、発表し合った。



「ティベア
基金の
新しい
イラストが
決まりました。」

感想（来場者）

- ・キルトの中に、すごく家族や遺族、友人の思い、また時に本人の思いが詰め込まれていることを感じました。
- ・活動内容だけでなく、活動して感じたことや得たことを聞いて良かったです。これからの活動に役立つようなことばかりで元気が出ました。

| | |
|-----|--|
| 連絡先 | メモリアル・キルト・ジャパン 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-6-60 プラザ新大阪216 TEL 06-350-9286 FAX 06-350-9287 E-mail: |
|-----|--|

| | | |
|--------|------|------------------------|
| No. 48 | タイトル | HIV感染者の社会参加 ～仕事と治療の両立～ |
| | 主催 | ライフ・エイズ・プロジェクト（LAP） |
| | 講師 | 長谷川博史 清水茂徳（LAP代表） |

ねらい

HIV感染者の置かれている状況をふまえ、HIV感染者にとって大切な仕事と治療の両立について理解を深め、社会参加を促進する環境づくりを目指す。

ながれ

1. HIV感染者の長谷川氏から自身の体験をもとに感染者の自立、仕事、治療、差別や偏見などについて語ってもらった。
2. LAPの行っているHIV感染者の社会的自立支援事業を取り上げたNHK総合テレビニュース「おはよう日本」のVTRを上映。
3. 質疑応答

感想

- ・仕事と自立をすることをいかに確保していくか。主婦の状況と似ていると思った。（30代、女性）
- ・感染者はドラマクィーンでなければいけない、という偏見を持っていることが分かりました。長谷川さんは自分の人生を楽しんでいるなあと思いました。
- ・「感染者は自立した存在」というお話は、感染しているしていないに関わらず、人としての生き方につながるものだと感じた。（20代、女性）
- ・「差別はあるかもしれないが私は感じたことはない」と言い切る姿は力強く、見習いたいと思いました。

| | |
|-----|---|
| 連絡先 | 〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号 ライフ・エイズ・プロジェクト（LAP） TEL 03-5685-9644 FAX 03-5685-9703 E-mail: lap@tokyo.inetc.com HomePage http://www.lapjp.org/ |
|-----|---|

| | | |
|--------|------|------------------------|
| No. 49 | タイトル | 拠点病院におけるHIV診療の状況—中間報告— |
| | 主催 | AIDS&Society 研究会議 |

(*主催者から報告書の提出がないため会場ボランティアの報告書等より概要を掲載)

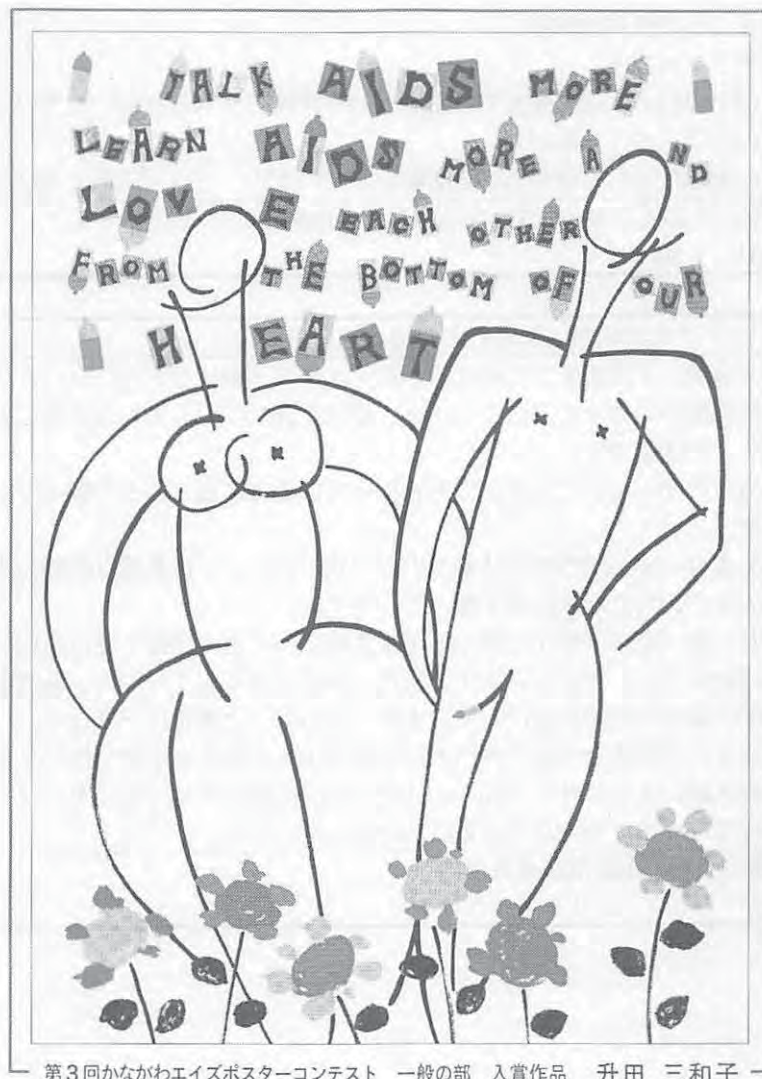
ねらい

AIDS&Society 研究会議HAINプロジェクトで実施した、拠点病院初期選定段階でのアンケート調査の中間報告を行ないます。現在第2回目の調査を行なっています。

感想

拠点病院が増加し、ソーシャルワーカーや心理職を置く病院も増えていることがわかってもらえた。しかし、感染者の診療をするという歯科医のなかには表向きの場合もまだまだ少なくない。

連絡先 AIDS&Society 研究会議
〒162-0045 新宿区馬場町60 まんしょん早稲田 401
TEL & FAX 03-3200-0399



第3回かながわエイズポスターコンテスト 一般の部 入賞作品 升田 三和子

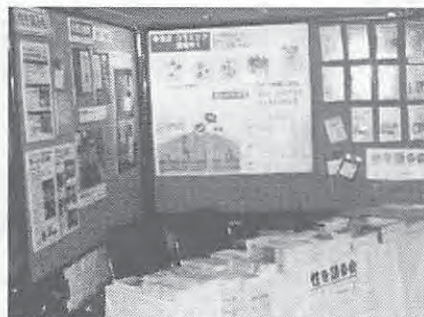
展示プログラム報告

| | |
|-------|--|
| No. 1 | タイトル 「注意！クラミジア激増中」 主 催 「性を語る会」(資料提供 アーニ出版) 展示担当 長谷川瑞吉 |
|-------|--|

「性を語る会」は、学校や職場でエイズについて指導・学習するときに役立つ新教材を展示することになっている。今回は、「注意！クラミジア激増中—STD(性感染症)にかかっているとHIVに感染しやすい—」がテーマ。

特に高校生や若い人たちに急激にクラミジアが広まっている現状をふまえ、緊急テーマとして、STDによる粘膜の炎症とHIV侵入の関係をわかりやすく図示してみた。

この教材は同時に、北沢杏子による分科会「楽しくやろう！エイズの模擬授業」のなかでも実際に試用して、参加者に実際にしてもらった。多くの参加者がそれぞれの現場で指導する際のヒントになれば嬉しく思います。エイズに関する教材ビデオ11本、図書6冊、教材セット5点も展示し、参加者との交流を深めるよいチャンスでした。次回も新しい教材を考えます！



連絡先 〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-6 アーニ出版内「性を語る会」事務局
TEL 03-3708-7326 FAX 03-3708-7324

| | |
|-------|---|
| No. 2 | タイトル BeeHIVe 市川の活動概要の紹介 主 催 BeeHIVe 市川/捧(ささげ) 陽子 |
|-------|---|

BeeHIVe 市川は毎月第4土曜日に市川教育会館4F図書室で定例のミーティングを開いています。時間は1:30からです。

メンバーが制作したキルトの肌かけ布団

メンバーが制作したテディベア

キルトやテディベアはPWH/Aに応援していますという意味で、もらっていただいたりしています。

簡単に出来るトトロのお手玉の作り方紹介

フリーマーケットへの参加などもしながら啓発活動をしています。どうぞ気軽に遊びに来て下さい。

連絡先 千葉県市川市鬼越2-6-16 TEL/FAX047-334-8881
捧(ささげ) 陽子

| | |
|-------|---------------------------|
| No. 3 | 有終支援いのちの山彦電話/活動パネル展示と資料配付 |
|-------|---------------------------|

限りあるいのちの「有終」を支援するために、がん・エイズ・難病などで、ターミナルの階段にある患者さん、ご家族、その他関係の方々の「こころ」を、電話を通して少しでも支えることができれば、というのが趣旨のボランティア活動です。

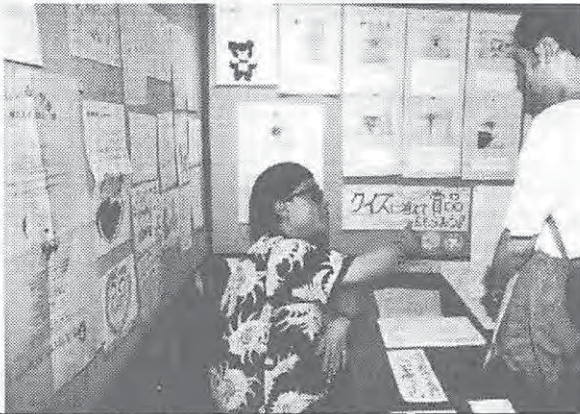
山彦電話を多くの方々にご存知いただき、悩みを持っている方に届くことを願って、パネル展示に2年連続で参加しています。

十分な展示とはいえませんが、対外的な活動が少ない我が会としては貴重な経験です。微力ながら今後もエイズと取り巻く人々のお力になればと願っています。

山彦電話は、毎週月・水・金の午前10時から午後4時に、一定の研修を受けた約30名のボランティアが交替で電話を受けさせていただいています。また、平成10年11月から、毎週金曜日の午後7時から10時まで、試行的に夜間相談をお受けしています。匿名で、会費等は一切なく、一期一会としての出会いを大切にしています。医療的な相談や専門的な解決方法をお答えする訳ではありませんが、特定の宗教や政治・価値観や先入観にとらわれず、悩みの傾聴と共感的理解そして電話をかけていただいている方を受容するよう心がけています。あなたのお電話お待ちしております。

連絡先 有終支援いのちの山彦電話東京支部
相談電話 03-3827-5310

| | | |
|--|------|-----------------------|
| No. 4 | タイトル | H. I. Voice Digest II |
| | 主催 | H. I. Voice 編集局 |
| <p>H. I. Voice は感染者と未感染者が考えや思いを分かち合い、互いに理解を深めるための声のフォーラムとして、93年8月に創刊された通信誌です。展示では、今年新たに作った紹介用小冊子「H. I. Voice Digest II」の拡大コピーをパネルにして掲示した他、増刷をして参加者に無料配布しました。また、これまでに発行した H. I. Voice のバックナンバー合冊本の販売もしました。無料配布した「H. I. Voice Digest II」は、連日、置けば置いただけなくなってしまうという状態で、展示コーナーが情報ステーションとして果たす大きな役割を感じました。編集局としては、「Digest II」の増刷や合冊本の準備などを通してグループワークができたことも楽しく大きな成果でした。</p> | | |
| <p>連絡先 〒198-0032 東京都青梅市野上町2-7-4-106 E-mail: KHB00661@nifty.ne.jp</p> | | |

| | | |
|--|------|----------|
| No. 5 | タイトル | つ・く・る性教育 |
| | 主催 | 横浜エイズ勉強会 |
| <p>これまでの勉強会でやってきたワークショップで作られた性教育カルタ、「布の絵本」(写真版)一赤ちゃんはどうやって産まれてくるのかというお話、性教育絵はがき展示。参考資料としてエイズ勉強会活動紹介、オリジナル性教育グッズ紹介チラシ、缶ムースで作るペニス模型の作り方説明書配布。</p> | | |
|  | | |
| <p>連絡先 〒231-14 横浜市中区常盤町1-7 横浜中央YMCA かながわレッドリボンプラザ内 Tel. 045-662-3721/Fax. 045-651-0169 活動日：毎月第1・第3土曜日 18:00より E-mail: motomura@yk.rim.or.jp</p> | | |



No. 6 横浜AIDS市民活動センター (YOKOHAMA.A.A.I.C.) / 活動紹介

横浜AIDS市民活動センターのPRと当センターが企画して作成したコンドームケースを（オーケースOK 'S）紹介しました。AIDS文化フォーラムに先立ち実施したAIDS WEEK' 98では、若い人達の目に多くとまり、持ちかえってくれました。お互いのことをいたわりあう気持ちを大事にしてほしいと願っています。今回も多くの人に關心を持っていただき、あり



がとうございました。普段のセンターの活動は、HIV/AIDSに携わるグループや個人の方々と講座を企画実施、グループの支援、図書などの貸出しもしています。もっともっと、分かり合うために頑張っていきます。ぜひ、横浜AIDS市民活動センターに御越し下さい、お待ちしております。



連絡先 〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町 2-66 満利屋ビル 8F Tel045-262-8881 Fax045-262-8882
平日 13:00~20:00 土日祝日 13:00~17:00 月曜日は休館

No. 7 かながわレッドリボンクラブ / 活動紹介

かながわレッドリボンクラブは「かながわエイズボランティア育成講座」修了生を中心としたグループで、主にエイズに対する啓発活動を行っています。

HIV/AIDSへの理解と支援を表すしるし、レッドリボンを通して、AIDSについて他人事ではなく、自分の問題として考えるきっかけ作りにつなげていけるようなキャンペーンや、自分の周りの人に分かりやすくAIDSを伝えられるような企画を考え、活動しています。

今回は、クリスマスツリーのキルトにレッドリボンを飾り、展示しました。



連絡先 〒231-8458 横浜市中区常盤町 1-7 横浜 YMCA 内
TEL : 045-662-3721 FAX : 045-651-0169

No. 8 HIV訴訟を支える会 / 活動紹介

95年7月の「人間のくさり」の時の写真などのパネルの展示。

薬害エイズ関連の報道の新聞記事の展示。

薬害エイズ関連書籍の展示・販売。

ビデオ「人間の尊厳をかけて」（薬害エイズ10年の闘いを記録）の展示・販売。

また、受付に、国会で審議中だった「感染症予防法案」に反対する請願書の署名用紙を置き、署名を集めました。

連絡先 HIV訴訟を支える会

TEL 03-5978-4335 FAX 03-5978-4330

No. 9 | メモリアル・キルト・ジャパン/活動紹介と報告

メモリアルキルトの説明のキルト、オーストラリアのキルトプロジェクトとのフレンドシップキルト、1994年横浜国際ショナルキルトディスプレイの写真、テディベア基金の紹介等の展示。リーフレット等の配布。グッズやテディベアの販売等。



テディベア
基金の
新しい
イラストが
決まりました。

連絡先 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-6-60 プラザ新大阪216
TEL06-350-9286 FAX06-350-9287

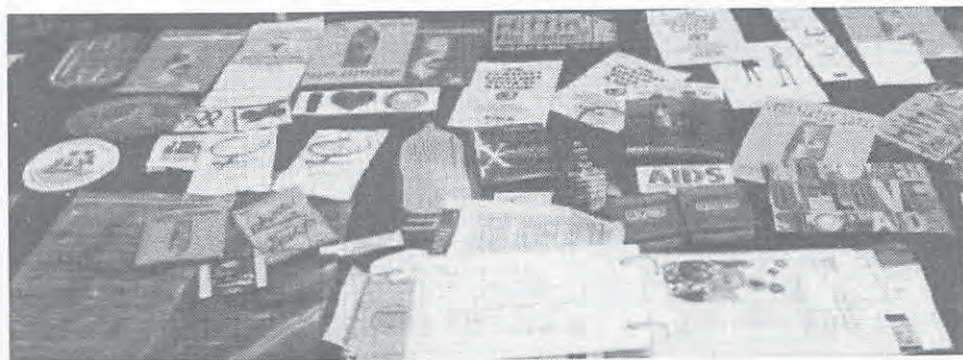
No. 10 | タイトル 避妊・性感染症を話せる関係
主催 “人間と性”教育研究協議会かながわサークル



連絡先 “人間と性”教育研究協議会かながわサークル
代表 鎌田美代子
〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原1-18-2 TEL 0467-44-5185

No. 11 | HIV と人権・情報センター東京支部

「感染者の手記」
「AIDS をどう教えるか」などの書籍類と、レッドリボンピン等、HIV/AIDS への思いを託して自己表現できるオリジナル・グッズ類を展示販売しました。



連絡先 東京都千代田区内神田1-2-2 吉田ビル2F
TEL : 03-5259-0622

| | |
|--|---------------------------------------|
| No.12 | タイトル HIV感染者のニーズに対する支援 主 催 エイズアクション |
| <p><HIV感染者のニーズに対する支援>を 食事、差別解消、休養、情報、経済負担、心の ケア、在宅就労、生き甲斐、移送のニーズに対 応する支援のアイデアを箱書きと矢印によって 図示する。</p> | |
|  | |
| <p>連絡先 エイズアクション 〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺70 ブラザー若林301 TEL/FAX 03-3235-5071 e-mail:minami23@ro.bekkoame.or.jp</p> | |

| | |
|--|---|
| No.13 | タイトル JAPANetwork (Japan AIDS Prevention Awareness Network) 主 催 |
| <p>我々は英語等の外国語教育の一環としてHIV/AIDS教育を行っている教員で構成されているグループであり、フォーラム3日目に参加した。今年は去年パネルには英語その他の言語で書かれたHIV/AIDS教育用ポスターを張り出し、我々が作成した英語の授業で使用できるHIV/AIDS教育用教材及び我々のニュースレターのコピーを希望者に無料で配布した。ブースに待機したメンバー全員が発表で講師を努めたのでブースに常駐できなかつたが、コピーのハケ具合から少なくとも50名以上の人々が我々の活動に何らかの興味を示してくれたものと思われる。来年こそ実行委員は市内の外国人対象の宣伝活動を行ってほしい。</p> | |
| <p>連絡先 神田 政典 〒251-0028 藤沢市本鵠沼1-2-14 ジョリメゾン鵠沼202 FAX: 0466-22-1223 E-mail: mk90125@city.fujisawa.kanagwa.jp</p> | |

| | |
|---|-----------------------------|
| No.14 | タイトル 「ブースだホン」 主 催 サークルホン |
| <p>サークルホンは初めての発表で、「多くの人に存在を知らせ、ゆっくり交流できる」とブース出展を決定。やりたかったのは「屋台だホン」。「居酒屋ホン」ブース版で、飲み物を出し語り合うスペース。が、会場都合で残念ながら実現できず。結局は「自由の女神にレッドリボンを！」のアピールとして天安門事件の「民主の女神」と東京に99年1月まであったパリの「自由の女神」の写真を張り詰め、ちらし、メンバーのAIDSで亡くなったパートナーの遺影等を置く。多くの人との交流の場というより、縁ある人々の「お休み処」、子ども連れの「託児所」として機能。お詫びとご報告です。「すべての人の自由と尊厳の価値を、たとえ病気・障害と共にもあってもその尊厳と自由が失われてはならないことを再確認する」趣旨の「自由の女神にレッドリボンを」(女神にレッドリボンをかける、パレード、花火、女神前イベント)のうち、提唱者(加藤)力不足で、パレード以外は実現できませんでした。パレードは「エイズ人権パレード」として12月5日に「目立ちたいのよ! やりたいのよ! 言わせてちょうだい!」~あつたら困るもの、それはエイズではなく、差別~をメインスローガンに東京新宿にて行ないました。</p> | |
| <p>連絡先 〒164-0003 東京都中野区東中野3-16-8 山水ハウス103号室 サークルホン 代表 洪 久夫 TEL: 03-5386-0338</p> | |



タイトル TVドラマ「神様、もう少しだけ」 ライブトーク
出演 深田恭子（主人公真生役）、小岩井宏悦（同番組プロデューサー）
司会 岩室紳也（AIDS文化フォーラム実行委員、同番組医療監修）
主催 AIDS文化フォーラム実行委員会

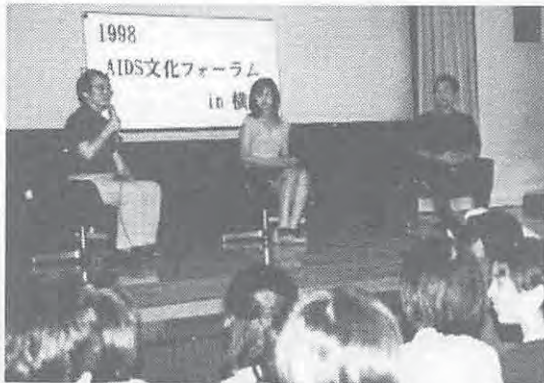
「ドラマを100倍楽しく見る方法」と題し、番組製作中のエピソードや番組の狙いを様々な視点から聞き、当フォーラムに参加する方々に、AIDS/HIVにさらに関心を寄せてもらえるよう企画した。

小岩井さん：



- ・このドラマをつくろうと考えたのは、2年程前のことでいろんな方々に話を聞いたが、その時の準備では到底作れそうにないと判断し、作れる日（今回）のために環境を整えてきて、放送にたどり着いた。
- ・このドラマでの主人公のHIV感染の経路を援助交際にしたかについては、援助交際したことで最愛の人にめぐり合い、後悔していないということにしてしまうとその行為が良いことだと捉える人もいる、また、援助交際を頭ごなしにいけないことなんだともしたくない、バランスの良いところで描きたかった。
- ・このドラマを製作している中でも、刻々とAIDSに関する状況は変化するので、この題材は非常に難しいと感じている。例えば、最初につくろうと思った2年前にはやはり死に直結する若しくは、直面する問題を避けられなかったが、人によっては、かなりそこへの距離が長くなってきていると感じられる。
- ・一番気にすることは、ハンディキャップを持つ人を描く時、彼らの苦しみや状況を描いたものを見て感じるのと放送する側とは必ずしも一致しない。その不一致が、彼らの生きる勇気を失わすことになるかもしれないという所に神経を使った。
- ・誰にでも平等に死は訪れる。番組のテーマとして、死を受け入れるのと同様に、簡単には受け入れないということが大事なところで、それに対して闘っていくことを提示しておきたい。

深田さん：



- ・学校の保健委員の時に、AIDSに関して調べたことがあるくらいで、印象としては怖い病気そして遠い病気という感じだった。
- ・いじめについてはされた人の気持ちを考えてほしい。でも自分がされたくないからと皆と一緒にいじめてしまう気持ちも分からなくもない。
- ・援助交際については、自分はしたいとは思わないし、いいことではないと思う。大人になってから後悔する時が来るかもしれない。毎日を大切に生きてくても生きられない人もいる、無駄にしないでほしい。

岩室さん：

- ・番組プロデューサーのこのドラマに対する思いが、岩室が突っ込んだように、彼の仕事ぶりにくどいほど現れている。そのほんの少しを今回文化フォーラムで紹介できたことは良かった。恭子ちゃんは、ホールに入る前に展示場をぐるっと観て回ってくれたんだけど、大塚先生の写真をみるや否や、ガツンときてしまったらしく、感動と衝撃のような感情に包まれた感じだった。やはり、大人でもなく子供でもない微妙で不思議な恭子ちゃんがこのドラマの主人公で良かったなあとは僕は見る側として思う。最後に、お土産のシューマイ君と餃子ちゃんのぬいぐるみを手にした彼女はかわいくて、そして強い意志のある印象の目を持つ彼女に、次回はいつ会えるのだろうか。

～ライブトークより～

(司：司会者(岩室紳也さん) 小：小岩井宏悦さん 恭：深田恭子さん 客：客席からの質問)

- 司 プロデューサーの小岩井さんにお伺いしたいのですが、今回「エイズ」を題材にされた理由を教えてくださいませんか。
- 小 生きることをテーマにしたドラマを考えると、逆に死に直面する病気を取り上げようと考えました。ガンや白血病だと、どうしても肉体との戦いになってしまう。死に直面しながらも、どう生きたいかを考えて、もっとも現代的な病気であるエイズだったらどうかと思ったんですけども、調べていくうちにHIV感染から発症までの期間が10年ぐらいあるということが題材としていちばん近い病気だなということ、ものを創る人間として、誰もそれを扱っていなかったというところに魅力を感じたこともありますね。
- 司 なるほど。今、生きるあるいは死ぬということがここで出たんですけども、深田さん、このドラマに取り組む前に自分が死ぬことについて考えたことがありますか。
- 恭 全然考えたことはありませんでした。
- 司 深田さんっておいつつでしたっけ。
- 恭 15才です。
- 司 15才。若いですね。こういうフォーラムに来て、ざっと見渡してもらおうとわかるんですけど、一部は深田さんのファンとかがいるんですけど、結構年齢層高いんですよ、エイズに取り組んでいる人。
- 恭 僕は42才ですけど、15才くらいだと死は考えないですかね。
- 司 今までは考えませんでしたけど、ドラマをやってから、すごく考えるようになりました。
- 恭 どういうことを考えるようになりましたか。
- 司 毎日を一生懸命生きるとか、無駄に使わないで生きようとか…。
- 小 では、死の恐怖というより、むしろ生きるエネルギーという感じ、それに移し替えている。
- 恭 出演者にそういう思いをさせるプロデューサーとして、感じるころはありませんか。
- 小 出演者、役者さんは大体そのドラマに入るとね、その逆側になってしまうんだから。
- 恭 出演者にとりよりは、視聴者から感じるころがありますね。インターネットで送られてきた視聴者の意見はなるべく聞かないようにしてるんですけど、第5話が終わった時に、番組宛に、つい最近まで死を考えたみたい若い女性から、この番組を見て、とりあえず最後まで見届けたいと思ったというようなメールを見ると、そういう反応が一番見たいと思っていたので、とりあえず一件だけでも反響がきてるということで、僕のなかで、やるべきことはやったという感じはあります。
- 司 では、狙いどおりの反応が一つあったということですね。
- 小 はい、そうです。
- 司 深田さん、初めてこのドラマの話、エイズのドラマって来たわけですけど、勉強する前に、エイズって聞いてどんなことを連想していましたか。
- 恭 やっぱ、怖い病気。そんなに知らなかったの、なんかすごく遠い病気、遠い感じがしていました。
- 司 身近に、友達とか家族にそういう人がいるとは思わなかった？
- 恭 はい、あんまり身近には考えていませんでした。
- 司 この話が出る前は中学生だったと思うんですけど、中学校でエイズ教育ってなかったですか。
- 恭 えーと、保健委員会に入っていて、調べた事がありました。でも、その時は保健委員会だから調べるといような感じで、自分からはあんまり…。
- 司 “保健委員会だから調べる”いい言葉ですね。学校の先生もこの会場にいらっしゃると思うんですけど、そんなものですか。
- 恭 すごくやっぱ、遠く感じていたので、うん。
- 司 この怖い病気の話が来たんだ、って話したとき友達はどんな反応をしましたか。
- 恭 友達には特に言いませんでした。
- 司 誰かに言ったとき面白い反応はありましたか。
- 恭 大変だねーって。
- 司 どういうところが大変だと？
- 恭 みんなそんなに具体的は言わなかったんですけど、ただ、宣告を受けた時の心境とか分からないじゃないですか。
- 司 多分そういうのを言っていたんじゃないかと。
- 恭 今の深田さんの話を聞かれて、小岩井さんどうですか。
- 司 大変だね。
- 小 僕はよくこんなテーマを取り上げて、大変だろうなあと思いますが、大変だなあという、どのあたりが一番大変なんだろうと、予想されますか。
- 恭 僕等が一番心配していたのは、実際に感染している方、あるいは、患者の方がこのドラマを見てどう思うかということです。僕等はハンディキャップを持っての方というのをドラマの中で扱うことがあるわけですよ。それは目の見えないうちだったり、耳の聞こえない方だったりですが、実際にその立場にある方達、あるいは病気を扱うんだらその病気で苦しんでいる方達というのが、テレビで扱うことをどう受け止めるかというのは、送り手の側と必ずしも一致しないわけですよ。送り手がこういう気持ちで送ってますっていうのと、こういう気持ちで受けとめますっていうのは、なかなか一致しないところがあって、何よりいちばん恐れたのは、そういう人達を傷つけてしまったり、そういう人達の生きる勇気みたいなものを、失わせてしまうということが一番恐れたんで、その辺のところが一番神経を使いましたね。現在でもいちばん使っています。
- 司 深田さんは、実際感染している役柄ですけど、実際に感染されてる方にお話をお聞きになりましたか。



恭司 はい。
 司 そうですか。で、その時の正直な印象はどうでしたか。
 恭司 はい。えーと、会う前は、自分がどういうふうに話をするのか、すごく心配だったんですけど、会って話をしたら、なんか今感染してるって事を忘れちゃうくらい、本当変わらないじゃないですか。
 司 だから、その…偏見とか持つてる人とかいるけど、私は大丈夫です。
 恭司 前はどうか。
 司 前は、考えたことがなかったんですよ。
 恭司 僕は、中学や高校によくエイズの話をしに行くんだけど、大人って、つい、差別を止めましょう、偏見を持つのは止めましょうって言うんですけど、中学生っていうのは考えてもいないって思うほうがいい。エイズについての偏見とか、差別とか。
 恭司 そうですねー、あんまり考える機会がないですね。身近にそういう人がいなければ、考えない。
 小 小岩井さんが先ほど、実際に感染されている方を傷つけないかという話をされましたね。AIDS文化フォーラムを行うときにも、常に感染されてる方が参加している。例えば、このフロアの中にも当然いらっしゃるだろうし、いろんなセッションなんかにも出ていらっしゃる。そういう方を傷つけないで、でも、知らず知らず傷つけてしまうのかなというところがあるんですけど、例えば、取り組んでこられて、傷つけるとしたらこんな所かなとか、気をつかわなきゃいけないとしたらこんな所かな、というところが、特に映像の立場から何かありましたら教えてください。
 小 やっぱり、三話あたりから、学校で彼女へのいじめが始まる頃ですよ。いじめが起こった時点で、つまりいじめがあるものと人は見ますよね。学校でそんなことが分かったら、いじめがあるんだというふうにも。でも、それを僕等はある種当たり前前の事だと思うじゃないですか。今時の子供たちは、本当にほんのちょっとの違いでいじめられる理由を見つけ出すわけです。それが感染症でなく、違う病気であったとしても、いじめの対象になったりするわけだから、HIV感染、しかも感染症であったりした時は、すごくいじめの対象になりやすい。でも、それをテレビでやっぱいいじめられてますよとやってしまう時点で、すにでもう気分が悪いという人はいると思います。しかし、それを避けて通っていると、結局、その醜れ物にふれないように、さわらないようにしようとする、このドラマのように非常に正直なドラマ、題名がエグイドラマでも、結局そういう所をうまく迂回して通っていく、回避しているとは思われなくなかった。いじめられるシーンもあるけれど、その代わり、いじめに負けない、戦っていく、という姿勢を見せることによって、いじめに立ち向かっていくということを描きました。ある種、いじめみたいなものはあるけれど、いじめの原因という現象だけを描かずに、戦っていくという生き方を、こちら側の番組で言いたいことはこっちなんですと、きちっと示すことによって、オープンにしているという感じですよ。
 小 小岩井さんって、結構性格的にくどい方ですか。(笑)
 小 くだいですがね、話が長くて。
 小 私もくだいんです、実は。(笑)そこまで言わなくていいのに、一つ見せるとその説明はこういうことでしょって、やっちゃう方なんです。私もドラマの台本をずっと見せて頂いていたんですけど、失礼かもしれないですけど、すごく合うんですよ、フィーリングが。その一方で、ドラマを見てると、くどいドラマだなあ、と思いつつながら、これには裏はあってこういうことなんですよ、ということがきちっと全部フォローされている、そういう意味でのくどさとかいうか…
 小 初めて言われたので、どうだろうな。くだいとか、きちんとその辺を整理しないと。
 小 この問題は、言いつばなしですまないとか、やりつばなしですまないということですよ。だから、もしかするとそうとれるところがあるかもしれない、と思いますね。
 司 本当に、丁寧に企画を考えられていらっしゃるかと思います。今、いじめの話が出ましたけど、恭子ちゃん、中学のときとか、いじめられたことってありましたか？
 恭司 はい。
 恭司 今度ドラマの中でいじめを受けて、どんな風感じました。
 恭司 ドラマの中では、スプレーをいっぱいかけられたりとか、あれはもうすっごく悲しかったです。悲しくなってきた、泣けちゃう。
 司 それは、自分の実体験とのオーバーラップもあったのかな。
 恭司 私は、お芝居をするときに自分のことと重ねないんですよ。真生は真生としてやるんで。
 恭司 でも、いじめってどう思います？良くないことに決まってるんだけど、自分も、もしかしてしてしまうかもしれないとか、というところで、僕なんかはあるのかなあいつも思うんですよ。
 恭司 された人の気持ちを考えてほしいし、でも自分がされたくないからみんなと一緒にやっちゃおうという、そういう気持ちも分かるし。
 司 自分がされたくないからみんなと一緒にやっちゃおう。
 恭司 はい。
 小 そのあたり、小岩井さんはいじめについてどういう風に考えて書こうとされてるんですか。
 小 ドラマのなかで考えているいじめについては、簡単に言うと無くならないということです。いじめられるということは大人の世界でもあるし、会社だって仕事が出来ない、ちょっとなんかあったりしてもいじめられてるわけですよ。子供はその延長線上にあると思うんですけど、つまり、いじめはもうなにをどう言っても無くならないです。ただ、僕はいじめを無くしようよという説教をするつもりは全然なくて、その代わり、出来ることは、恐らくいじめられてる人間がそれに向かって立ち向かっていくことしかないだろう、つまり、人の気持ちは変えられないけども、自分の気持ちは自分でどうにでもなるということですよ。ドラマ的にはそういう扱いにしています。
 司 自分の気持ちは変えられる、そこは深田さんがさっきおっしゃったいじめられる気持ちにもなってちょうだい、理解してちょうだいってことですかね。
 小 だと思います。
 小 ドラマはこれから先、ストーリーを知っているとつい真生は死ぬの、死なないの、この後の展開はと質問をしたくなるんですけど、そこは質問しなきゃいけないから、こういう時は話の持っていく方が難しいで

恭 ですね。全然話が違うんですけど、深田さんって何が好きですか？（笑）
司 趣味は、読書とか、水泳とか。
恭 ドラマのオープニングのところは、自分で泳いでるんでしょ。
司 はい、自分で泳いでます。
恭 何であんなに泳げるの。
恭 2才のころから水泳を始めて、中2まで選手コースに入ってやりました。
司 得意種目は何？
恭 得意種目はクロールです。ま、何でもやりますけれど。
司 それで、あんなにきれいに泳げるんだ。小岩井さん、そういう特技は映像として生かすわけですか。
小 そうですね、彼女はピアノが弾けるって聞いたらピアノを弾くシーンを創ろうとか、相手役の金城武君が英語や台湾語を話せるとかっていったら、話すシーンを創ろうと思うわけですよ。
司 金城さん、今度英語しゃべるんですか。
小 そういうシーンもあります。
司 英語の台本のチェックもしないといけないんだ。でも僕、英語大丈夫です。帰国子女なんですよ（笑）
小 そういえば、金城さんの話も出ましたが、プロデューサーってすごい力持ってるんですね。例えば、俳優さん決めるのも、台本決めるのも全部小岩井さんがやってらっしゃるんですね。
小 まあ、そうですね。でも、力を持ってるというより、そういうポジションにあるというだけです。例えば脚本家ですごく大御所と仕事をする場合には、僕等には何の選択の余地がなくて、例えば山田太一さんがお書きになったものは、もう原稿をもらいに伺うだけだったりしますし。今の僕のポジションは、脚本から自分で始めたくて、どんな人にやってもらいたいかを自分で考えて、どんな話にしたいかということを作家とやり取りしてということだけなんですけど。
司 エイズだけではなく、生きる死ぬということを取り上げたいという思いはいつごろからあったんですか。
小 元々は2年以上前からあったんですけども、難しい題材だったんでいろいろ準備に時間がかかって2年くらい経ってしまったという感じですね。
司 エイズというテーマに決めてから、実際にOKが出るまでにどのくらいかかったんですか。
小 OKが出るというか、去年の春くらいに一度放送しようと思って、かなり進んだんですけど、当時本当に勉強不足で、ようやくH I V感染とエイズの違いが分かったとか、献血に行くと感染が分かっちゃたりみたいなことを描こうとしたりとか、やっていくうちにいろんな人からいろんな間違いを指摘されて、そうしてるとやっぱりこれは無理だなというふうになって、いつか出来る時が来るだろうと思って、お蔵入りのことがありました。
司 2年以上経って改めてやられたんですね。私がたまたま医療指導ということでやらせていただいているんですけど、本当に、小岩井さんの頭の中に全部ストーリーが出来ていて、こういうふう理解するんだとによって差があるんですけど、A I D S教育を多かれ少なかれやっているんですが、小中学生にA I ユーサーって会社でいえば、社長さんとか、ドラマの中でいえば元社長さんとかで最終決定されるところで、すごいのですが、休む時間とかなないんですか。
小 そうですね、番組に入っちゃうとやっぱり無いですね。
小 今回のドラマでは休まずに仕事されてるわけですか。
小 4か月くらいだと思いますけど。
小 4か月も無休不眠！？
小 でも、そういう時でないときは、休みますけども。
小 その時にご家族とゆっくり、という。
小 そうですね。
小 話はまた変わりますが、さっき、1 Fの展示場でコンドームケースを横浜エイズ市民活動センターが配っていますけれども、僕が「これは普及啓発としてお持ち帰り下さい」と言ったところ、担当の方は4つ程お持ちになったし、A Dの方も結構欲しがってる。若い方がドラマをつくってらっしゃる感じですね。
小 ドラマの現場は僕が一番年上ぐらいだと思います。おじさんですね。
小 失礼ですが、おいくつですか。
小 38です。
小 38でおじさんですか…。僕は42才だから、もっとおじさんですね。ところで、深田さんはどうして芸能会に入ろうと思ったの？
恭 私は、歌手になりたいくて、華原朋美さんに憧れて、オーディションを受けました。
司 華原朋美を知らない人、ちょっと手を挙げてくれますか？（何名か手があがる）
恭 そういふ人が世の中にいるんですよ。ところで、何故俳優の方に？
司 うーん、ドラマのお仕事がきてそれから、という感じです。始めは、お芝居の楽しさが分からなかったんです、余裕がなくて。でも今、このドラマをやって、もっとお芝居をやりたいと思うようになりました。
恭 俳優が面白い？
司 面白いという思える余裕はまだないんですが、もっともっとやりたいです。
恭 始めて深田さんにお会いしたのは、告知を受ける場面でしたね。
司 はい。
恭 リハーサルのときにお会いしたんですけど、あの場面は撮影の始まりの方だったでしょ。
恭 はい、始まったばかりでした。
司 あの時のことちょっと思い出してお聞きしたいんですけど、どこまで役柄になりきれました？
恭 というのは、「あなたはH I Vに感染してます」という台詞をもらって、これをどこまで受け止められたか。そしてその時の心の葛藤ってどうだったのかということを知りたいんです。



恭 あのとときは、まだ、真生ってこんな子かな一つて探しながら、やってたんじゃないかなと、思うんですけど、今はもう結構すんなり真生に入れてきて、普段でも真生が自分の中に出たりしてます。

1 Fで展示を見てたときとか、真生のこととか考えて、号泣しちゃったんです。写真展を見ているうちに何で号泣しちゃったのか良く分からないんですけど、とにかく自分も真生と重ねちゃって。写真展を見ていて悲しくなっんですが、すごく感動しました。

司 写真展ではどんな場面が印象に残っていますか。

恭 最後の、亡くなってから、自分を土に変えてほしいというところ。自分がいたことを残すのでなくて、あえて。この役をやっている、自分の死ってまだまだ考えられない。でも、考えると怖いんです。

司 小岩井さんにとっての生きる、死ぬってどういうことなんですか。

小 番組のいちばん最後に言おうと思っていることなんですけど、誰にでも死は防れる。誰にでも平等に起こることです。でもいちばん悲しいことは、順番が狂ったときですよ。若い人の死が悲しいことは、そのことだと思んですけど、その順番さえ狂わなければ、僕別にいつ防れても必ず来る。だから、受け入れられるような準備をするような生き方をした方がいいなということ、ある種番組のテーマ的なこととして。それとあと一つ、死を受け入れるのと同様に簡単に受け入れないということが大事なところ。それにたいして闘っていくんだ、最後まで後悔が残るっていうことは、一番気持ちが悪いことなので、とにかく死に対し闘うということ。ただ受け入れるときは素直に受け入れる、必ず防れることだからということ。

司 このドラマの場合、H I Vに感染したきっかけというのが援助交際ですけど、そのあと、真生は強く生きていくわけですよ。人間っていろんなことで後悔するじゃないですか。でも、後悔の一方で前向きに生きていけるということが出てくるというのが、H I V / A I D Sの問題だと思んですけど。

恭 深田さんはどうです、後悔せずに前向きに生きていくということをどういう風に考えているんでしょうね、そのあたり。後悔と前向きに生きていくところ、どう心のなかで整理をつけているのかな。

司 真生には圭吾がいるから、あれだけ強くなれたと思う。元から強い子だけど圭吾がいるから自分を支えてくれる人がいるから、強くなれるし。

恭 やっぱり、なかなか一人じゃ強くなれないけど、回りにそういうサポートしてくれる友達や恋人とかの存在が大きいんですね。深田さんもしや、こう辛いことがあったら、是非誰かに話をしたい？

司 はい。

恭 例えば、真生の役でも深田さんの立場でもいいけど、もう一度H I Vに感染したら、誰にいちばん最初に話しますか。

司 でも話すこともとても大変なこと。たぶんはじめは誰にも言わない。

恭 ああいう役を演じててもやはり、なかなかそういう風には言えない。

司 始めはなかなかいえない。でもやっぱり一番に話すのは、家族のよりも友達かな。

恭 何でも話せるそういう友達が、何人かいらっしやるんですね。

司 はい。

小 そういうのっていいですよ。小岩井さんが感染したら、どうされますか。

司 そうですね、打合せのときに作家と「本当に皆の前でこんな風に言える？」「普通は言わないよ」「俺は言えないよ」とかって話しますけど、取り敢えずは僕は言えないですね。妻帯者だし、年老いた親を悲しませてどうするんだみたいなところはありますね。ドラマで真生がみんなに向かってH I V感染を言うのは、恐らく唯一許される言い訳みたいなものがあるとしたら、彼女が子どもだから、家族に少しぐらい迷惑かけても、これから先、自分が一生懸命生きるため、許されることなんじゃないかと思うんですよ。僕等が言えないというのは、家族をすごくがっかりさせたり、友達や愛する人を傷つけたり、ということを何より恐れる訳です。しかし、彼女の場合は非常に若いから、人に言うことが結構許されるという理解でドラマは作りました。

恭 皆にカミングアウトすることを支えてくれたのは、圭吾だと思うんですけど、圭吾がいなければ、真生ってどうなってたんだろう。圭吾がいなければ、逆に援助交際をしまでコンサートにも行かなかったのかも。

司 出来ないし、圭吾と出会わなかったら、真生はどうなってたんだろう。

恭 皆の前でカミングアウトするとか、そういう勇気は無かったと思う。

司 本当にこのドラマっているんなところで賛否両論あって、私がいちばん良く責められたのは、真生は16才なのに医者1対1で告知してますよね。お母さん呼んでないでしょ。もし、深田さんがH I Vに感染したとしたら、一人で聞きたいですか。それともお母さんと一緒に聞きたかったですか。

恭 もし私がそうだったら、家族に一番に言えるか分からないし、迷惑かけちゃうかもしれないと思うから、一人で聞きにいった誰にも言わなかったりとかして、自分は何でも無かったんだって、言っちゃうんじゃないかな。

司 実は僕がいつも言い訳にしているのは、あなたはこの結果を一人で聞きたいですかって、先生が事前カウンセリングをした時に、一人で聞きたいという真生の声を受けて告知している、そういう設定だと思ってるんですけど、どの年齢を若いというのか、分かれ目なのかなと思うんですけど、小岩井さん、今回16才位の年齢を主人公にしてのはどうしてですか。

小 あんまり子どもだと、訳も分からず生きていくっていうことは考えにくいですよ。しかし、大人だと、さっき言ったみたいな、死に直面しなければいけないせつなさが出てこない。ちょうどバランスがつかのが16、7才なんです。深田さんは実際には15才なんですけれど、いろいろな子に会ったとき、18才位になると女の子というより女なんです。完全に出来上がっている感じがしてしまう。彼女なんか持っている非常に危うい感じ、子どもでもないし、大人でもない、それこそ先生がさっきおっしゃったみたいに一人で告知していいものだろうか位の年齢の女の子が持っている不安定さみたいなものがドラマに欲しかったんです。

司 小 そういう意味で、深田さんびつたりの役だった。初々しいですし、危うい危ない感じしますよね。ええ。でも、ただ単にふらふらしてる感じじゃなくて目が強いじゃないですか。ドラマの中で彼女は闘っ

司 ていかなくちやいけない訳ですよ、自分の命のためとか、その権利のためとか。闘っていくときに
ふらふらしてるだけじゃなく、強さも持っている。彼女はすごく良かったですね。
目が凄く印象的なんですよ。深田さんに告知の場面の話をしたとき、医者と患者が目を合わせる
ところがあるんです。その時、ああ恥ずかしい、なんて思いながら、思っちゃいけない、俺は今、演技指導
してるんだって思いながら話をしました。演技指導と言ったら、後で女房にあんたにできるわけ
ないでしょと言われるんですけど。(笑)

客 目が強く訴えてくると思いましたね。ところで、客席で恭子ちゃんに何か聞いてみたいと思
っている方もたくさんいらっしゃるでしょう。まず、10代の方で何か深田さんに聞いてみたい
ことある人いらっしゃいますか？

恭 司 もし、深田さんがHIVに感染して親に告知した時に、お母さんとかは何と言ってく
れると思いますか。難しいけど、泣いてくれたら嬉しいかなって。

恭 司 恐らく、告白する前に、親にいろんなエイズの情報って流すって思うんだけど。お母
さんこんなこと知ってるのか、学校で習ったんだよとか、そういう風に探り入れるの
かな。

恭 司 お母さんがHIVとかにどういうふうに思っているのかとか、ちょっと反応を見
ながら、行動に出ると思います。

恭 司 今回のドラマを受けて、ご家族の方と何かHIVについて話しましたか？この
ドラマやるってことで。

恭 司 私、仕事の話の家であまりしないんですよ。

恭 司 でもドラマ見てるでしょ、お母さん、お家の方も。

恭 司 はい、たぶん見てると思います。でも一緒に見てないんですよ。

客 うちの保健所にお母さんと一緒にドラマを見てたら、あんた大丈夫って
言われて(笑)それで保健所に検査に来たっていう人がいましたけど
ね。いい親子なのか良く分からない。まだそこまで話ができない
って感じですね。(客席に)あなたのお母さんはどうですか。

客 司 一緒に気持ちになって、深田さんの役のお母さんみたいな対処
してくれればいいと思います。

客 司 すごいお母さんですよ。皆がそういうお母さんだとい
いそうですね。

客 司 先に立った強みでもう一問い
いですよ。

客 司 あの、さっき歌手になりたいって
言ってたんですけど、何か歌って
ください。(客席から拍手)

恭 司 深田さんの歌を聞けるなんて幸せ
ですね、今日集まった方。

恭 司 In the Sky (番組挿入歌)よりワン
フレーズ生で聞けてこんな幸
せないですよ、本当に有り難
う。

恭 司 ドキドキしますよね。

恭 司 手が震えちゃいました。

恭 司 素敵でしたよ。次20代の人。

司 深田さんだけでなく岩室さんと、小岩井さんにも伺いたいのですが、最近、HIVの問題で
援助交際が脚光浴びてきているようなんですが、私は教育関係の仕事をしているのですが、HIVの
ドラマというよりは、援助交際を止めさせるためにHIVを出したんじゃないかと考える生徒も
いるわけなんですけど、その辺の兼ね合いと援助交際をテーマにしたという事について、小岩井
さんに伺いたいのと、深田さんについては援助交際をする役をやってみて、今の同世代の
援助交際をどう思うかということ、岩室さんには、実際に援助交際でHIVに感染するとい
うことが増えているのかどうかを伺いたいです。

小 司 分かりました。小岩井さん、なぜ援助交際で感染しなければいけな
かったのかというのは、良く言われる
ことなんですよ。

小 司 はい。でも全然違った意見も僕のところに来ていて、援助交際をしたこと
によって、彼女は自分の好きな人と出会えたから後悔してないから、援助交際をしても
いいみたいと思うという人もいます。僕はそれのちょうどいいバランスのところ
でこのドラマをやったんです。どうしてかという、援助交際はいけないってあんまり
頭ごなしにやっちゃうつもりもなく、第1話の頭のところで「本当に欲しいものを
手に入れたのに、しちゃいけないことなんてあるのかな」って、彼女は言う
んだけど、僕等作家が考える援助交際っていうのは、僕等が若いときにエレキ
ギターを弾くのは不良だと言われたというのと余り変わらないんだという
捉え方をします。いま、援助交際をしている女子高生に対して、上から物
を見てそれはしちゃいけないことなんだというのは、絶対したくないし、君達
社会の犠牲でかわいそうなんだよと、奉ることもしたくない。だから、バ
ランスがいいところで描ければよかったんだけど、やっぱり援助交際でHIV感
染してしまうんで、援助交際の罰がHIVであるかのような、捉え方をされる
のが一番困ったんです。病氣そのものが何かに対する罰ではないし、援助交
際というのが死にいたらなくてはならないような行為ではない。売春行為は
別に世界で一番古い職業といわれているわけだし。

恭 司 では、深田さん。援助交際って、確かに中学生、高校生に多いって
言われてるじゃないですか。そのこと
についてどう思いますか。

恭 司 自分はしたいとは思わないし、いいことではないと思うし、人は人だから、
そういう事をする人はしょうがないかなあ。あと、そのことを大人になっ
てから、後悔する時が来るんじゃないかなあ。

小 司 小岩井さん、真生は確かに、あのことを後悔しましたが、後悔しないで
むしろエネルギーに変えていって、圭吾に会えたんだと思うのですが、
援助交際よりも、どうその人が生きてるかってこと、その方が大事
なんだということですね。

小 司 毎日を大切に生きてくても生きられない人がいるんだから、無駄に
生きないで欲しいということです。真生の場合は、例えば援助交際で感
染した場合と、どこかのクラブでナンパされた男の子とセックスして感
染した場合のこの後悔ってそんなに違うかという、そうでもないんです。
あの時、ちょっとお酒飲んで酔っぱらわなければ良かったというふうな
後悔と、あの時チケットを欲しがらなければ良かったという後悔は、
そんなに次元が違うとは思えない。ただ、背負ったものは同じな訳です
よ。だから、その気持ちをどう克服して、岩室さんがおっしゃったように
前向きなエネルギーに変えていくかということです。



司 私への質問で言うと、援助交際で感染した人がいるかどうかということですが、少なくとも私の知っている範囲では、売春の、売る側の女性で感染した方はいますけれど、若い方、中学生、高校生は情報として入ってきていません。ただ、検査を受けないと分からないことだから、いるかないかと言われると分からない。最近の若い子は、例えば真生なんかでもあの時、一言「コンドーム使ってよ」って相手に言えばそれで済んだかもしれないことなんだけれど、何で使わせなかったんですかって言ったって、あそこでコンドームを使ったらドラマにならないですよ。（笑）その当たり、何かこうコンドームに対する思い入れはあります。

小 ドラマでは、本来そこはきちんと描くべきところで、使ったのか使わなかったのかあると思うんですが、彼女をみてもまだ子供っぽいところがあって、彼女にそういう所、いわゆるコンドームだとかゴムだとか言わせるのは、すごく抵抗がありました。ドラマとして、そこまでしなくてもいいのかなとか、僕等も甘えたところもあります。本当だったら、彼女がゴム付けてよと言ったのに、強引に彼がのしかかってくるみたいなことも考えたんですが、そうするとシーンそのものが、そういうシーンを楽しませるドラマってありますよね、そういうドラマと一緒にしてしまうのが困ったところだったんです。

司 あのシーンは本当にさらっとやってるシーンなんですけど、こういう葛藤があったし、あるとないで雰囲気が変わる。ところで、このドラマがビデオ化されるそうですが、それに合わせて「ドラマを100倍楽しく見る方法」は書いていいですか。（笑）

小 どういう内容になりますか？

司 一応、チェックを受けたいと思いますけど、最初の台本がこうだったとか、例えば、真生が元気で帰ってきたとき、まさか妊娠してるんじゃないよって、お母さんが言いますよね。母親には絶対にHIVって頭はないんです。妊娠を常に心配しているところをたった一言で描いている。最初こういう脚本だったんだけど、こう変わって、こう変わっていうとすごく面白い。HIVに対して、真摯に取り組もうとしているドラマだということを書いていい意味で書きたいなって。

小 それは、後々相談させていただくとして。（笑）

司 では、次30代どなたか一人……。はい、女性の方。

小 司 深田さんにお尋ねしたいのですが、中学生の時保健委員でAIDSについて調べられたというお話を聞きました。他にも学校でAIDSについての学習はされていたのかということと、それからもし学習されたり、保健委員として学習して良かったなあと思われることとか、今、小中学校で学校によって差があるんですけど、AIDS教育を多かれ少なかれやっているんですが、小中学生にAIDSに関してこんなことを教えたほうがいいんじゃないとか、また、逆に小中学校で学習しても関係ないって思われることがあれば、率直にお聞きしたいんですけども。

恭 私が行っていた学校では、AIDSについての勉強については特にしていませんでした。

司 全然授業も無かったの。

恭 はい。ありませんでした。

司 どの学校とは聞きませんよ。でも、中学生ぐらいでAIDSについて知っておいた方がいい。

恭 もっと、多分すごく遠い病気で考えているんだと思うので、身近に考えるためにも、先生が教えてくれるほうがいいと思います。例えば、AIDSについてどんなこと一番教えて欲しい？5分間だけ喋っていいって言ったら、どこからでしょう。AIDSといってもいろいろなことがありますよね。感染経路から。

恭 普通の人から全然変わらない、命の時間は限られちゃうけどみんなと同じ生きられるわけだし、今と同じっていうところ。

司 皆と同じ、命の大切さっていうことをAIDSで教えてほしい。

恭 はい。

司 よろしいでしょうか。次、40代以上の方はどうでしょうか。

小 岩井さんに伺います。AIDSっていうとこの2年間治療法がすごく発達して、現場のAIDSを扱っている医師たちは、今はAIDSは死に直結するものではなく、単なる慢性疾患であると思われている方もいるし、僕なんかAIDS=死という感覚はなくて、またこれから治療法も進歩するでしょうし、普通に天寿を全うできるようになるんじゃないかと思うんですけど、この先ドラマがどうなっていくか分からないんですけども、若い人が死と直面したドラマというものとして描くと、むしろAIDSに対する誤解を与えてしまうんじゃないかと思うんですが、どうお考えになっているのでしょうか。2年前描きたいと思っていたということですので、その辺の状況が変わってしまったと思うんですが、今はむしろAIDSになったら、死に直結するものではないということをおっしゃったほうがいいんじゃないかと思うんですが。

小 それは本当に難しい問題です。まず、おっしゃったようにこの半年ぐらいでもやっぱり状況はかなり変わっています。半年ぐらいまえにこのドラマを企画しようと思って、いろんな方にお話を伺ったときの状況と、後半になっていくにつれ、またいろんな方にお話を伺っている状況ともかなり違って、2年前には死と近かった病気が、今はかなり遠くなっているということは、僕も感じます。ドラマを描いていく上で、そこをどうしたらいいのかということに関して、いま正に悩んでいるということなんです。

司 その辺りは、恐らくこうご期待。

小 そうですね。ちょっとドラマを見ていただいて、僕等の葛藤みたいのが、最終回に現れるんだろうと思います。ちょうど最終回近くを考えているところなんですけど、どうしたらいいか、おっしゃったことにすごく悩んでいるところなんです。

司 実は第11話の準備稿が今日あたり出来上がる、12話についてはまだ出来ていない、ドラマが始まったときには真生が生きるか死ぬかも決まっていらないというように、生みの苦しみがある訳です。

今言っていたいただいた意見などを、私は医学的にフォローしなきゃいけないと思いますし、このドラマは岩室一人ではなく多くの医師、名前は出せませんがいろいろな先生方のご意見をいただいています。そういう意味で楽しみにしていただければと思います。今日こうやって2人の話を聞いてみて、皆さんいかが



恭
司
恭
司

でしたでしょうか。本当はもっと客席の意見や質問を受けたかったんですが、とりあえずこれぐらいで終わりたいと思います。そこで、AIDS文化フォーラムから、小岩井さんにはプレゼントはないんですが（笑）そんなにがっかりしないでください。深田恭子さんにプレゼントをあげたいと思います。（拍手）有り難うございます。

開けてみてみてください。

はい。

分かります？これ何か。高島屋で買ってきたんですけど。シュウマイ君（笑）。あともうひとつが、餃子ちゃん。横浜のAIDS文化フォーラムに来ていただいたという記念にさせていただければと思います。

小岩井さん、深田さん、今日はお二人から本当にいいお話を聞かせていただいたと思います。会場のみなさん、ぜひ今日の話をご家庭や地域、学校に持って帰っていただければと思います。最後に、お二人を盛大な白紙で送りたいと思います、どうもありがとうございました。



A Photo Essay

いのちの贈りもの

犬、猫、小鳥、そして夫へ

～ 大塚 敦子 写真展 ～

アメリカでエイズとともに生きる人たちと出会い、彼らの生き方を本にしたいと思ったのが92年。
それ以来、何人もの友人を亡くし、何度も挫折しそうになった。
それがようやく本の出版にまでこぎつけることができたのは、誰よりもジェニーのおかげだ。

親しくなった人が亡くなって落ち込み、どうしてもアメリカに行く気力が出ないでいるとき、
「どうしたの、つぎはいつ来るの？」と手紙をくれたのはいつもジェニーだった。

だから、この本が当初考えていたような、
性別や人種、社会環境も異なる大勢の人の人生を取り上げるものではなく、
ジェニーという一人の女性の生き方を記録した本になったのは、ごく自然ななりゆきだったと思う。

集中治療室に入っていたジェニーが亡くなったとの知らせを聞いたとき、
まさきに私を襲った感情は、くやしさだった。
彼女の死に目に会えなかった、「ありがとう」を言う機会を永遠に逸してしまったくやしき……。

その後、それまでに撮影した写真を全部床に広げて、つくづくながめた。
出会いから順にたどっていくと、私がかいま見た彼女の最期の3年間にそこに凝縮されている。
笑顔、動物たち、ジミー、そして病……。

ジェニーは最初のうちこそ写真映りを気にしていたが、
やがて私の方が撮るのをためらってしまうほど痛々しい姿をも、
堂々とカメラの前にさらしてくれるようになった。
それは、彼女がよけいなものを脱ぎ捨て、
「生きる」ことだけを見据えていく過程と重なっていたのかもしれない。

この本を作るためにすべてのネガを見直し、彼女との会話のメモを読み直すあいだ、
改めて彼女と向き合い、対話することができた。そんな時間を持てたことをありがたく思う。

4年間にわたる取材の道程では、多くの方が私を支えてくれた。
死に向き合う人と過ごす張りつめた日々のなかで、ときには疲れ果ててしまうこともあった。
そんなときいつも私の話に耳を傾け、適切な助言をしてくれた友人エレン・シーゲル。
自分自身エイズとともに生きながら、私を励まし続けてくれたビアトリス・カー。
そして、誰よりもこの本を心待ちにしてくれているジミー・ドア。
彼は本当の勇気と献身について、私の目を開いてくれた。
3人に特別の感謝を捧げたい。

ジェニーの遺灰が土に還ったあの森は、いま秋たけなわ。
やがて冬がめぐり、また春が来る。
森の生きものの中に、彼女のいのちは確かに受け継がれていくだろう。
暖かくなったら、この本を持ってジェニーの丘に登りたい。
彼女はいつでもそこで待っていてくれるだろうから。

1997年10月

大塚 敦子

岩波書店「A Photo Essay いのちの贈りもの、犬、猫、小鳥、そして夫へ」大塚敦子 著 あとがきより抜粋

～ ○ ～ ○ ～ ○ ～ ○ ～ ○ ～ ○ ～ ○ ～ ○ ～ ○ ～ ○ ～ ○ ～

感想

とても感動した。まるで短い映画を観ているように気持ちがこみあげてきた。少ない写真の中で若いジェニーがAIDSとたたかっている姿が十分に伝わってきた。日々の生活のつらさやイラダチがよくわかった。心のケアに何が必要なのかということも考えさせられた。何かにしがみつきたい境地に立たされたとき、それを受け止めてくれたその存在が重要なのだと思った。どんなに満足してきたか。どうしたら死ぬ瞬間、素敵で人生だったと思えるように生きられるものかを考えている。AIDSに特效薬はなく、死んでいく人は多いが、その人がよりよく死をむかえる準備は手伝えることができるのだと感じた。

A Photo Essay

(30歳女性)

いのちの贈りもの

犬、猫、小鳥、そして夫へ



岩波書店

関連プログラム

<Yokohama AIDS Week '98 in JOINUS>

1. 日時 1998年8月1日・2日 10:00~20:00
2. 場所 横浜駅西口 相鉄ジョイナス4階「自然の広場」
3. 内容 ◇写真展「HIV+の友だちを持つあなたへ」
(協賛:大阪府看護協会/協力:AIDS POSTER PROJECT)
◇パネルクイズラリー
◇AIDSに関するパネル展示・パンフレット配布
横浜AIDS市民活動センター活動紹介など
4. 主催 横浜AIDS市民活動センター

<かわさきエイズボランティア養成講座>

1. スケジュール 1998年7月18日(土) ボランティアのために
エイズの基礎知識
8月1日(土) 患者・感染者の思い
8月7日~9日 フィールドワーク(AIDS文化フォーラム)
8月15日(土) カウンセリングマインドの実践
エイズボランティアの実際
8月29日(土) 今後の活動を目指して
2. 受講者数 11名
3. 受講者の感想
A子さん ボランティアの様々な形態の具体的なことがわかってよかった。まだ具体的に何をするか
絞り込めていませんが、自分で使える短い時間の範囲の中で、できることから始めてい
こうと思っています。
B男さん 改めて自分ということを見直した。特に理解というテーマの時は参加してよかったと思
いました。

<かながわエイズボランティア育成講座>

1. スケジュール 1998年7月11日(土) ボランティアについての基礎知識
7月18日(土) AIDSの基礎知識
7月25日(土) 知識から行動へ ~ワークで感じるAIDS~
8月1日(土) 地域グループの活動に学ぶ
8月7日~9日 フィールドワーク(AIDS文化フォーラム)
8月8日(土) まとめ ~これからの活動のために~
2. 受講者数 29名
3. 受講者の感想
*ディスカッション形式が面白かった。
*広い面からの基礎知識と体験を得ることができた。
*講座は全て充実していて興味深かった。参加する前は全7回を多く感じたが終わってみたら何だか
短すぎる気がした。もっともっと勉強したかった。
*一番良かったことは何よりも「アンテナはって、外に目を向けて、自分から行動する大切さと楽し
さ」が分かったこと。いろんな人と話が出来て、いろんな立場の友だちができて、すごく良かった。
自分から行動することで、学んだり、吸収したり、成長出来るんだと思った。
*エイズに関して新たな発見があった点が良かった。他の人ともう少して親しくなれそうなど
きに終わってしまったのが残念。
*様々な人との出会い、グループワークの良さが活かされたため、良い学びとなった。
*もうすこし深く知りたかったけれど、この講座の趣旨(入門編)としては良かった。

集計・評価・記録

かながわレッドリボン運動



赤いリボンは、HIV感染者やAIDS患者の皆さんへの理解と支援を表す、世界共通のシンボルです。リボンを胸につけることを通し、すべての人がエイズを身近な問題として考えることを願っています。

入場者の内訳と集計

1998AIDS文化フォーラム

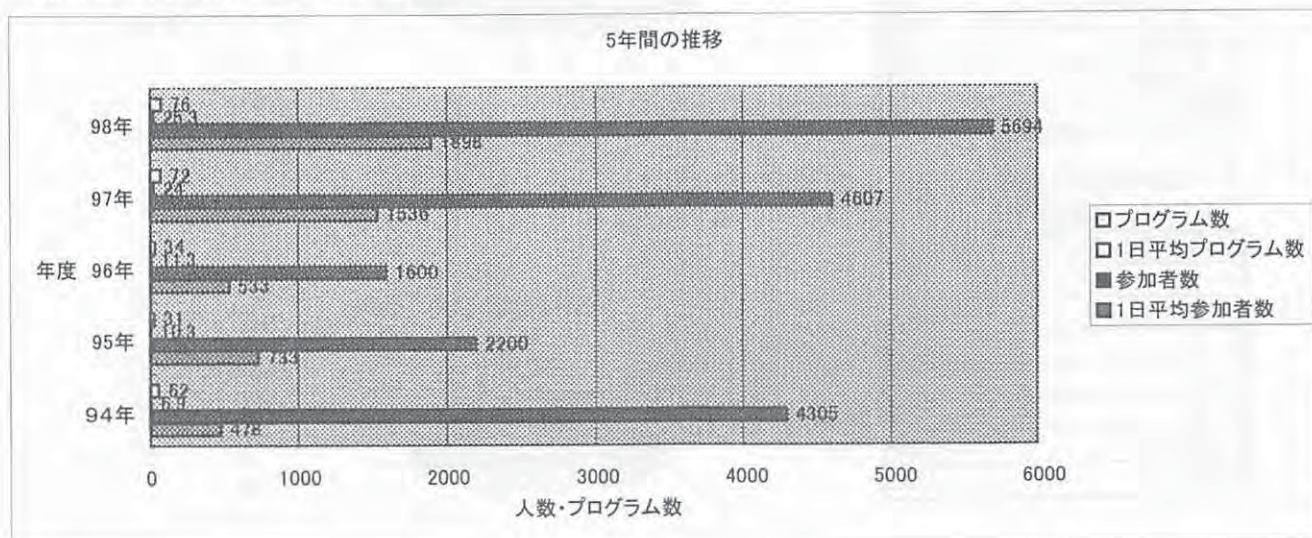
| | タイトル | 参加者数 | |
|------------------------|------------------------------------|--|----|
| 7日 | 開会式 | 150 | |
| 2Fホール | マイ・フレンド・フォーエバー | 80 | |
| | 神様、もう少しだけ | 45 | |
| | HIV/AIDSの最新情報 | 151 | |
| | マイ・フレンド・フォーエバー | 32 | |
| 301会議室 | エイズの模擬授業 | 153 | |
| | 養護教諭が組み立てる学校内でのAIDS教育 ますますポジティブ | 80 100 | |
| 302会議室 | 神様、どうしたらいいのー米国エイズ患者とのカウンセリングからー | 37 | |
| | 桜屋伝衛門の「はじめてでも安心」エイズの基礎知識 | 45 | |
| | 看護婦が語るHIVへの取り組み | 27 | |
| 304会議室 | キルトを縫いながらAIDSを考える | 50 | |
| | 輝く命ーポスター・キルトの旅ー | 35 | |
| | 輝く命ーHIVを通して命・人権を学ぶ | 20 | |
| 305会議室 | これで最後！性風俗とHIV/AIDS・STD | 43 | |
| | 続・鹿児島大学医学部病院裁判 | 45 | |
| 8日2Fホール | 神様、もう少しだけ | 40 | |
| | PWAのネットワークを考える | 57 | |
| | 音楽構成詩「未来への選択」ー薬害エイズを闘ってー | 60 | |
| | 避妊・性感染症を話せる関係 | 60 | |
| 301会議室 | 中学生のAIDS教育 | 79 | |
| | 心を聴くー講義と実習ー | 50 | |
| 302会議室 | フリー・ティーンズ | 50 | |
| | 使いこなせますか？あなたの福祉制度 | 21 | |
| | 子ども売春・子どもポルノの根絶にむけて | 40 | |
| | 居酒屋ホン：のぼほん感染者ホン君とAIDSが当たり前時間を！ | 20 | |
| 303会議室 | セックス・トーク | 13 | |
| | 命の輝きー石田吉明フォトエッセイよりー | 24 | |
| | バトル・オブ・セックス～もっとフリーに、気持ちよく～ | 48 | |
| 304会議室 | AAAの正しい使い方 | 17 | |
| | エイズって何？何ができるだろう？もう一度初めから考えてみよう | 58 | |
| | 薬害エイズの現在(いま) | 60 | |
| | AIDSとアドボカシー～対感染症対策をめぐる事例から | 70 | |
| 305会議室 | 同性愛者の人権とAIDSを考える | 20 | |
| | 朗読ワークショップーAIDSを読むー | 27 | |
| | 栄養学では語れない、食生活と最新食品情報 | 30 | |
| | あなたの中のバリアを考えるバリアフリー'98ー医療・福祉・教育・企業 | 60 | |
| 9日2Fホール | 神様、もう少しだけ | 206 | |
| | HIVを抱えて生きる人たちの声をきく | 30 | |
| | HIV感染者の視点で捉える身体障害者手帳とは何か | 41 | |
| | エイズ模擬授業(小学生) | 35 | |
| | 第12回国際エイズ会議より | 80 | |
| | 302会議室 | Language Teaching and HIV/AIDS Education | 11 |
| | | つくる性教育ー話せばはずむ性のことー | 20 |
| | | 在日「外国人」諸事情と、AIDS諸問題 | 20 |
| | 303会議室 | ねえママ、エイズってなあに？ | 16 |
| | | ボランティアについて考える | 20 |
| | 304会議室 | キルトディスプレイとワークショップ | 12 |
| | | 女性とAIDS | 32 |
| | | 同性愛者のための電話相談・統計報告 | 20 |
| | 305会議室 | HIV感染者の社会参加～仕事と治療の両立～ | 60 |
| PHAの役割を考える～PHAの講演活動から～ | | 27 | |
| 福祉制度を感染者に活かすために | | 50 | |
| 拠点病院におけるHIV診療の現状-中間報告- | | 52 | |
| | 交流会・閉会式 | 158 | |
| | 展示場(3日間) | 2100 | |
| | 10F展示コーナー | 707 | |
| | 合計 | 5694 | |

入場者等の推移

開催経過

| 回数・年度 概要 | 第 1 回 1994年 | 第 2 回 1995年 | 第 3 回 1996年 | 第 4 回 1997年 | 第 5 回 1998年 |
|-------------------|----------------------|--------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 開催日・ 開催日数 | 8/6～8/14 (9日間) | 8/11～8/13 (3日間) | 8/9～8/11 (3日間) | 8/8～8/10 (3日間) | 8/7～8/9 (3日間) |
| 開催場所 | 神奈川県 国際交流協会 | 同左 | 同左 | かながわ 県民センター | 同左 |
| プログラム数 (1日あたり) | 62 (6.9) | 31 (10.3) | 34 (11.3) | 72 (24.0) | 76 (25.3) |
| 参加者数 (1日あたり) | 4,305名 (478名) | 2,200名 (733名) | 1,600名 (533名) | 4,607名 (1,536名) | 5,694名 (1,898名) |
| 関連行事等 | 第10回 国際AIDS 会議 | 日本思春期 学会 | 夏のかながわ レッドリボン 月間 | 夏のかながわ レッドリボン 月間 | 夏のかながわ レッドリボン 月間 |

(5年間の入場者/プログラム数の推移)

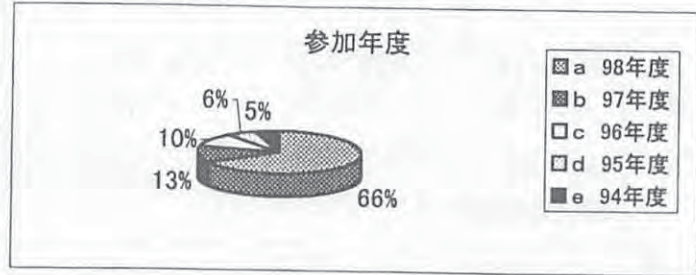


94年に9日間実施した文化フォーラムも2回目以降3日間実施というスタイルに定着し、社会の関心が低下するなかで、横浜を中心に、情報の発信基地として、あらゆる人々の気持ちを共有するフォーラムになった。97年からは、96年の2倍ものプログラムになるとともに、あらゆる人々が集い、一層充実したものになった。

「1998 AIDS文化フォーラムin横浜」入場者共通アンケート

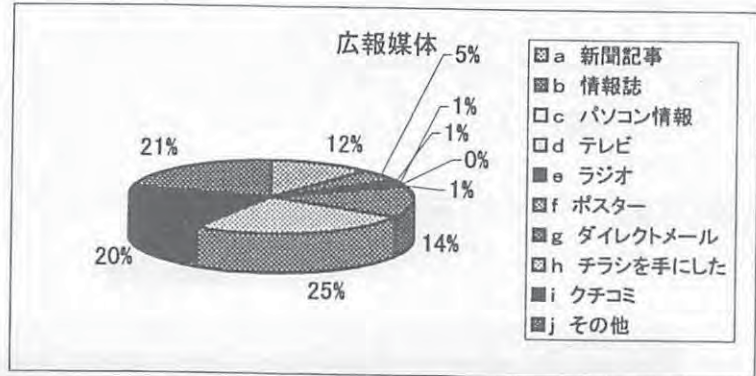
1 AIDS文化フォーラムへの入場年度についてお聞かせ下さい(複数回答)

| 年度 | 回答数 |
|--------|------|
| a 98年度 | 743 |
| b 97年度 | 151 |
| c 96年度 | 110 |
| d 95年度 | 68 |
| e 94年度 | 52 |
| 合計 | 1124 |



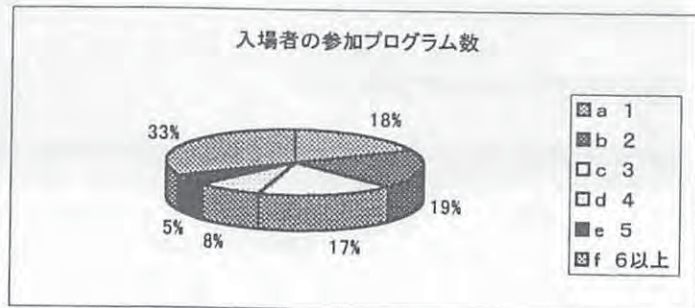
2 AIDS文化フォーラムのことを何でお知りになりましたか。

| 媒体 | 回答数 |
|------------|-----|
| a 新聞記事 | 94 |
| b 情報誌 | 40 |
| c パソコン情報 | 9 |
| d テレビ | 5 |
| e ラジオ | 3 |
| f ポスター | 7 |
| g ダイレクトメール | 113 |
| h チラシを手にした | 208 |
| i クチコミ | 165 |
| j その他 | 172 |
| 合計 | 816 |

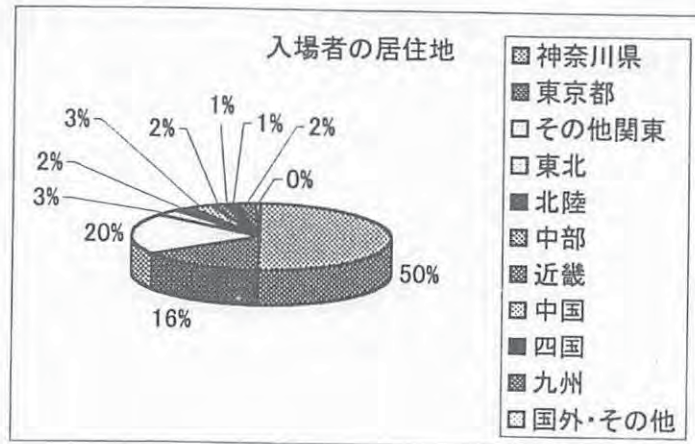


3 1997AIDS文化フォーラムではいくつのプログラムに入場されましたか。
または、期間中いくつのプログラムに参加する予定ですか。

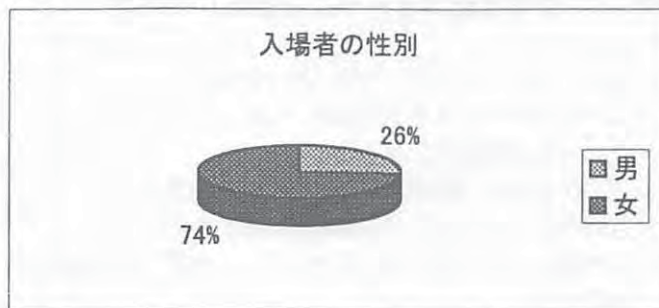
| プログラム数 | 回答数 |
|--------|-----|
| a 1 | 160 |
| b 2 | 172 |
| c 3 | 153 |
| d 4 | 74 |
| e 5 | 47 |
| f 6以上 | 287 |
| 合計 | 893 |



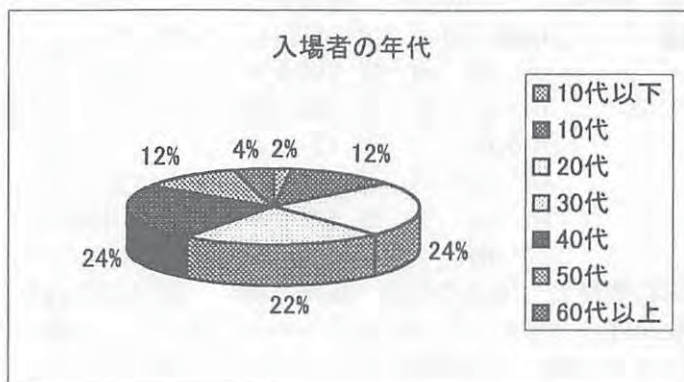
| 居住地 | 回答数 |
|--------|-----|
| 神奈川県 | 346 |
| 東京都 | 109 |
| その他関東 | 136 |
| 東北 | 20 |
| 北陸 | 15 |
| 中部 | 21 |
| 近畿 | 12 |
| 中国 | 5 |
| 四国 | 6 |
| 九州 | 17 |
| 国外・その他 | 3 |
| 合計 | 690 |



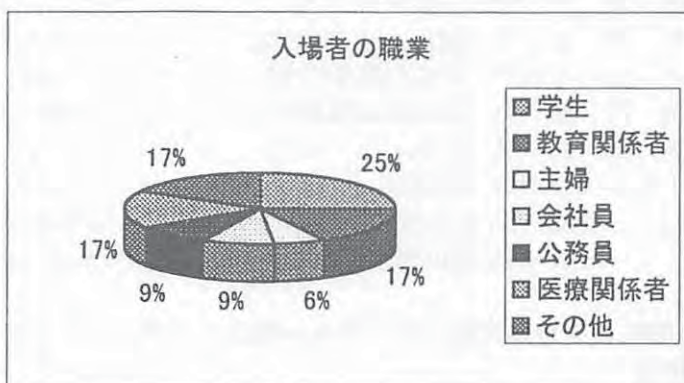
| 性別 | 回答数 |
|----|-----|
| 男 | 191 |
| 女 | 531 |
| 合計 | 722 |



| 年代 | 回答数 |
|-------|-----|
| 10代以下 | 14 |
| 10代 | 89 |
| 20代 | 174 |
| 30代 | 164 |
| 40代 | 176 |
| 50代 | 85 |
| 60代以上 | 32 |
| 合計 | 734 |



| 職業 | 回答数 |
|-------|-----|
| 学生 | 145 |
| 教育関係者 | 102 |
| 主婦 | 36 |
| 会社員 | 51 |
| 公務員 | 51 |
| 医療関係者 | 100 |
| その他 | 101 |
| 合計 | 586 |



1998 AIDS文化フォーラムin横浜 ボランティアマニュアル

A. 「1998 AIDS文化フォーラムin横浜」の概要

◆テーマ：エンパワーメント ～自立と共働にむけて～

◆日程：1998年8月7日（金）～8月9日（日）

◆会場：かながわ県民センター

〒231-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

TEL045-312-1121 FAX045-312-4810

◆主催：「1998 AIDS文化フォーラムin横浜」組織委員会

◆共催：神奈川県

◆後援：横浜市 川崎市 横須賀市

◆組織：◇組織委員会（実行委員長 広瀬 誠）

唐崎 旬代（横浜YWCA）

川本 譲次（横浜商工会議所エイズ問題対策懇談会）

小久保 一利（かながわともしび財団）

榊原 高尋（横浜いのちの電話）

濱尾 文郎（カトリック横浜司教区）

広瀬 誠（横浜YMCA）

◇実行委員会（実行委員長 長澤 勲 副実行委員長 岩室 紳也 吉永 陽子）

長澤 勲（ボランティアコーディネーター）

岩室 紳也（医師）

吉永 陽子（医師）

岡島 龍彦（H.I. Voice Act）

小島 隆士（横浜いのちの電話）

細井 保路（カトリック横浜司教区）

藤沢 智晴（横浜YMCA）

星野 宗吾（横浜YMCA）

高村 文子（横浜エイズ勉強会）

多田 由加里（かながわレッドリボンクラブ）

石山 志津子（神奈川県衛生部）

笠原 隆（横浜AIDS市民活動センター）

濱村 嘉允（川崎市健康福祉局）

松江 勝美（横浜市海外交流協会）

矢部 尚美（YMCA ACT）

齋藤 誠（かながわ県民活動サポートセンター）

千代木 ひかる（事務局）

◆事務局：「1998 AIDS文化フォーラムin横浜」の事務局は、横浜YMCA内にある。

〒231-8458横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内TEL 045-662-3721 FAX 045-651-0169

B. 「1998 AIDS文化フォーラムin横浜」とボランティア

1. 概要

このフォーラムは、神奈川県を中心としたAIDSに関心を持っている団体または個人により組織され、発表、展示、会場運営などすべてがボランティアで行われる。別の表現では、自らの自由意志による手持弁当スタイルといわれている。

2. 会場運営ボランティアのねらい

- ・実際の活動を通してボランティアについて学ぶ。
- ・AIDSに関る人との交流を通じて、AIDSについての理解を深める。
- ・多くの人との交流を通しての自己の成長。

3. 会場運営ボランティアメンバー

「1998 AIDS文化フォーラム」では、次のボランティアが会場運営を行う。

- ・かながわエイズボランティア育成講座受講生
- ・川崎市エイズボランティア育成講座受講生
- ・横浜AIDS市民活動センターボランティア
- ・かながわレッドリボンクラブメンバー
- ・その他（全国より募集したボランティア）

4. ボランティア担当委員

ボランティアの働きをよりバックアップするため、事務局の他、次の担当委員をおく。

多田由加里・高村文子・岩室享子

5. 当日の進行方法及び注意点

| 時 間 | | ボランティアリーダー | 会場ボランティア |
|---|--|--|---|
| 集合 | 時 刻 | 担当時間10分前 | 担当時間5分前 |
| | 場 所 | 本部事務局（3Fロビー） | 本部事務局（3Fロビー） |
| | 内 容 | シフト確認・出席表チェック 名札の受け取り ↓ 事務局より連絡事項（記録用紙・来場者アンケート・備品（ビデオなど）の確認）の伝達をうける ↓ 事務局内の各担当コーナーで会場ボランティアと連絡事項の確認（3F 306室） | シフト確認・出席表チェック 名札の受け取り ↓ 事務局内の各会場担当コーナーに集合（3F 306室） ↓ リーダーより連絡事項の伝達をうける |
| 担当時間開始 （講座開始15分前） ※前の講座が延長しているときは、来場者の誘導（待機）を行う。 | 会場に移動 ↓ 講座主催者へのあいさつと全体確認（会場セット/備品/事務局からの連絡事項/写真・録音の可否） ↓ 会場セットの指示 事務局用に資料を1部回収 | 会場に移動/備品運搬 ↓ リーダーの指示により会場のセット、受付準備 ↓ 来場者誘導・アンケート配布 | |
| 講座開始 ※マスコミについては必ず事務局を通しているかを確認する。 ※講座開始時に必ず写真撮影、録音をしてもいいかを参加者に確認する。 | 講座の記録 備品（椅子）資料等不足時の対応（事務局を通して調達） その他問題発生時には事務局に必ず連絡、報告する。 ●取材（マスコミ）への対応 ①名札の確認 事務局で許可を出した場合は名札がある。 無い場合はまず事務局で取材許可を得るよう案内する。 ある場合は必ずつけていただく。 ②講座内での写真撮影、録音、インタビューについての情報を伝える。 ●写真・録音について（マスコミ及び個人） 講座内の様子を撮影し、報告書に掲載をする場合がある。 しかしプライバシーに配慮する必要があるため、講座主催者に、講座開始時に来場者と写真や録音の可否についての確認を行うよう、講座前にリーダーは主催者と確認する。 撮影されると支障がある人がいる場合は、写真撮影スタッフや取材の入室時に伝える。 | | |
| 講座終了 （10分以内に） | 記録用紙の回収 ↓ 片付けの指示 ↓ アンケートと記録、資料を封筒に入れ事務局に返却 | 記録用紙をリーダーに渡す ↓ リーダーの指示で片付け ↓ 事務局へ備品の返却 | |
| 退出時 | 名札の返却 次回シフトの確認 | | |
| その他 | 遅刻・早退・欠席などは必ず連絡を事前にいれること。 （連絡先：045-312-1121） | | |
| ボランティア担当委員 | 多田由加里・高村文子・岩室享子 | | |
| 開催期間中事務局 | 本部事務局：3Fロビー ボランティア控え室：306室（食事・休憩など利用可能） | | |

6. その他注意事項

◇服装について

動きやすい服装、靴で来てください。
ボランティア活動中は、名札を必ず着用してください。
名札は他の人が見やすい場所につけてください。

◇持ち物・貴重品について

鞆・上着などは、ボランティア控え室においておくことができます。
貴重品に関しては、かならずご自身で管理してください。

◇食事について

弁当類の持参は可能です。ボランティア控え室ほか食事のできるスペースを何カ所か用意しますので、利用してください。

◇連続してボランティアに入る場合

講座と講座の間の時間帯は、講座の片づけと準備が重なる時間です。
ボランティアどうして協力して円滑に会場運営をすすめてください。

◆講座運営上の注意◆

◇プライバシーについて

講座内、会場内で知った個人のプライバシー（H I V感染・セクシュアリティ・仮名をつかっている方の本名など）を厳守してください。

◇クレームについて

基本的なクレーム対応は次のようになります。
クレームを受けた場合はかならず事務局に報告してください。

※講座の内容について

主催者にクレームの内容を伝え、対処してもらう。
主催者がいない場合は、事務局を通じて主催者にそのことを伝える。

※会場運営について

事務局にクレームの内容を伝え、対処してもらう。

◇主催者サイドの会場ボランティアがいる場合

参加団体によっては、主催者独自で会場ボランティアを募集している場合があります。
その場合は、主催者と相談して会場ボランティアの役割を確認してください。

例) ①一緒に活動をする。

②会場運営は団体にまかせて、記録に専念する。

◇時間になっても講座が終わらないとき

①主催者に講座の時間が終了していることを伝える。

質疑応答など、どうしても終了しないようなら、会場を移してもらう。

1 Fの101・102室（展示場横／来場者のフリースペース）各階ロビースペースなどを活用してもらう。

②次の時間帯の講座主催者、来場者、ボランティアには前の講座が終了していないことを伝え、会場前で待機していただく。

※特に午後の講座と講座の間は30分しかあいていないので、時間配分には留意してください。

▼その他、会場運営で気が付いた点があれば、事務局に提案してください。

昨年は、会場案内表示などがボランティアのみなさんからのアイデアでつけられました。
みなさんの力で、A I D S文化フォーラムを盛り上げてください。
よろしくお願いします。

以上

1998 AIDS文化フォーラム in横浜 見聞録

- 4月から6月 今年のフォーラムに向けて準備会2回、組織委員会1回、実行委員会2回実施。
・テーマ・プログラム募集・実行委員会企画準備・広報戦略・ボランティア募集について話
合った。
・フジテレビ「神様、もう少しだけ」の医療監修に実行委員の岩室医師が決まった。

7月 実行委員会で、作業・最終的なプログラム・ボランティア応募状況について確認。

! 横浜AIDS市民活動センターにポストラマン現る

開催する横浜周辺の皆様の理解と来場を呼びかけるため、急遽ポスター作成の命が下った。隊長横浜エイズ市民活動センターの笠原、隊員はYMCA千代木によって「ポスタープリントアウト8分作戦」が繰り広げられた。これは、フォーラムのポスターをパソコンで作成し、1枚1枚プリントアウトしたため、1枚のプリントアウトに必要な時間=8分から名付けられた。そして、20時間を超えるバトルの末、150枚ものポスターが完成したのである。この20時間の間、隊長の胸には、8分毎にけたたましく鳴り響くストップウォッチが輝いていた。

! 横浜駅周辺にできあがったポスターは、ご覧いただけただけでしょうか?

協力：東京急行電鉄・京浜急行電鉄の各駅

- ! 文部省エイズ教育（性教育）推進地域37都道府県にわたり、どこが地域指定され、学校はどこか確認作業をした。フォーラムを伝えるダイレクトメールを送付した。都道府県担当者の反応は西高東低だった。

8月 当日を目前に控え、ボランティアオリエンテーション

! 100名を超えるボランティアの瞳が輝く

中学生から70歳を超える方のボランティアでの参加に、実行委員もいよいよだなと感じた。県のたよりにボランティア募集が掲載されたこともあり、オリエンテーションの前日まで事務局の電話がなりっぱなしの状態だった。

! サポートセンターの印刷機もフル稼働

当日配布予定の「1プログラム100字紹介パンフレット」を印刷したり2つ折り、ホットキス止めを今まで培ってきた事務的能力を全て投入。

! 交流会用のおつまみ注文

おにぎり200個、コロッケ200個、から揚げ10kgを交流会当日に引き取りに行ったときの驚きといたら、例えようもありません。その量と重さ想像できますか?

当日3日間 1998 AIDS文化フォーラム in は、直前のマスコミ報道もあり良い感触で幕は切
って落とされた。時間がたつにつれ来場者やセッションでの小さなリクエストも増えて
きた。そして、ボランティアの動きが気になりだした。そんな中で来場者の1人が自主
的に案内役を引き受けてくれていた。これは、実行委員会が目指す市民のための市民によ
るフォーラムに少し近づきつつあるのも実感した瞬間であった。日を追うごとに若いボラ
ンティアを中心にボランティアの輪ができてきた。

！ 深田燕子さん大塚敦子さんの写真を見て、涙…

ライブトーク前に、写真展を見た燕子さんは様々な思いが詰まった写真に胸が熱くなった
ようでした。そんな気持ちをずっと持っていてほしいですね。

！ そして舞台裏ではカメラ小僧対策が繰り広げられていた

前日に（フォーラム2日目終了後）実行委員が緊急に召集され、カメラ小僧対策を練った。
インターネット上でライブトークのことが流れてのこを踏まえてのことだった。予想し
た混乱もなく、本番では燕子さんが歌を披露するなど和やかな雰囲気 で進んだ。

！ 各社の協賛でいただいた飲み物を安く販売し、フォーラムの活動資金の一部にさせてい
ただきました。

協力：㈱ユニマットコーポレーション、小岩井乳業株式会社

！ 実行委員会事務局本部をロビーに移しはじめぼちぼち

主催者・参加者の皆様と交流できる場を考え、移動したが最初は反応がまいち。時間
が経つにつれジワジワと参加者、各NGO、報道関係者がロビーに集まりだす。実行委員
もこの状況にニヤリ。今度はもう少しくつろげる雰囲気づくりと交流に力を入れて喫茶店
のようなコーナーづくりができればなあ。

1998年の事務局のまわりは…

ロビーの一角に設置された事務局は、長机5脚、ワープロが2台の小さなスペースで活動していた。ロ
ビーにはその他に各NGOの交流スペースとして応接椅子が2脚置いてある。

休憩時間には、参加者が集まり「やーやー、久しぶり、元気ですか」「どれに出ました？」「今度ほどの
プログラムに出ますか？」といったような話し合いがあちことから聞かれにぎやかな時間となりました。

その間事務局担当者は、「この資料はいかがですか」「この資料の売上がNGOの活動資金になりますの
でぜひお買い求め下さい」といったセールスに力を注いだり、参加者より「こういう資料はどこへ行っ
たら求められますか」「こういうことを知りたいのですがどのプログラムに参加したらいいのですか」とい
った質問に会い、シドロモドロしたり、サラサラと答えたり忙しい時間を過ごしていた。次のプログラムが
始まると一瞬にして静寂が訪れ、ほっと一息。それもつかの間、ボランティアから、「廊下の会場案内用の
矢印が足りない」との声が。「右矢印を何枚」「左も足りない」「左は何枚、右は？」ワープロにかじりつい
て次から次へと求めに応じて華麗な手さばきでプリントアウトする実行委員。こんな調子で1日が過ぎ、
2日目、3日目と過ぎあつという間に全プログラム終了。「ああ今年も終わった。また来年に向けてがんば
ろう」という声がどこからともなく聞こえる。

- 9月から11月 終了後全体報告 実行委員会1回、組織委員会1回、報告書作成委員会2回、AIDS文化フォーラムを考える会2回
- ・全体報告と会計報告
 - ・報告書のアウトライン検討と参加団体への原稿依頼
 - ・今後の文化フォーラムの検討

- 12月から1月 実行委員会1回、AIDS文化フォーラムを考える会2回
- ・報告書作成

当日のボランティアは...

3日間にわたり開催されたAIDS文化フォーラムに参加団体、実行委員、実行委員会と一緒に支えてくれたのが会場ボランティアであった。このフォーラムのために募集したボランティアのほかに、神奈川県・川崎市のエイズボランティア育成講座受講者がこのフォーラムでボランティア体験をした。

ボランティア募集を始めた当初は、応募があるか非常に不安であったが、当日が近づくとつれ応募が相次いだ。最終的には100名を超えるボランティアの申込があった。

当日は、ボランティア控室に集合し、別掲のボランティアマニュアルに沿い、活動を進めた。しかし、担当するセッションで初めて顔を合わせた者同士のため、なかなかうまくコミュニケーションをとれなかったようである。事務局側でもできるだけ年齢等に配慮し割り振ったが、ボランティア担当の実行委員でも100名を超えると、コーディネイトは大変であった。また、事務用機材を普段使い慣れていないボランティアに使い方を熟知してもらう十分な機会、職務別にボランティアを募っていくというやり方も今後検討したほうが良いとも実感した。

今年の実行委員会は...

夏に、広報活動の一環として、新聞社・テレビ局・ラジオ局やミニコミ紙を汗だくになりながら訪ね歩いた。去年以上に各社とも好意的に話しを聞いて下さり、歩いた甲斐があったなあと思つづく思った。

5回目を終えて、これまでにいろいろとお世話になった方々のことを思いながら、そして終わってもすぐに来年のことを考えてしまう実行委員がほとんど。報告書ができる前からそう考えているなんてみんな心配性なんだなあ。

あといつも実行委員会が考えていることといえば、このフォーラムが社会に役に立っているかなあ、主催者・参加者の方々はフォーラムをどう考えているのかなあということを年がら年中ミーティングしているのです。今のところエンドレスです。



(おわり)

「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」広報実績

新聞報道

読売新聞 5月27日(水)

文化フォーラム組織委員に横須賀の広瀬さん 348文字

毎日新聞 7月15日(水)

フォーラムに先立ち横浜YMCAなど育成講座 660文字

THE JAPAN TIMES 7月26日(日)

Yokohama, Kanagawa to host AIDS forum

読売新聞 8月5日(水)

HIV感染者が率直に語る 1200文字

毎日新聞 8月5日(水)

市民の立場でエイズ考える 660文字

神奈川新聞 8月6日(木)

エイズへの理解深めて 492文字

「この人」広瀬 誠さん 520文字

朝日新聞 8月7日(金)

幅広い視点でエイズ考える 216文字

読売新聞 8月8日(土)

エイズ題材のフォーラム始まる 385文字

神奈川新聞 8月9日(日)

薬害や人権考える エイズ文化フォーラム 516文字

スポーツニッポン 8月10日(月)

恭子「エイズ」トーク「私は偏見持たない」 494文字

神奈川新聞 8月15日(土)

AIDS教育 中学校の取り組み報告も 912文字

神奈川新聞 8月20日(木)

「この人」岩室紳也さん 525文字

デスクノート 370文字

東京新聞 8月24日(月)

ワークショップや模擬授業で関心高める 1092文字

神奈川新聞 9月17日(木)

オピニオン「提言箱」 800文字

情報誌等

横浜青年 8月号

横浜青年 9月号

JUNCTION vol13

おーぶん 7月号

AIDS REPORT33号

ぱど 8・6/8・13 合併号

地方自治職員研修 12月号

インターネット

サポートセンターホームページ

毎日新聞 夕刊希望ホームページ

身近な話題 地域のニュース

毎日新聞

(第3種郵便物認可)

1998年(平成10年)5月27日(水曜日)

言 置 楽 斤 月

組織委員長に横須賀の広瀬さん
 AIDS文化フォーラム
 八月七日から三日間の予定で開かれる「1998AIDS文化フォーラムin横浜」の組織委員会が二十六日、横浜市中区常盤町の「横浜中央YMCA」で開かれ、同委員長に横浜YMCA役員で、横須賀市の医師・広瀬誠さん(68)を選出した。

同フォーラムは今年で五回目。最近のエイズ事情が紹介されるほか、ボランティアグループによるシンポ

ジウムなどが行われる。同フォーラムの星野宗吾事務局長は、「感染者が増加しているにもかかわらず、世間の関心は低下している。よりの多くの人にエイズへの関心を持ってもらいたい」と話している。参加無料。

同フォーラムの問い合わせは、横浜YMCA(☎045・662・3721)へ。

エイズボランティア

横浜YMCAなど 育成講座

来月のフォーラムに先立ち

エイズの知識を身につけ、ボランティア活動に役立てて。8月に開催される「AIDS文化フォーラムin横浜」(同組織委員長)に先立ち、横浜中央YMCA(横浜市中区常盤町)と県保健予防課は「かながわエイズボランティア育成講座」を開いている。

講座は、エイズ患者を治療する医師の話や聞いた「AIDS文化フォーラムin横浜」でボランティアとして実践活動することも盛り込まれている。

県保健予防課によると、外国人も含む全国の女性感

染者の6割以上は20代で、男性の20代の595人を上回る810人となっている。原因別では異性間の性的接触が全体の約半数にのぼる。神奈川県患者・感染者数は、東京、茨城に次いで全国で3番目に多い。

横浜中央YMCAの千代

木ひかるさん(28)は「私だけは大丈夫という考えが危ない。不特定な異性との性交渉や麻薬などの薬物注射が感染原因になりやすい。国内の感染者数は増加傾向にあり、地道な啓発活動が必要」と話す。また、最近ではエイズ医療が進み、早期

の発見、治療で発症せずに慢性疾患として生活を送ることも可能になりつつあるという。

「AIDS文化フォーラムin横浜」は横浜市神奈川区鶴屋町2のかながわ県民センターで開催され、HIV感染者との交流や、子ども買春の防止を訴えるボランティアなどの活動報告を聞いたり、ソーシャルワーカーによる特設相談会や電話相談も行う予定。

また、同フォーラムの会場ボランティアも募集している。問い合わせは横浜YMCA(☎045・662・3721)。

【山下 磨美】

THE JAPAN TIMES • SUNDAY, JULY 26, 1998

Yokohama, Kanagawa to host AIDS forum

As part of a monthlong effort to educate people on AIDS, Kanagawa Prefecture and the Yokohama YMCA have organized a series of workshops and seminars.

The 1998 AIDS Culture Forum in Yokohama, slated for Aug. 7 to 9, will feature lectures, movies and discussion sessions. The forum will be held at the Kanagawa Citizens' Center, a 10-minute walk from JR Yokohama Station.

There is no admission charge. For details, call the Yokohama YMCA at (045) 662-3721.

HIV感染者の声を直接聞くことで、エイズを身近な問題として考えようというフォーラムが、7日から3日間横浜市で開かれる。10人以上もの感染者が自分たちの抱えている問題や毎日の生活などについて率直に語る催しは、国内では初めてと言われる。主催の市民団体は、感染者が増加し続けているのに人々の関心が弱まっている状況を変えることができれば、と期待している。

この催しは、「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」。94年に横浜市で開催された「国際エイズ会議」に合わせて、エイズ問題に関心のあるボランティアや医療従事者、教育関係者などの手で開催されたのが始まり。毎年、エイズ教育、感染者の人権、薬害エイズなどのテーマで講演やワークショップ、展示などを企画しており、民間のエイズ問題の会議としては最大規模の行事として定着している。



HIV感染者が率直に語る

しかし、「この5年間で、エイズを取り巻く状況がすっかり変わってしまった」と、フォーラムの実行委員の一人で神奈川県平塚保健所の医師、岩室紳也さんは指摘する。まず、感染者の大幅な増加がある。厚生省のエイズ動向委員会の調査では、2か月ごとに新たに1000人程度の感染者や患者が報告されており、今年6月末現在の感染者数は41377人にのぼる。また、一般の献血件数に占める感染者の割合も、今年初めて10万人当たり一人を超えた。10年前の0.1人程度と比べ、感染が確実に広がっている。

横浜でAIDSフォーラム

「再び関心高める機会に」

7日から

ることを示している。ところがその一方で、保健所での検査受診者数は昨年は4万6千件余り。ピークだった92年の約13万6千件に比べて大幅な減少だ。エイズ相談もピーク時の三分の一近くまで落ち込み、関心が低下していることを示している。

続けており、20歳代の患者、感染者の割合が高くなっている。「売春や同性愛、薬害だけが感染の原因という誤ったイメージが定着し、自分の身近な問題として受け取っていないため、基本的な知識さえない若者が増えている」と岩室さん。

それについてHIVに対する先入観は古いまま。実際には、異性間の性的接触による日本人の感染者、患者が毎年増え

こうした現状を踏まえ、今年のフォーラムでは感染者自身が直接自分の思いを訴えかける講座やフリートークが企画された。岩室さんが主治医をしているアメリカ人パトリックさんと二人でのフリートーク「ますますPOSite

岩室医師(右端)とパトリックさん(左端)は第1回から参加、若者とのフリートークやコンドームの使い方の指導などを行ってきた

会場は「かながわ県民センター」(横浜駅下車)、参加費無料。問い合わせは、事務局(045・662・372)へ。11横浜YMCAへ。



5回目を迎えるAIDS文化フォーラム エイズへの理解と共生願う

8月7日(金)からかながわ県民センターで



7.7 tue 9 p.m. start

▲フジテレビで放送中のドラマ「神様、もう少しだけ」のプロデューサー小岩井宏悦氏と主演の深田恭子さんが8月9日(日)午前10時に来場しエイズについてのトークを行う

青年会議所、横

ては、横浜YM

CAのほか横浜

青年会議所、横

ては、横浜YM

CAのほか横浜

青年会議所、横

ては、横浜YM

CAのほか横浜

青年会議所、横

ては、横浜YM

CAのほか横浜

青年会議所、横

ては、横浜YM

CAのほか横浜

青年会議所、横

ては、横浜YM

CAのほか横浜

青年会議所、横

ては、横浜YM

CAのほか横浜

青年会議所、横

ては、横浜YM

CAのほか横浜

浜いのちの電話など、市内の

NPO団体、機関の代表と県

衛生部、県サポートセンター

などの関係者によって組織委

員会(広瀬誠委員長)が作ら

れ全体テーマや方針などが確

認された。また医師や市民活

動家など十七人のボランティア

による実行委員会を中心に、

プログラムの調整や広報活動

などが進められている。

今年「エンパワーメント

」自立と共働に向けて」をテ

ーマに、三日間の期間中に昨

年を上回る七十三のプログラ

ム、展示が予定され、感染者

への理解を深めるセミナーや、

予防への取り組みをはじめ、

医療、文化、教育、女性、性

などの領域で多様な講座が全

国のNPO団体やボランティア

の主催で連日開催される。

このうち、教育関係者を対

象としたエイズ教育の講座は

毎年多くの受講者があるが、

今年も小学生、高校生、中

生、養護学校と対象年齢に分

けた講座や模擬授業が行われ

る。また横浜いのちの電話に

よる、電話相談の講義と実習

「心を聴く」(八日)や感染

者との共生を考えるシンポジ

ウムなども。八日(土)午後

五時半からは「未来への選択」

小平合唱団によって薬害エイ

ズとの闘いをつづった音楽構

成詩「未来への選択」が上演

される。また期間中、HIV

に感染した一人の少女の生き

方を通してエイズの問題を問

いかけるテレビドラマ「神様、

もう少しだけ」(金城武主

演)も会場で特別上映される

ことが決まった。一階展示場

では約二十のエイズ問題に取

り組むボランティア・グルー

プによる展示のほか、フォト

ジャーナリストの大塚敦子さ

1998. 8. 5. 毎日新聞神奈川版

市民の立場で エイズ考える

横浜で 文化フォーラム
7月9日

市民の立場でエイズを考
える「第5回エイズ文化フ
ォーラム」が7日から9日
の3日間、かながわ県民活
動センター(横浜市神奈川
区)で行われる。同組織委
員会と県の共催。参加は無
料。

73の講座・展示

1994年に横浜で第10
回エイズ国際会議が開かれ
たのをきっかけに毎年開催
されている。今回は「エン
パワーメント」自立と共働
に向けて」をテーマに、過
去最多の73の講座・展示が
行われ、社会や文化、人権、
教育などさまざまな視点か
らエイズについて学べる。
HIV感染者自身が体験
を発表する講座が昨年度の
3講座から8講座に増えた
ほか、6月にスイスのジュ
ネーブで開かれた国際エイ
ズ会議の参加者が最新情報
を報告(9日午後1時)、
エイズに感染した高校生を
めぐるテレビドラマ「神様、
もう少しだけ」の主演女優、
深田恭子さんのトーク
(同午前10時)もある。
その他の主な講座などは
次の通り。
7日午前10時、午後6時
映画「マイフレンドフォ
ーエバー」上映▽同午後6
時HIV感染者らのトー
ク「まずまずPositi

vle)▽8日午前10時HIV
感染者やその家族のメッ
セージの朗読ワークショップ
「H.I.Voice Act」
▽同午後5時半音楽構成
詩「未来への選択」上演▽
同午前10時高校模擬授業
「避妊・性感染症を話せる
関係」▽8日正午から午後
4時半、9日午前10時から
午後4時特設会場と電話
(045・316・590
9)でエイズ相談。
一部の講座には受講対象
に制限がある。同フォーラ
ム事務局(045・662・
3721、横浜YMCA
内)。「保泉 淳子」

エイズへの理解深めて

あすから

横浜で文化フォーラム

「1998エイズ文化フォーラム・イン横浜」が七日から九日まで、かながわ県民センター(同市神奈川区鶴屋町)で開かれ、エイズ啓発や患者・感染者支援に関する講座などが繰り広げられる。同フォーラム組織委員会と、県の共催。横浜で国際エイズ会議が

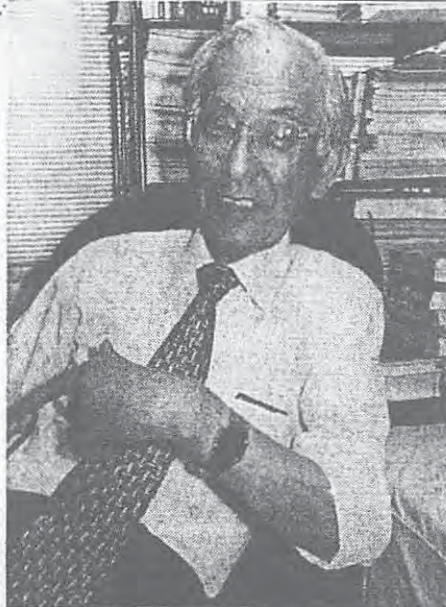
開かれた一九九四年に、市民レベルでのエイズ啓発イベントとして始まり、今年で五回目。

養護教諭によるエイズ教

育の事例発表(七日)、エイズ感染者・患者らが連携して呼びかけるシンポジウム「PWのネットワークを考える」(八日)、エイズ患者の生と死をとらえた大塚敦子さんの写真展

「いのちの贈り物」(全日)など、七十三の講座や展示が行われる。またソーシャルワーカーによるエイズ相談会(八、九日)も。

「このイベントを通じて皆さんと、エイズへの理解を深める時間を共有したい。親子での参加も大歓迎」と実行委員は参加を呼びかけていた。入場無料。問い合わせは横浜YMCA内の同フォーラム事務局 ☎045(662)3721。



横浜YMCA常議員 東京都出身。横須賀市へは小学生の時に引っ越した。横須賀YMCA運営委員長も。同市鶴が丘在住。69歳。

ひろ 瀬 誠さん

一九九四年に横浜で開かれた国際エイズ会議に合わせ始まった市民イベント「AIDS文化フォーラムin横浜」(かながわ県民センター、七、九日)がことし五回目を迎える。初回からメンバーとしてかかわってきたが、今回は初めて組織委員長に就任した。

「最初は燃え上がるが間もなく消える、という花火のような末路を心配していた。正直なところ、ここまでの息の長い活動になるとは夢にも思っていなかった」

振り返る言葉に感慨が込められる。「エイズ患者・感染者への差別、偏見をなくしたい」との思いから

エイズを通して優しさを広げたいですね

スタート。やがて「エイズを通じて生命の尊さ、教育の大切さを見つめよう」と幅が広がってきたという。それだけ多くの市民団体が参加するようになっただけに「まとめ役」の役割は重い。

小児科医師として親子二代で横須賀共済病院に勤めた。現在は市内で小児科医院を開業。診察は白衣姿ではなくいつも普段着。「子どもを緊張させてはいけない」との心遣いからだ。「気張らない自然体が一番」とも。その信条で組織委員長職に臨む。

YMCAがミャンマーへ派遣してきた医療奉仕の団長を五年連続で務める。フォーラムを終えた月末には、準備のためミャンマーへ飛ぶ。(横須賀支局・有吉 敏)

この人

幅広い視点でエイズを考える

文化フォーラム きょうから市内で

ボランティアや市民団体を中心として、エイズを幅広い視点から考える「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」(同組織委員会主催、県共催)が七日から九日まで、横浜駅西口のかながわ県民センターで開かれる。

ポランテアや市民団体一た少女を取り上げたテレビドラマ「神様、もう少しだけ」が上映される。九日午前十時から主演の深田恭子(15)と小岩井宏悦(18)が9日、横浜の深田は「偏見を持つ人も市のかながわ県民センターで行われた「AIDS文化フォーラム」で「私は偏見持たない」と力説。エイズ

七時からは高校教師が「避妊・性感染症を話せる関係」などと題した授業をする。七日前十時から午後六時からは、感染者の少年と家族、友人らの心の葛藤を描いた来映画「マイフレンド・フォーエバー」を上映する。九日午後一時から

エイズ題材のフォーラム始まる

横浜

エイズへの理解を深めてもらうことを目的とした「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」が七日、横浜市中区神奈川区のながわ県民センターで始まり、初日は約千五百人が参加、エイズに関するパネル展や映画上映会のほか、千葉市に住むHIV感染者の男性(23)が「HIV患者が支障なく生活できる社会にするべきだ」と訴えた。

同フォーラムは、横浜YMCAや横浜いのちの電話などの民間団体が九四年に組織委員会を結成し、年に一度、横浜市内で開催している。今回で五回目。

参加者の半数以上が二十代の女性。同フォーラム実行委員会の長沢勲事務局長

は「アメリカではエイズ患者の五分の一が二十代、若者に関心を持ってもらうことが大切だ」と、若者の参加を歓迎している。

きょう八日には、昨秋に感染告知を受けた二十五歳の男性が、参加者と酒を飲みながら語り合つた企画などが予定されている。問い合わせは同フォーラム事務局まで(☎045・662・3721)。九日まで。

1998年(平成10年)8月9日 日曜日

神 奈 川 新 聞

TODAY かながわ

薬害や人権考える

エイズ文化フォーラム

横浜

エイズに関する発表や情報交換などを目的とした「AIDS文化フォーラム in 横浜」が九日まで、横浜市中区常盤町のながわ県民センターで開かれている。感染予防や薬害エイズ問題などを訴える展示のほか、学校でのエイズ教育実践報告、同性愛者の人権問題を考える講演会など、さまざまな角度からエイズを取り上げている。横浜YMCAやかながわともしび財団などでつくるフォーラム組織委員会(広報課委員長の主催)。

会場ではまた、援助交際の末にエイズウイルス(HIV)に感染した女子高生を取り上げたTVドラマ「神様、もう少しだけ」を上映している。九日には主演



の深田恭子さんが来場。同じに参加している県平塚保健所に「健所の岩室神也保健予防課」が九日まで、横浜市中区常盤町のながわ県民センターで開かれている。感染予防や薬害エイズ問題などを訴える展示のほか、学校でのエイズ教育実践報告、同性愛者の人権問題などを考える講演会など、さまざまな角度からエイズを取り上げている。横浜YMCAやかながわともしび財団などでつくるフォーラム組織委員会(広報課委員長の主催)。

会場ではまた、援助交際の末にエイズウイルス(HIV)に感染した女子高生を取り上げたTVドラマ「神様、もう少しだけ」を上映している。九日には主演

スポーツニッポン

1998年(平成10年)8月10日(月曜日)



「私も歌った」フジテレビの人気ドラマ「神様、もう少しだけ」(火曜後9時)のヒロイン・深田恭子(15)と小岩井宏悦(18)が9日、横浜の深田は「偏見を持つ人も市のかながわ県民センターで行われた「AIDS文化フォーラム」で「私は偏見持たない」と力説。エイズ

「私は偏見持たない」と力説。エイズフォーラム「エイズ」トークの知識を保持する必要が「私は偏見持たない」性や援助交際など、トークは多岐にわたった。

また「歌手になりたかった」という深田に会場の約200人が「歌って」コール。ドラマの挿入歌「in the sky」の1節を披露した。

教師が学校でのエイズ教育の実践例を報告した「中学生のAIDS教育」。聴衆も教育関係者が多数を占めた



AIDS 教育

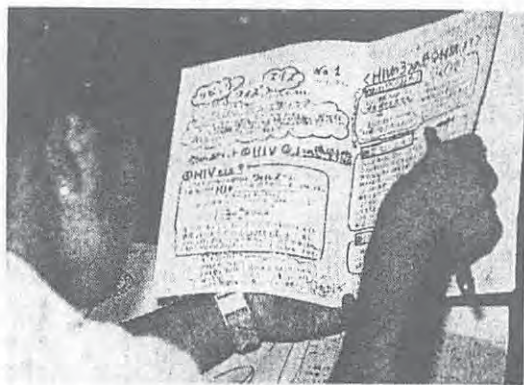
中学校の取り組み報告も

エイズは特殊な病気ではない。「対岸の火事」として考えず身近な問題としてとらえよう。そんな思いからエイズをさまざまな角度から取り上げた毎年恒例のイベント「1998 AIDS文化フォーラム」が

98フォーラム リポート

浜が七、九日、神奈川区鶴屋町のかながわ県民センターで開かれた。性に関する情報がいっせいに増え続けているという。エドドラマの出演者も駆け付けたフォーラムの様子をレポートする。

(戸塚支局・鈴木 博喜)



熱心に資料に目を通す参加者。主催者側は「徐々にエイズが身近な問題になってきた証拠」と分析

「エイズの基礎講座」「看 AIDSを考える」「ねえママ、護婦が語るAIDSへの取り組み」「聖書エイズのい...」各会議室では、市民団

参加50団体超える

視点、テーマ多彩に

ズを取り上げていた。参加団体は年々増えていき、今年は五十を超えた。中でも、二日目の午後に開かれた「中学生のAIDS教育」は、ひときり多くの聴衆を集めていた。

フォーラムの副実行委員長でもある泉平塚保健所の岩室神也保健予防課長を司会に、現役教師の室田悦子

さん(市立舞岡中学)と松さん(市立舞岡中学)と松さんと、多くの手が挙がった。教育現場でも、エイズが学校での実践例を報告。二人は「患者が、ごく自然にカミングアウト(告白)できる社会になるまでは教育は必要だ」「教師が押しつけるのではなく、生徒に考える機会を与えることが大切」などと話した。「教師の方はどのくらい当てる若者でいっぱいになっていますか」。司会者が質問



展示会場では、HIVウイルスの実体やコンドームの使用法などを説明したポスターも

た。フォーラムは一九九四年、横浜で国際エイズ会議が開催されたのを機に始まり、今年で五回目。横浜YMCAや横浜商工会議所、横浜青年会議所などをつくる組織委員会(広瀬誠委員長)の主催で、県が共催。横浜、川崎、横須賀の各市が後援した。主催者は「感染者の増加に対して社会の関心は低下し、エイズ相談検査の件数も減少している。決して楽観視できない」と危機感を抱いている。



県平塚保健所保健予防課長 スキーと花の撮影が趣味。気に入った作品は絵はがきに。横浜市旭区二俣川在住。43歳。

岩室 紳也さん

女子高生が援助交際の末にエイズウイルス(HIV)に感染した。そんな内容のテレビドラマが「神様、もう少しだけ」。医師として、エイズの専門的な内容の監修に当たっている。

「著書を一シーンで使いたい」。スタッフから詳しく話を聞く中で、医師で監修をする人を探していることを知り、「HIV感染と発病とは違うことなど、ミスがないように」と引き受けた。「友達のようにしめなど、当然起こりうる反応をきちんと描いている。非常によくてきた作品だと思います」

この人

エイズは「対岸の火事。ではないんですね

文化フォーラム in 横浜は、国際会議が一九九四年に横浜で開かれたのを機に始められた。「当時は、このようなドラマはできなかったでしょう」と振り返る。まだまだ、「対岸の火事」と考えられていた時代。自分自身もこの間、日本人女性のHIV感染者を治療するなどの経験を通し、エイズに対する認識がさらに深まったという。

戸塚支局・鈴木 博喜

生活

HIVの知識 次世代に伝えよう

AIDS フォーラム in 横浜



HIV感染を予防するために、男の子にもコンドームを着用してもらうためにはどう話せばいいかを考えた模擬授業＝横浜市で

ワークショップや模擬授業で関心高める

厚生省によると、今年六月、九月に比べ、約九万人も減った。現在のHIV感染者数は四千三百七十七人、エイズ患者数は千七百九十九人。感染者のうち、性交渉が原因と思われる人の割合は二百六十六人と三割を超え、感染する機会がより身近になっている。

アジア初めの「国際エイズ会議」が日本で開かれてから四年。この間、国内の感染者数は四千人を突破、中でも異性間交際によるHIV(エイズウイルス)感染者が増え、感染はより身近な問題となっている。しかし、危機的な状況とは裏腹に、人々の関心はだいたい薄れつつある。こうした中「AIDSフォーラム in 横浜」が開かれ、次世代を担う若者を感染から守るための提高や実践報告が相次いだ。

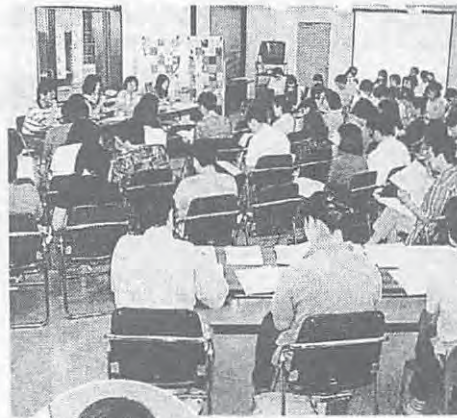
ボランティアコーディネーターの西浦うららさんらは「エイズって何?」と題したワークショップを開く。HIVの抗体検査を受けても結果を聞かずにいる人も多い実情を紹介し、それだけ恐怖感を与えるのはなぜか、感染者にかかわるボランティアや医療従事者の姿勢の問題はないかなど、もつ度考えてみようと呼び掛けた。

三年前から実施のセックス講座を想定した授業を試みている、横浜市内の養護教諭の山村まゆみさんが「一番たが気持で持ってないよ」「僕が病気で持ってるとしたら、いつか男の子にコンドームの着用を拒否されたらどうしますか?と、生徒として参加している来場者に聞いた。「セックスで感染する恐れがあり、予防にコンドームの着用が必要と知っていても、男の子に拒否されたら断り込んでしまおう。人間関係一切りで断るだけでもいいよ」と、知識を伝えるだけではなく痛感し」と山村さん。

来場者を交えた活発な議論もあり、ある高校教諭は「性体験を繰り返して、いながら、感染予防の意識が低い高校生もいる。抵抗を感じない生徒や親もいるだろうが、こうした効果的な予防教育が求められている」と訴えた。HIVと人権・情報センターは、家族にも感染を予防するために、感染者の姿を伝える本などを紹介した。

内容、テーマも多彩に 全国から5,700人が参加

第5回AIDS文化フォーラム



市民の立場からエイズを幅広い視点から考えようと、八月七日から九日までの三日間、「第五回AIDS文化フォーラム」が開催され、これまで最多の五千七百人の市民が参加し、この問題に対する関心の高さを示した。

「自立と共働に向けて」をテーマに、全国からエイズの問題にさまざまな形で取り組んでいるNGO団体、グループが集結。三日間の期間中に昨年を上回る七十六のプログラム、展示が行われた。今年は感染者自身が語るプログラムが昨年の三講座から八講座に増えたのをはじめ、教育関係者を対象とした青少年への



▲今年はじめに、ついでに今年報告会が開かれた。エイズについて深田恭子さん。

フジ系列のテレビドラマ「神様、もう少しだけ」(毎週火曜夜九時)が人気だ。エイズ問題を真正面から取り上げている。

「いま、なぜエイズなのか」。制作スタッフは周囲から「一時の祭りに過ぎない」と話す。

デスクワーク



「一時の祭りに過ぎない」。国際会議にかかわった記者の多くが思ったはずだ。私自身、その後のフォーラムの取材に力を注いだ。頼んだわけでもないのに、ことしは横須賀総局出身の記者がフォーローしてくれた。政治、経済、基地など取材テーマはさまざまだが、「継続は力」という点は共通だ。

(横須賀総局・有吉 敏)

エイズ教育の講座が数多く開催された。

参加者も昨年に比べて約千人増加したが、教育関係者や保健所関係者など全国各地からの参加が増え、全国的にもエイズに関する最新情報が得られる機会として定着してきた。期間中、HIVに感染した一人の少女の生き方を通してエイズの問題を問いかけるテレビドラマ「神様、もう少しだけ」が特別上映され、九日には主演女優の深田恭子さん

が、プロデューサーの小岩井宏悦さんと一緒に来場し、会場でライブトークを行った。深田さんは、「このドラマに出演したことによりエイズが身近になりました。命の大切さをわかってもらえたらうれしい」と感想を語った。なお今回も開催にあたっては、十四歳から七十代までの百四十人を超えるボランティアが準備から当日の運営にあたった。とくに十代、二十代のボランティアが多く参加した。

また熱い夏のAIDS文化フォーラムの季節が終わりました。五年前に横浜で開催された国際エイズ会議に関連して始ま

間、かながわ県民センターで開かれ、幅広い内容の七十六のプログラムが組まれました。手弁当で集まった参加者は、北海道から沖縄まで、さらに海外(ドイツ、アメリカ)

例行事としてすっかり定着し期待されています。このフォーラムが継続できていることの社会的な意味は、とても大きいと思います。それは毎年数千人の人たちが参加す

心とする市民のネットワークが支えているという点。これは、市民が地域で全国規模の催しを支えるとてもいいモデルになっています。

民のネットワークをしつかりと縫い付けていきます。私は、このスタイルがさまざまな課題やテーマに応用されることを提案します。

提言箱



大きい社会的意義

AIDS文化フォーラム実行委員 岡島 竜彦

それがボランティアとNPO(非営利組織)が担う新しい市民の時代への一つのアプローチとして、未来を作るものと確信するからです。

った、市民の手による、市民のためのエイズ会議(AIDS文化フォーラム)は、今年でもう五回を数えました。

今年も先月中旬の三日

も含め約五千七百人を数えました。会場運営は市民ボランティア百八十人が支えました。今では、市民団体のみならず全国の医療や教育の専門家たちからも、横浜の夏の恒

る国内では唯一の、全国規模のHIV/AIDSにかかわる情報交換と交流のかけがえのない場になっていくこと。また、この全国規模のフォーラムを、横浜YMCAを中

が、お互いに本当にやりたいこと、伝えたいことを独立採算で持ち寄り、共に働くことで、大きな力を生み出すこのスタイルは、個々の持つ力を

自立と共働の中で、AIDS文化フォーラムの輪は確実に広がっています。継続することが力を生み、未来を作ること学びながら。(横浜市中区、46歳)

Junction

ジャンクション

vol.13
'98.9.1

かながわ県民活動
サポートセンター
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター内
TEL.045-312-1121(代)
FAX.045-312-4810
9:00~22:00 年中無休

かながわ県民活動サポートセンター通信



「私の中にはずっと、人はその人生に『何を成したか』が問われるもの、
という考えが根強くあった。結果を出すこと、形あるものを残すことに
こだわっていたように思う。だが、ジェニーと出会い、より大切なのは
『いかに生きたか』なのだと思えるようになったいま、生きることも死ぬ
ことも、少し楽になったような気がしている。」

写真・文…『いのちの贈りもの』(大塚敦子著)より

HIVに感染した女性ジェニーは、夫と動物に囲まれた日々を過ごした <AIDS文化フォーラム参加「大塚敦子写真展」から>



今年もサポートセンターでAIDSを考える夏が終わった。「エン
パワーメント～自立と共働にむけて～」をテーマに開催された
「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」。76のプログラムには、
北海道から沖縄まで全国37都道府県からの参加がみられた。ドイ
ツ、アメリカなど、外国からの参加もあった。医療、教育、福祉、
セクシュアリティ、そしてAIDSとボランティア活動など前年以
上に多様な内容で展開された今年のフォーラム、運営を支えたの
は14歳から72歳までの市民ボランティア141名。特に10代、
20代の若者の活躍が目立った。8月7日～9日の3日間に会場に
足を運んだ入場者は5,694名、前年を1,000名も上回る数だった。

◆ CONTENTS ◆

- 表紙 1998 AIDS文化フォーラム in 横浜
- 2-3P 特集Ⅰ かながわの災害ボランティアネットワーク
- 4-5P 特集Ⅱ 情報掲載メディア
- 6-7P FACE to FACE・鑑賞のおと・耳より情報トクトク情報
- 8P INFORMATION

■ 展示場・展示コーナーから ■

- 1/9階 下宿屋バンク (グループハウス・コレクティブハウス) フェア
10/4 (水) ~10/7(土) <グループホーム研究所>
- 1階 ふれあい写真展
10/29 (金) ~11/1 (日) <神奈川県腎友会>
- 9階 イラスト&写真展「微笑みはじめた! ?ストリート・チルドレン」
11/14 (土) ~11/23 (祝) <メタノイア>

ボランティアの時代にさきがけて ～AIDS文化フォーラムから学ぶ～

あれからもう4年もたった。アジアで初めての国際エイズ会議が1994年横浜で開催され、大きな関心と熱いアピールが横浜から世界へおくられた。そして4年後の1998年、エイズをとりまく社会状況はどう変わったのだろうか。

国際エイズ会議の開催に並行して“市民版・草の根エイズ会議”がAIDSに関心のあるボランティアやNGOによって開催された。これがAIDS文化フォーラムであり、今日まで続いている。専門家向けというよりは、エイズに取り組んでいる個人や団体が草の根レベルで膝を交え、行政からの直接的援助は受けず、自立したボランティアや団体の支えで、財政も、プログラムも、運営もみんな手弁当で支えた市民参加型のフォーラムである。今ではフォーラムへの参加者は北海道から九州・沖縄まで広がり、1998年は5600人も参加者を数えた。これだけの規模と内容のエイズに関するフォーラムは、全国でもこれにかわるものがないといわれる。

国際会議当時の継承事業がほとんど消えて行く中で、ボランティアの手で5年も存続し続けているAIDS文化フォーラムのあり方は、これから日本でスタートしようとしているNPOとボランティアの時代へのパイオニアであろう。

では何故ボランティアの力だけで今日まで続いているのか。

それは、エイズが生み出す社会的問題こそ、人間と社会の持つ問題を提示しているからである。エイズは現代を理解するためのキーワードのひとつであり、社会の差別や問題を映し出す鏡であったことは、始まりから今日まで変わらない。AIDS文化フォーラムのプログラム領域の広がりがあることを証明してくれる。AIDS文化フォーラムでは、エイズと教育、医療、看護、社会、女性、薬害、文化、人権、企業、ボランティア、セクシュアリティ、心、死の問題、性の開放、同性愛等の問題が取り上げられた。そしてボーダーレス時代の今、エイズは日本国内だけでなくグローバルな問題として、エイズと貧困、買春、経済力と医療格差、偏見、文化バリア等の領域に広がりを見せている。

AIDSというキーワードについて人間として取り込む関心領域は、企業や行政だけでは所詮取り込みにくい。これを市民の手で、ボランティアにより実現することは、一番ふさわしいし、容易なのである。

このフォーラムに関わった実行委員は「エイズに関するこのボランティア活動を通じて、社会の様々な問題が見えてきた。自分の中の偏見や差別を直視し、学ばせてもらう機会になっている」と語っていた。国際会議以後はエイズへの関心がうすれてきたといわれている。その中でエイズについて地道に取り組み、市民レベルの感覚で、資金集めに苦心する等の問題を含みながらAIDS文化フォーラムは継承されている。ボランティアの手で継続してきたからこそ、今日まで続いているのである。横浜で開催した国際エイズ会議をきっかけに、エイズに関する問題を市民の視点で身近にとらえようとしたこのフォーラムへの期待はますます膨らみ続けていくことだろう。

市民によるボランティアの時代、その方向が日本国内だけでなく、アジアやアフリカのようなボーダーレスな地球規模の課題として、共に助け合い、分かち合うことができるようにしてゆきたい。それはまさに2000年からのボランティアとNPOの新しい時代への期待と課題でもある。

1998 AIDS 文化フォーラム in 横浜
実行委員長 長澤 勲

「1998AIDS文化フォーラム in 横浜」を支えた人・グループ (順不同・敬称略)

組織委員

唐崎旬代 川本謙次 小久保一利 榊原高尋 田代正樹 濱尾文郎 広瀬 誠

実行委員

長澤 勲 岩室紳也 吉永陽子 岡島龍彦 細井保路 多田由加里 小島隆士
 濱村嘉允 笠原 隆 藤沢智晴 齋藤 誠 高村文子 石山志津子 矢部尚美
 星野宗吾 千代木ひかる

ボランティア (11才~72才)

| | | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 今井裕子 | 岩部可奈 | 内田早苗 | 大泉佳子 | 小渕朋子 | 片岡繁花 | 金木結花 |
| 北島久枝 | 小林浩子 | 小林泰子 | 小林有紀 | 鈴木美知 | 千葉ハツ子 | 塚本浩紀 |
| 塚本ふたば | 角田幸子 | 中野里美 | 原 真冬 | 長谷川美希 | 松井利絵 | 望永和美 |
| 山本紘子 | 山本真紀 | 山本真澄 | 横溝道子 | 渡辺幸子 | 渡辺奈央 | 寺地 望 |
| 高橋けい子 | 柚木秀二 | 横森美和 | 瀬沼寿子 | 新床澄江 | 佐々木良子 | 田中玲子 |
| 平田京子 (川崎市) | | 吾妻芳子 | 白石裕子 | 飯田祝子 | 木下涼子 | 田口 努 |
| 田口真奈 | 吉田 登 | 里吉時夫 | 曾布川昭 | 五十嵐理郎 | 松浦芳文 | 木下芳余 |
| 重村英子 | 石井町子 | 中川直子 | 本間健太郎 | 古田正一 | 小松淑子 | 佐々木留美子 |
| 平田京子 (横須賀) | | 益田ゆり子 | 菊池燕子 | 桑島和子 | 倉田伸子 | 小松智恵子 |
| 名嘉涼子 | 妹尾悦子 | 浜 美穂 | 小川初代 | 小林良子 | 窪田成晃 | 水谷 武 |
| 柳町敦子 | 浜田有希子 | 武田純子 | 近藤由佳 | 中野幸恵 | 佐藤奈津子 | 中田理奈 |
| 星原たつ子 | 上野雅子 | 佐藤ツユ子 | 佐藤喜実子 | 岡村ちず | 塩野玲子 | 角田順子 |
| 高倉藍子 | 高倉美樹子 | 高倉幸子 | 小玉かほり | 吉田有沙 | 白井清江 | 金子真由美 |
| 荒井絵美子 | 進藤真紀子 | 仲秋あゆみ | 砂辺美樹 | 三田奈津子 | 武田麻友子 | 坪田さつき |
| 高島しずこ | 嗟峨 明 | 弥延友記子 | 遠藤 渚 | 木村輝美 | 村本俊子 | 森 尚美 |
| 吉井 唯 | 会田 涉 | 脇 加津枝 | 新田典子 | 長田明子 | 島田玲子 | 津久井喜代子 |
| 長井竜太郎 | 河野泰雄 | 蛸井さく江 | 吉木聖子 | 原田知世乃 | 金子幸代 | 椎名美沙 |
| 塚田和香子 | 中村朋代 | 三浦祐美子 | 犬東辰美 | 西子秋佳 | 大崎和子 | 熊淵可奈子 |
| 渡辺友美 | 堀藤克明 | 麦島 新 | 長倉秀幸 | 蠣田恵美子 | 千川順史 | 石川真富果 |
| 大内絵里 | 渡辺容子 | 広野剛司 | 山本真希 | 佐々木敏真 | 沼田雅子 | 清田真弓 |
| 永池俊也 | 神戸 藍 | 小林泰輔 | 落合雅樹 | 岩室享子 | 神山幸恵 | 本村弥恵子 |
| 安斉 耕 | 杉本貴子 | 石黒由美子 | 藤江直樹 | 吉川明子 | 吉永重成 | 太田哲平 |

資金・その他

- | | |
|--|---|
| (1) 資金援助: カトリック横浜司教区福祉委員会 山手カトリック教会 横浜商工会議所エイズストップ基金 かながわともしび財団 横浜商工会議所 横浜YWCA セルパーク西蒲田店 長澤 勲 村本俊子 | エイズ予防財団日本エイズストップ基金 カトリック横浜司教区 横浜いのちの電話 横浜青年会議所 横浜YMCA 岩室紳也 広瀬 誠 吉永陽子 |
| (2) 物品提供: 株式会社ユニマツトコーポレーション 小岩井乳業株式会社 | |
| (2) その他: 京浜急行電鉄株式会社 東京急行電鉄株式会社 フジテレビジョン | |

「1998 AIDS文化フォーラム in 横浜」報告書

発行日：1999年7月25日

編集：1998 AIDS文化フォーラム 報告書作成委員会

発行者：山根誠之

発行：AIDS文化フォーラム実行委員会事務局

横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内

TEL：045-662-3721

FAX：045-651-0169

印刷：東京コロニー